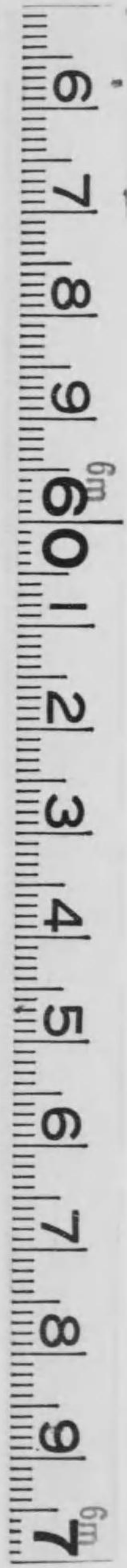


31
637



始



15.11.22



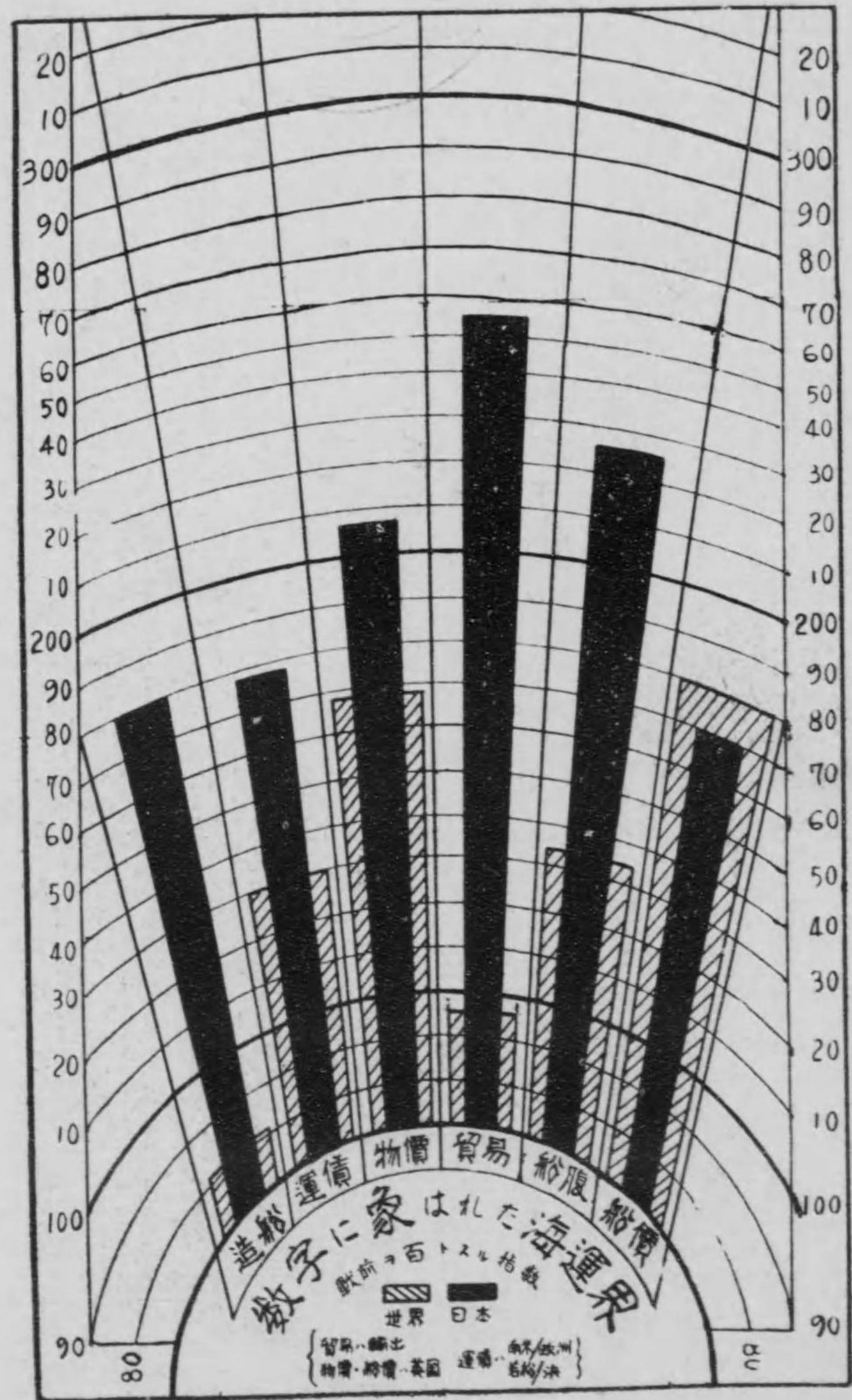
THE MARINE ALMANAC

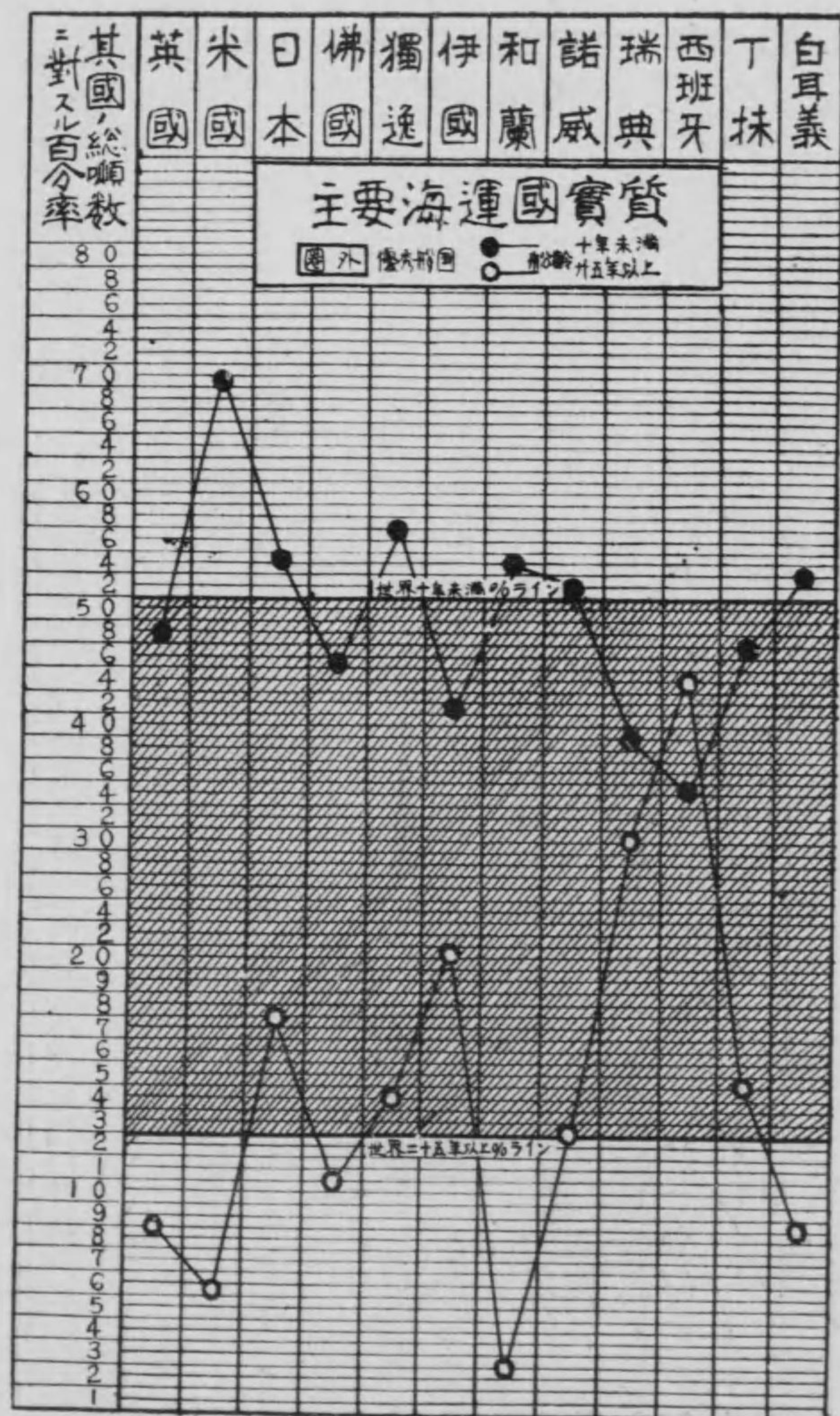
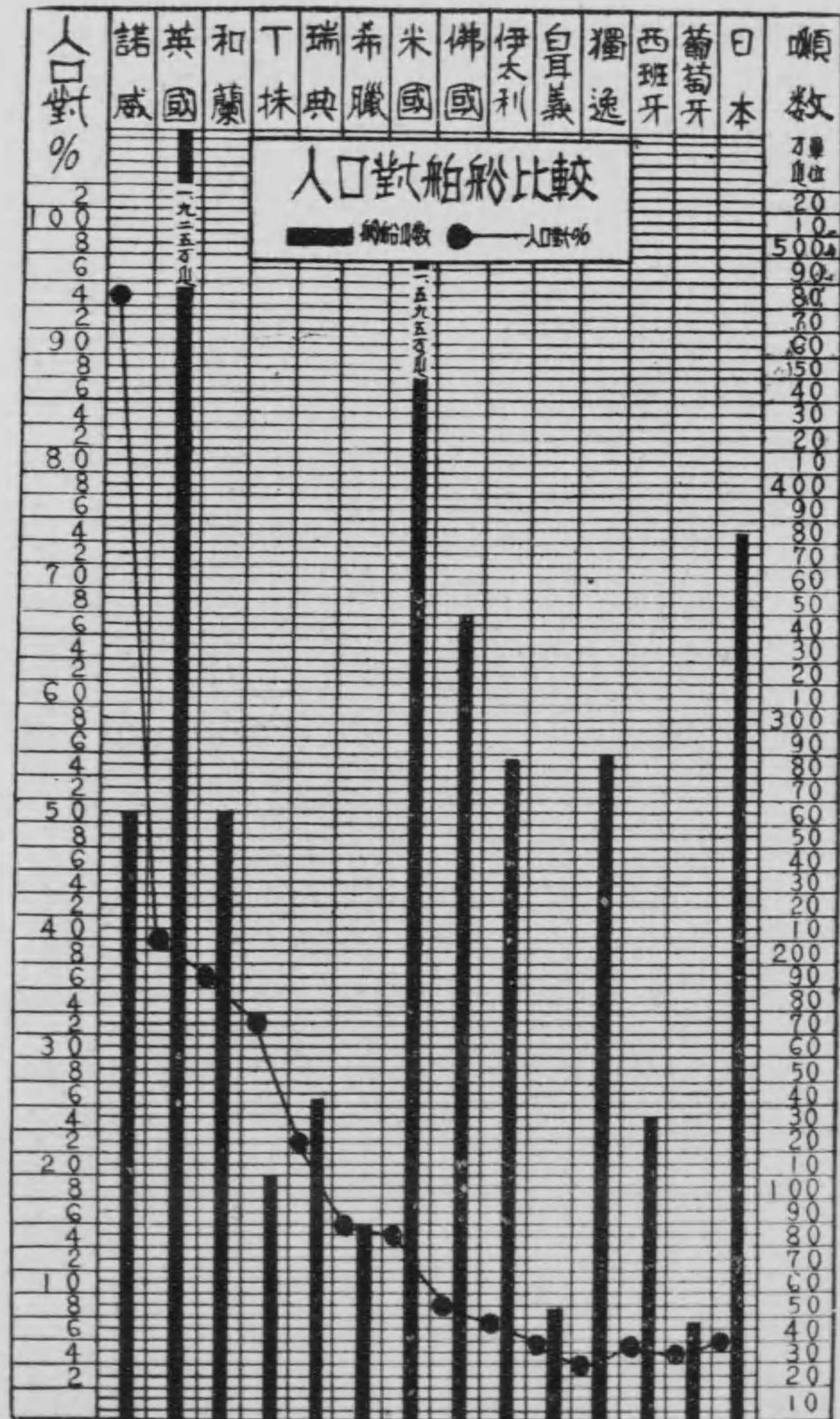
海 事 年 鑑

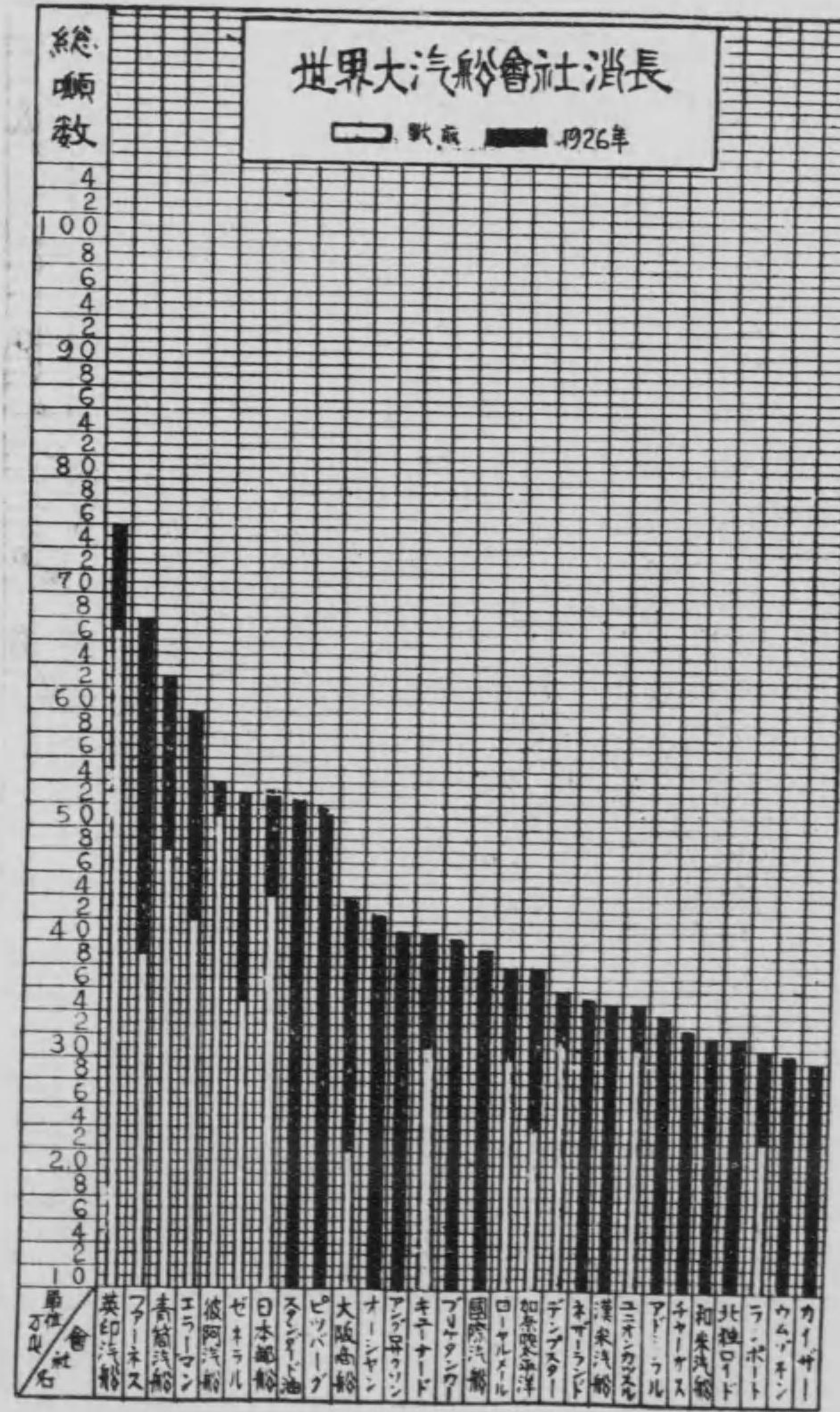
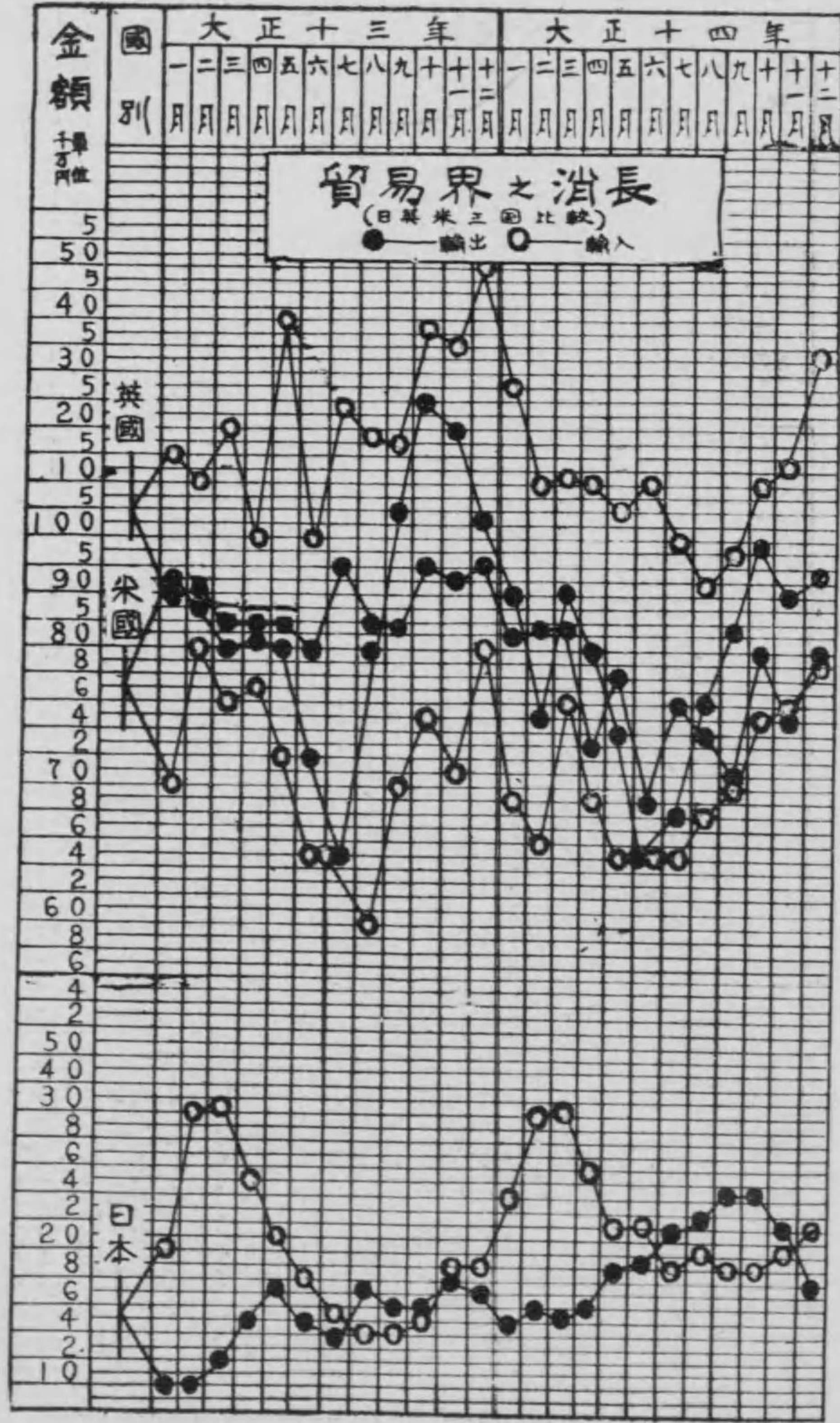
大 正 五 十 年 版

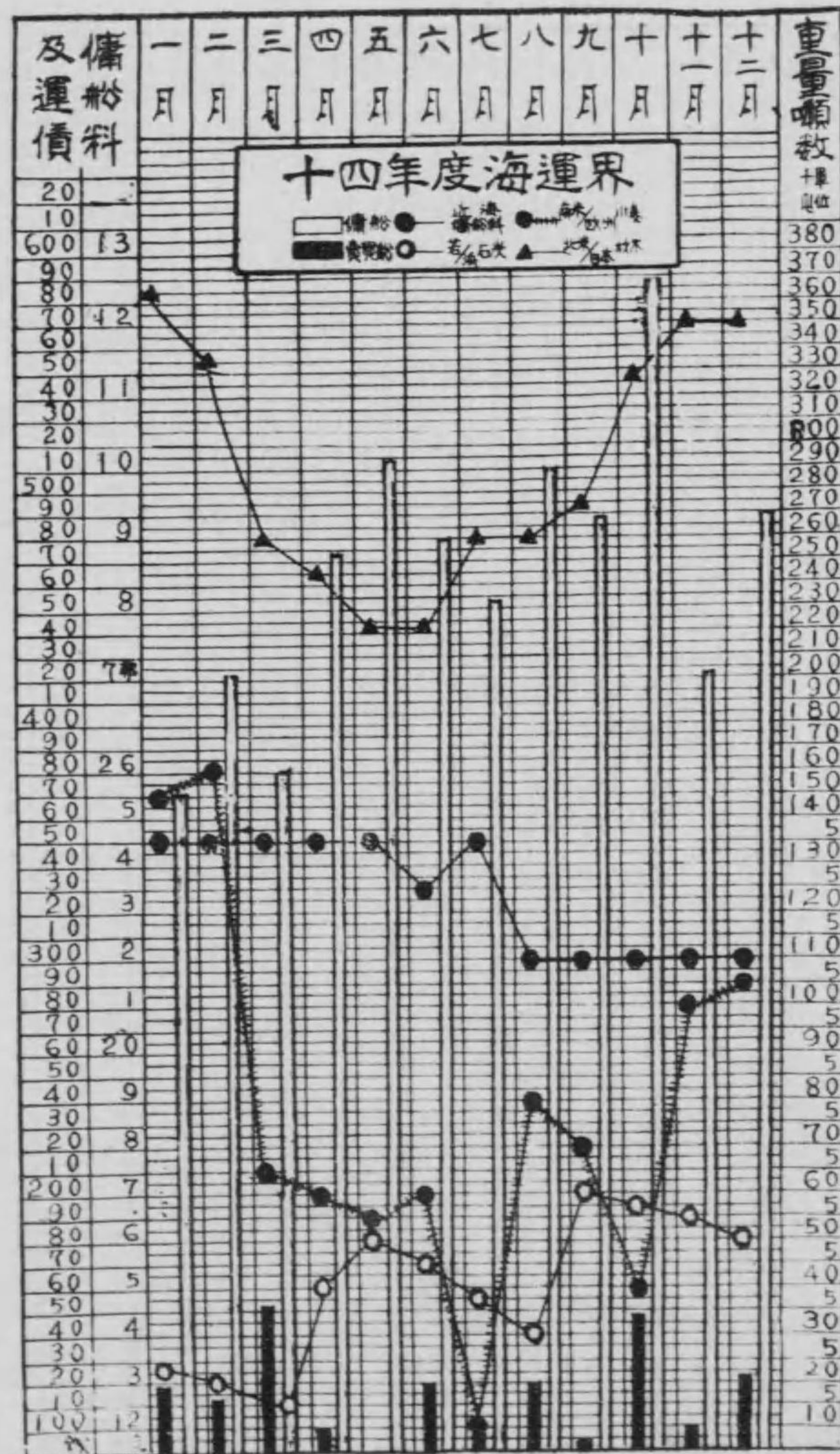
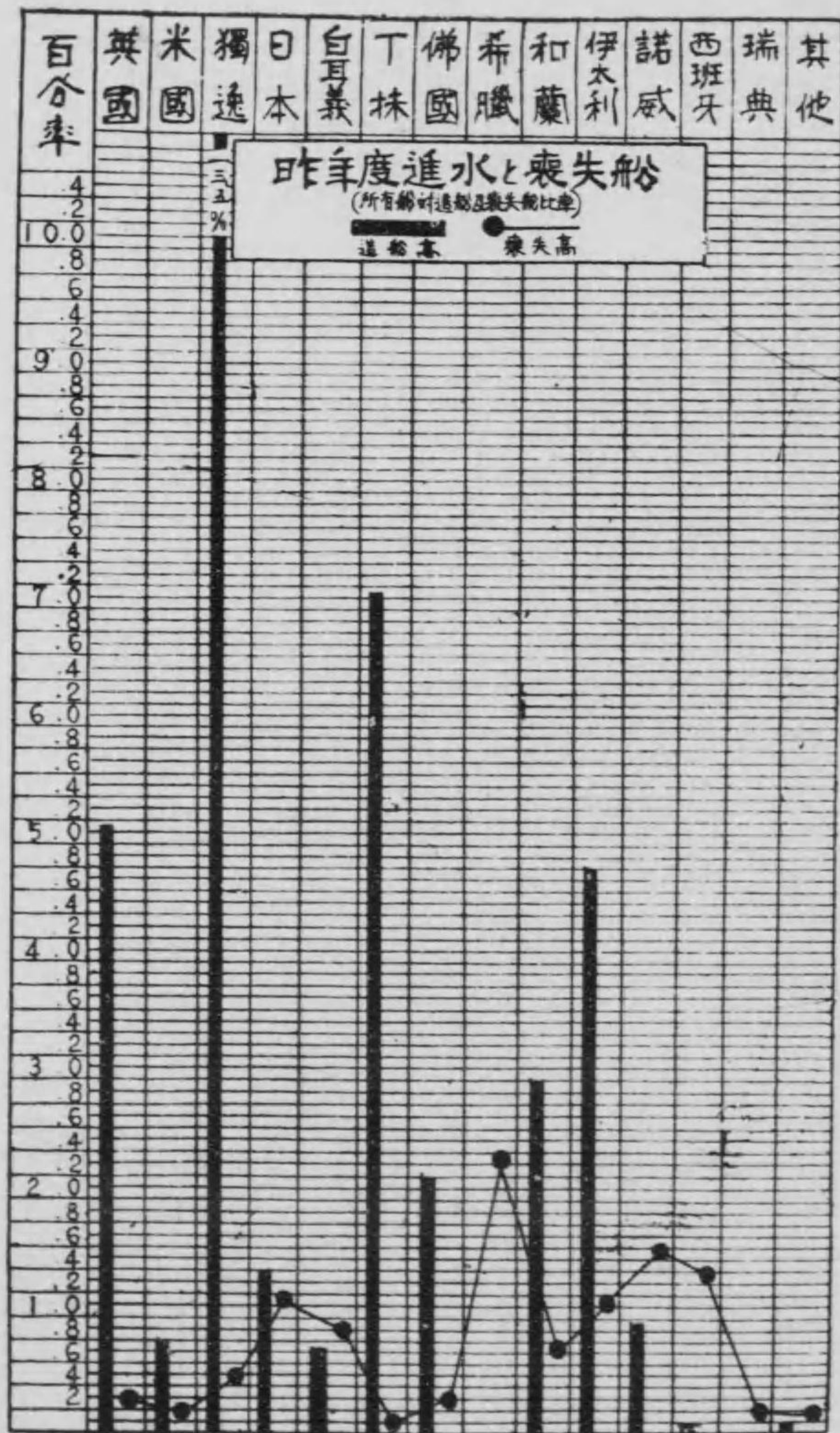
海 事 彙 報 社 發 行

大 正
15. 9. 13
內 交





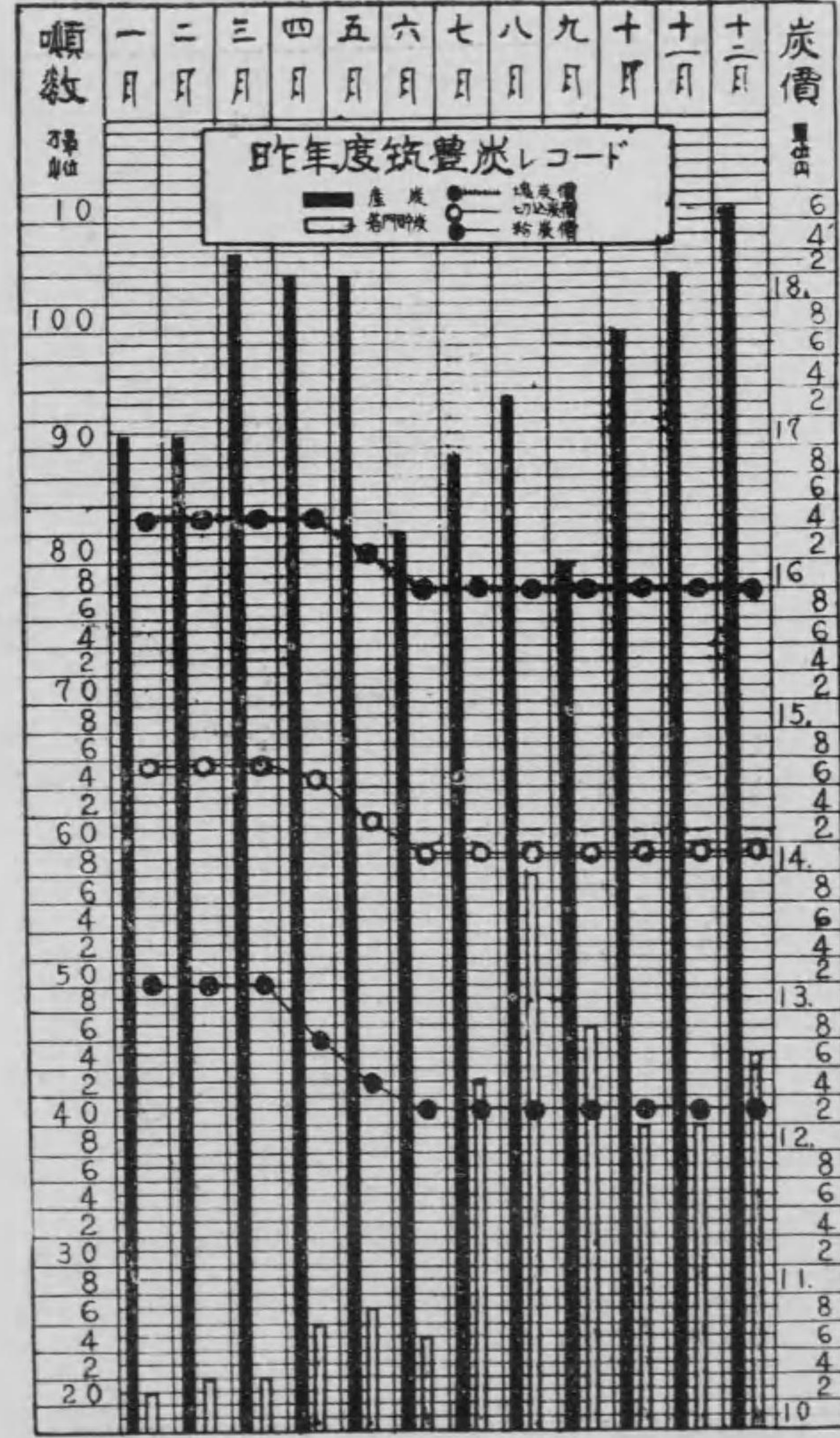




序 言

世界の海上權を握り海運貿易市場に其覇を唱へて歐洲の盟主たる彼の英島帝國と恰も其地理的國情並に四圍の情勢全く酷似せる我國は當然太平洋上の航海權を掌握して東洋の主權者たらざる可らず偶歐洲戰亂を機會に我海運業は非常なる發展を遂げ造船海上保險以下各種保護機關の整備亦顯著なるものあるも其内容即ち基礎的發展に至つては頗る貧弱なるものにて今や世界平和の海運戰は倍々酷にして極度の悲境に陥り來の挑戰と英の角逐は遂に日英米三國の爭覇戰を現出し更に佛獨船の配船後に亦各國の保護政策は益々濃厚を加へ我航權の維持擴張頗る悲觀すべき情勢にあり此危機に際し我當業者の覺悟と準備や如何蓋し其内容に想到せば未だ以て幼稚到底英國の敵にあらず亦以て國防を維持するに足らず

我海運の幼稚は徳川三百年の鎖國政策が國民の海外發展を阻止せしめたるに相違なきも亦一面海運思想を啓發し海運業者を指導誘掖奨励すべき幾多保護の設備之に伴はざるに基因す其要求に促



されて創刊せる弊社發行の「海事彙報」は海事界専門誌とし創刊十年漸く讀者の信頼を荷ふに至れるも未だ以て讀者の要望を満足せしむるに至らず幾多改善内容充實の急務なるものあり夙に弊社は調査部を設け世界百般の趨勢を調査し海事當業者の活動的發展の指針たる參考材料を蒐集し其材料を隨時海事彙報誌上に掲載し一面纏りたるものは之を續々書籍として出版公鴻に提供し以て海事知識の普及に努めんとす本書の編纂亦此主旨に出でたるものにて其内容は別項目次に詳記せる如く昨年度の海事界を描寫し更に海事百般の消長を摘録せる歴史的統計を蒐録し尙末尾に海事關係業者名鑑及會社役員録を加へたれば一種の(MARINE ALMANAC)として海事關係者の日常必携參考書たるを得ば蓋し編者の幸とする所也

大正十五年六月

海事彙報社調査部

凡 例

- 一、本書は毎年一回定期發行にして其第九輯に相當す
- 一、本書は大正十四年度の世界海事界を描寫し併て統計的累計趨勢を摘記し世界海運歴史の一部を繕れるものなり
- 一、本書は當業者の日用便覽を加味し末尾に海事關係者人名鑑及會社役員録を挿入せり
- 一、本書に網羅せる材料は各方面より蒐集せる爲め勢ひ其統一を缺ぎ且戰時中の統計は殆んど正確なる材料の據るべきものなきを以て自然不正確の點なきを保せず
- 一、本書編纂は昨年末現在を標準に其材料を集めたるも最後の締切を本年三月下旬に延期せし爲め其後改訂に變更を加へ出來得るだけ最新を期したり
- 一、本書末尾附録の名鑑は各方面より出來得るだけ精密に調査せしもの又役員録は主要會社へ豫め標準を定め照會せしも其回答は希望の如くならず或は回答未着の向等ありて折角の企も意の如くならず多少不統一且正確を缺けるを遺憾とす

海事年鑑目次

△我海運の發展趨勢……………	一	△海事通覽……………	五六・六二
△世界列國の大勢……………	二	△貿易……………	六三・八四
面積、人口、歳入、歳出、輸入、輸出、國債、金準備、紙幣……………	二	(一)世界農産物産出高……………	六三
△世界鐵道哩程……………	四	(二)世界砂糖主要産地別……………	六四
△世界物價趨勢……………	四	(三)同上(甜菜糖)……………	六五
△内外國債發行總額……………	五	(四)世界棉花産額……………	六六
△内外貨幣換算表……………	六	(五)世界紡績錘數……………	六六
△各國度量衡換算表……………	七	(六)本邦鹽需要高……………	六七
△世界標準時表……………	八	(七)世界砂糖消費内容……………	六七
△海事法令拔萃……………	五	(八)米輸移出入高……………	六七
一 船舶法……………	九	(九)戰後世界貿易系統變遷……………	六八
一 船舶法施行細則……………	九	(十)世界小麥荷動狀況……………	七二
		(十一)重要品輸出入番附……………	七三
		(十二)重要品輸出入番附……………	七三
		(十三)日、英、米外國貿易累年月表……………	七四
		(十四)輸出重要品累年比較……………	七六
		(十五)輸入重要品累年表……………	七七
一 船舶積量測定法……………	一四		
一 船舶検査法……………	一六		
一 船舶検査法施行細則……………	一七		
一 船員法……………	二八		
一 船員法施行細則……………	三一		
一 船舶職員法施行細則……………	三二		
一 船舶職員法……………	三六		
一 海員懲戒法……………	三七		
一 職員試験規程改正……………	三八		
一 海員試験規則……………	三八		
一 水先案内……………	四〇		
一 船員職業紹介法……………	四二		
一 同施行細則……………	四三		
一 一ツ夕規程……………	四五		
一 燈臺位置……………	五二		
一 世界主要國燈臺數……………	五七		
一 本邦累年燈臺數……………	五七		

(十五) 對外國別貿易年表	七八	一殖民地汽船現在數	一一二	一上海中心航路	一五一
(十六) 輸出入貿易船國別表	八一	一本邦汽船速度力調	一一二	一大連中心航路	一五三
(十七) 五港入港船舶	八三	一本邦船舶航路內容	一一四	一巴拿馬運河通過統計	一五三
(十八) 開港場	八四	(二) 航路	一一四	一蘇士運河通過統計	一五四
△海運	八五	一世界各海洋面積	一一五	一世界主要海運國入港船	一五四
一十四年度海運大勢	八五	一世界主要島嶼及面積	一一六	一日本各港入港船	一五五
一日本船主番附	九一	一世界主要港哩程表	一一七	一會社別經營航路內容	一五七
一世界大船主	九三	一各國海運保護政策	一一九	一十四年度不定期船配船	一七二
(一) 船舶	九六	一遠洋航路補助法	一二七	(三) 運賃	一七四
一世界船舶噸數	九六	一補助命令航路	一二九	一世界標準運賃	一七四
一世界船舶年齡比較(日、英、米)	九八	一航路內容及受命者	一三〇	一定期航路運賃	一七七
一世界船舶國別年齡比較	一〇三	一航路補助內容	一三二	(四) 船價	一八二
一世界快速力船國別速度力別表	一〇六	一世界汽船會社主要航路	一三七	一本邦船價表	一八二
一世界船舶燃料別比較	一〇八	一日本中心內外競爭航路	一四四	一英國新造船價累年月表	一八三
一世界汽船增加趨勢	一一〇	一定期船舶船	一四六	一買賣船月別表	一八四
一本邦海運發達趨勢	一一〇	一遠洋航路優劣	一四七	一本邦對外買賣船	一八六
一本邦汽船月別現在調	一一一	一新嘉坡中心航路	一四八	一輸出入船明細	一八六

(五) 備船	一八七	一公稱馬力	二〇二	一世界鐵礦包藏量	二一七
一本邦備船料消長	一八七	一本邦標準船型	二〇二	一世界產鐵趨勢	二一八
一英國備船料消長	一八八	一普通特別標準船型	二〇三	一英、米、獨製鐵能力比較	二一九
一備船成約月別記錄(十四年中)	一八九	一本邦主要造船所標準船型	二〇三	一列強鐵消費額	二一九
(六) 海員	一九四	一英、米、佛、伊標準船型	二〇四	一本邦鋼材需給趨勢	二一九
一海員現在數	一九四	一世界造船所數	二〇四	△保險	二三三
一海員事務成績	一九四	一最近五ヶ年間世界造船趨勢	二〇五	一保險會社調(內國)	二三三
一海技免狀受有者別	一九五	一世界造船船型別隻數	二〇六	一海上保險契約趨勢	二三三
一海員審判件數	一九五	一世界建造船種別	二〇七	一十二年度海上保險成績	二三四
一海技受驗者	一九六	一世界建造中船舶	二〇八	一世界遭難趨勢	二三六
一船舶職員登錄	一九六	一本邦造船所	二〇九	一世界海難件數明細	二三七
一世界主要國海員給料甲乙	一九七	一本邦累年造船成績(上下)	二一〇	一本邦海難船及海難者累年表	二三七
△造船	二〇一	一大正十四年度造船成績	二一一	一十四年度本邦汽船遭難明細	二三八
一船舶資格	二〇一	一船質別船舶經濟比較	二一二	△石炭	二三三
一積量測度	二〇一	一本邦累年造船用鋼材價格	二一五	一世界石炭需給	二三三
一總噸數登簿噸數	二〇一	一本邦新造貨物船平均價格	二一六	一世界の石炭產額	二三四
	二〇一	一歐米造船職工勞銀比較表	二一六	一世界の石炭產額	二三四
	二〇一	一造船職工賃金	二一七	一英炭輸出	二三五

一米炭輸出國別……………二二六
 一本邦炭界趨勢……………二二六
 一筑豐炭成績……………二二八
 一筑豐炭內外需要別……………二二九
 一世界給炭標準價……………二四一
 一十三年度炭價……………二四二
 一世界石油產額……………二四四
 一船舶用燃料油價……………二四五
 一世界重油供給港……………二四五

△海事會社事業成績
 一海運會社……………二四九
 一造船會社……………二五〇
 一海上保險……………二五〇
 一本邦汽船會社營業成績……………二五一
 一十三年度關係會社株價……………二五三

△新設會社……………二五五
 △貨物運賃建標準……………二五七

◇附 錄

(一)官公署團體職員錄……………一
 (二)會社役員錄
 汽船會社……………一七
 造船會社……………四七
 保險會社……………六一
 (三)船主……………七七
 (四)海運業者……………八七
 (五)造船業者……………一五
 (六)保險業者……………一九

我國運の發展趨勢

(註) 單位千、物價は指數百、十一、二年入口は不明諒 (歐洲戰役前後)

年	人口	歲出	貿易	正貨	公債	物價	汽船	造船
三 年	五四,一四三	六四八,四三〇	入 四,六四四	三四一,〇〇〇	二,五六五,七〇〇	一〇〇	一,五二八	八五
四 年	五四,九三四	五八三,二六八	出 一七五,八五七	五六〇,〇〇〇	二,五二四,六二四	九九	一,五七七	四九
五 年	五五,六三七	五九〇,七九五	出 三七一,〇四一	七四四,〇〇〇	二,四八二,三二七	一一	一,八四七	一五四
六 年	五六,三三五	七三五,〇〇四	出 五六七,二二三	一,一四四,〇〇〇	二,五〇三,五七一	一三三	一,九三一	三五〇
七 年	五六,六六七	一,〇一七,〇三五	出 二九三,九五七	一,五八八,〇〇〇	二,五二四,三四七	一七九	二,三九七	四八九
八 年	五七,二三三	一,一七一,三三八	入 七四,五八五	二,〇四五,五〇〇	二,六九五,一三九	二九二	六,七九〇	六一
九 年	五七,九一八	一,三九九,九七六	入 三八七,七八〇	二,一七八,〇〇〇	三,一三三,〇三八	二三八	二,九五二	四五六
十 年	五八,六九七	一,四八九,八三六	入 三六一,二二七	二,〇八〇,〇〇〇	三,五一一,六九三	三〇一	三,一六七	三三七
十一年	一	一,五〇一,四八五	入 二五三,八五七	一,八三〇,〇〇〇	三,八二五,〇〇〇	二二一	三,二五五	八三
十二年	一	一,三三六,一七二	入 五三九,三四四	一,六五三,〇〇〇	四,〇三八,二五〇	二二一	三,三三一	七三
十三年	五九,一三八	一,四九〇,五三三	入 六四五,〇〇三	一,六〇三,〇〇〇	四,四九五,二四七	二三四	三,五二八	七二
十四年	五九,七三六	一	入 二六七,〇六八	一,六〇三,〇〇〇	一	二一〇	三,四九六	五六



世界列國の大勢

本調査は千九百廿三年の發行に係る英國ステーツマンズ、エイヤーブツク金準備及紙幣一九二三年ウオールド年鑑に據るものなり、面積人口は殖民地加算他は本國のみ亦日、英、米貿易は千九百二十四年度なり

國名	面積 (方哩)	人口 (千人)	歳入 (千鎊)	歳出 (千鎊)	輸入 (千鎊)	輸出 (千鎊)	國債 (千鎊)	金準備 (千鎊)	紙幣 (千方鎊)
露西亞	八、二七五、一三〇	一三二、四四三	—	—	—	—	—	九、二五四	二八、四三三
和蘭	一、五三八、〇九〇	一〇、四九六	一〇五、四九六	七八、七八	一三六、〇三三	九三、八四五	二〇八、五二二	四八、一三八	四五六、二〇五
白耳義	九二、三九八	一八、四八二	一〇、九二七	八九七、七〇	一三七、四四〇	九一、九七四	七三六、八三三	一七、四二四	一、八一、二〇〇
匈牙利	三三、三三二	七、九四六	五、二一四	七、三三三	—	—	一四、七二七	—	三、九三、〇〇〇
埃太利	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伊太利	一、〇八八、七八一	四七、四三五	六九九、八九六	九九九、五五一	六三四、四八五	三二二、一五二	一四一、七二〇	五〇、九一八	四、二四六、一七四
獨逸	一八五、八八九	五九、九五八	七〇、九三九	七〇、九三九	二九〇、〇九三	一八八、〇〇一	六三、一九九	二二、七八〇	三、七三、七二三
佛蘭西	三、七八〇、四〇九	九七、六八二	八八八、〇五六	九九七、二八〇	三三六、六三三	三、〇六〇、〇〇〇	六三、一九九	三九、七九五	三、三五、〇〇〇
英吉利	八、五〇一、一九七	二九、九六六	一、四五、九八四	一、一九五、四三七	一、二八〇、四五七	九三三、五〇〇	七、六三四、〇〇〇	四二、六一八	二、六〇、九五四
支那	四二、七七、一七〇	四〇〇、〇〇〇	六一、九七〇	六一、九七〇	二五八、八四七	一八三、九二八	二二二、八三三	—	六七、三八二
日本	二六〇、七三三	七九、三〇六	一四〇、九〇五	一、四〇九、〇五三	二四五、一八二	一八〇、六八一	四九、四三三	二五、〇〇九	八七四、七三四
國名	—	—	—	—	—	—	—	—	—

西班牙	三二五、三三三	二二、〇九一	七、五九五	九一、〇九九	五〇、四五五	三三、四九七	四七八、五三三	一〇〇、二七七	八三四、二〇〇
葡萄牙	九七一、七一四	一四、六八五	二六、九一三	五二、八〇三	五二、一一〇	二四、八七四	三三、八三二	二〇〇	六五四、二三〇
勃牙利	三九、八四一	四、九一〇	三、七〇一	三、五四七	八八、五三五	六三、七一九	三、八二三	一八〇	四七六
羅馬尼	一三三、八二二	一七、三九三	三〇八、三三九	三〇八、三三九	一四三、三二七	四、一五五	五五、七四三	—	七〇〇、八二七、〇〇〇
土耳其	二二〇、一五四	一三、一〇〇	三〇、九三四	四七、二四五	一三三、九六六	四三、二九六	一五三、〇二七	—	七〇三
希臘	四一、九三三	五、四四七	五、九五〇	五、九五〇	六六、四九四	三三、六七九	四六、八九三	六、九四〇	二六六
塞耳維	九六、一三四	一三、〇一七	四九、九二五	四九、九二五	—	—	七四、三一四	三九〇	—
瑞西	一五、九七六	三、八八一	一六、八八六	二、一四二	六二、二二四	六三、九八四	二〇八、三〇〇	三、三一一	二〇〇、四八〇
丁抹	五七、四〇八	三、三二八	二四、六六六	二七、七〇三	六二、二六六	五、二五〇	一六六、九〇〇	二、五六〇	一四九、一九六
瑞典	一七〇、〇三五	五、九〇四	六、五七九	五、五七九	六四、〇二〇	六〇、七九八	七九、〇八一	一四、九九六	二〇六、六四七
諾威	一四、九六〇	二、六四七	三九、八三七	三九、八三七	一六七、八三三	六五、七三三	六七、八一	八、二三四	一一九、三四〇
米國	三、一四一、四九二	一七、八五九	一、一六、九〇三	一、〇三、四三三	六一〇、一一七	八二〇、八一二	四、七九五、二五〇	七八四、〇七四	四、六七四、八三九
亞爾然丁	一、一五三、二一九	八、六五八	五二、七八九	五六、〇五六	一二五、〇〇五	二〇一、三六〇	二六二、二八五	七、八八〇	六二四、〇三〇
伯刺西爾	三、二七五、五一〇	三〇、六三六	四八、〇三〇	四三、八一三	三八、九五二	五四、九五五	二七六、五七三	八〇〇	九五五、二八〇

世界鐵道哩程

(鐵道省調査)

國名	哩程	面積百平方里對延長割合單位哩
日本(朝鮮共)	九、一〇五	二・五
獨逸	三九、五一三	一九・〇
英吉利	二三、七〇一	一九・二
瑞西	三、二九二	一八・八
佛蘭西	三一、七五五	一四・一
白耳義	五、四六五	四四・一
合衆國	二五四、二五〇	八・五
諾威	一、九八〇	一・六
支那	六、一〇九	〇・一
印度	三五、二八五	一・八

世界物價趨勢

(大正三年七月を基準とせる指數)

年	東京	倫敦	紐育	巴里
三年七月平均	100	100	100	100
開戰後第一年平均	99	106	108	104
開戰後第二年平均	111	146	124	114
開戰後第三年平均	133	191	154	123
開戰後第四年平均	179	336	203	133
開戰後第五年平均	228	335	233	156
講和後第一年平均	293	290	233	197
講和後第一年平均	338	279	230	259
十年平均	331	288	236	255
十一年平均	328	288	236	255
十二年平均	327	287	235	254
十三年平均	325	285	233	252
十四年平均	323	283	231	250
十五年	321	281	229	248

内外國債發行總額

(單位千圓)

我國債總額	本邦發行外國政府公債
名 稱 (十三年五月現在額)	名 稱 發行高
內 債	佛國圓庫債券 三〇〇,〇〇〇
國 債	同 大藏省証券 三,一六一
臨時國庫債券 五三,二八〇	露國大藏省証券 二四〇,〇〇〇
鐵道省債券 九,九九九	支那郵傳部 一〇,〇〇〇
外 債	五分利鐵道公債 一〇,〇〇〇
國 債	支那五分利公債 五,〇〇〇
舊鐵道社債 九,七三三	四鄭鐵道公債 一〇,〇〇〇
滿 鐵 社 債 二七,一五五	吉會鐵道借款 一〇,〇〇〇
	支那國庫證券 二〇,〇〇〇
	滿蒙四鐵道借款 二〇,〇〇〇
	濟順高徐 二〇,〇〇〇
	鐵道借款 二〇,〇〇〇

聯合國々債內容

(單位千弗)

國名	戰前	戰後	對米債務
白耳義	八五、二六九	四、〇〇〇,〇〇〇	三七五、二九九
佛蘭西	六、三四六、二九九	三〇,〇〇〇,〇〇〇	三三、五七六、六三八
英國	三、四八五、八二八	三九、三三四、〇〇〇	四、一九六、八二八
伊太利	二、九二一、一五三	一八、一〇三、〇〇〇	一、六四八、〇三三
露西亞	三、六九三	一、〇三三、〇〇〇	三六、二七
露西亞其他	四、五七、八六一	二五、〇〇〇,〇〇〇	一九二、一九四
セルビア	二六、三三三	一、一六、三三三	五三、九四一
エストニア	—	—	一一、二二五
ラトヴィア	—	—	五、一三二
リスマニア	—	—	四、九八一
波蘭	—	—	一一、五六七
芬蘭	—	—	八、二八一
日本	一、三四、九九七	一、〇〇、〇〇〇,〇〇〇	一〇、〇八、〇四六
計	—	—	—

表算換衡量度國各

支那		伊獨佛		英米																	
寸	尺	丈	里	耗	種	米	基	吋	呎	碼	鎰	哩	哩	尺	度						
				突		米								本邦曲尺換算							
〇・一	一・一	一・七	三・五	五・四	三・三	〇・〇	三・三	〇・〇	三・〇	一・七	三・〇	一・四	四・五	一・三	六・六						
一・七	三・五	〇・〇	三・三	〇・〇	三・三	〇・〇	三・三	〇・〇	三・〇	一・七	三・〇	一・四	四・五	一・三	六・六						
〇・一	一・七	三・五	〇・〇	三・三	〇・〇	三・三	〇・〇	三・〇	一・七	三・〇	一・四	四・五	一・三	六・六	三・八						
獨逸	伊獨佛	英米		暹羅	墨國	印度	分	瓦	基	封	本	輕	重	衡	ソ	バ	ス	コ	ガ	フ	
ラ	ス	ト	五	四	〇	・	八	九	二	〇	・	二	七	〇	・	九	四	六	〇	・	三
五	四	〇	・	八	九	二	〇	・	二	七	〇	・	二	七	〇	・	二	七	〇	・	二
〇	・	二	七	〇	・	二	七	〇	・	二	七	〇	・	二	七	〇	・	二	七	〇	・
暹羅	瓜哇	西國	墨國	印度	支那	擔	斤	兩	マ	ウ	ン	シ	イ	ル	カ	ル	ガ	キ	ン	タ	ラ
カ	ル	チ	ア	ロ	ー	パ	リ	ア	ラ	リ	ア	ラ	リ	ア	ラ	リ	ア	ラ	リ	ア	ラ
一	六	・	三	四	一	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・
一	六	・	三	四	一	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・
一	六	・	三	四	一	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・	三	〇	・

表算換幣貨外内

純分比價ノ部		英吉利		北米合衆國		佛蘭西		獨逸		伊太利		瑞西		白耳義		佛蘭西		獨逸		伊太利		瑞西		白耳義		佛蘭西		獨逸		伊太利		瑞西		白耳義							
「ポンド」	「シリング」	「ペニー」	「先令」	「ドル」	「セント」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」						
凡我	九兩七錢三分	四兩八錢	四兩七錢	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分	二兩〇錢六分					
「クローン」	「ギルド」	「ピアストル」	「クローネ」	「ルビ」	「ペソ」	「セクタボ」	「フラン」	「マルク」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
「コンドル」	「セント」	「ミル」	「ペソ」	「ドル」	「セント」	「フラン」	「マルク」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」	「フラン」	「マルク」	「グロッシュ」	「リラ」	「スクーロ」		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

法
例

世界標準時表

× 東京	上 香港	新 蘭	甲 古	孟 孟	ア 孟	ベ 孟	伯 孟	倫 孟	經 度											
ル									分											
ボ		嘉	谷	倫	テ	テ	テ	テ	午											
ル									時											
ン	京城	海港	坡 買	陀 母	買 ン	ン	ド	林 敦	正 午											
									分											
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東											
一四、三〇	一五、〇〇	一七、三〇	二〇、〇〇	二二、三〇	二五、〇〇	二七、三〇	三〇、〇〇	三二、三〇	三五、〇〇											
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後											
九、三〇	九、〇〇	八、〇〇	七、三〇	七、〇〇	六、三〇	六、〇〇	五、三〇	五、〇〇	四、三〇											
後	正	前	前	前	前	前	前	前	前											
一三、三〇	一一、三〇	一一、〇〇	一〇、三〇	一〇、〇〇	九、三〇	九、〇〇	八、三〇	八、〇〇	七、三〇											
午	午	午	午	午	午	午	午	午	午											
墨	ウ	亞	愛	希	和	露	リ	紐	市	メ	桑	ホ	新	シ						
ル	ク	爾	然	丁	蘭	臘	グ	オ	テ	シ	ヤ	ネ	ロ	育	古	コ	港	ル	蘭	一
西	西	西	西	東	東	東	リ	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	東	東	東
九、〇三	八、三三	七、五三	七、〇三	六、三三	五、五三	五、〇三	四、三三	三、五三	三、〇三	二、三三	一、五三	一、〇三	〇、三三	〇、〇三	〇、三三	〇、〇三	〇、三三	〇、〇三	〇、三三	〇、〇三
前	前	前	前	後	後	後	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	後	後	後
五、二四	四、五二	四、二〇	三、五〇	三、二〇	二、五〇	二、二〇	一、五〇	一、二〇	〇、五〇	〇、二〇	〇、〇〇	〇、三〇	〇、〇〇	〇、三〇	〇、〇〇	〇、三〇	〇、〇〇	〇、三〇	〇、〇〇	〇、三〇
後	後	後	後	前	前	前	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後
八、二四	七、五二	七、二〇	六、五〇	六、二〇	五、五〇	五、二〇	四、五〇	四、二〇	三、五〇	三、二〇	二、五〇	二、二〇	一、五〇	一、二〇	〇、五〇	〇、二〇	〇、〇〇	〇、三〇	〇、〇〇	〇、三〇
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

法
例

東京		上海		香港		新加坡		蘭州		甲子		古倫		孟買		アデレード		ベネチア		倫敦		
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	
135°	120°	105°	90°	75°	60°	45°	30°	15°	0°	15°	30°	45°	60°	75°	90°	105°	120°	135°	150°	165°	180°	
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	
9:30	9:00	8:30	8:00	7:30	7:00	6:30	6:00	5:30	5:00	4:30	4:00	3:30	3:00	2:30	2:00	1:30	1:00	12:00	11:30	11:00	10:30	
正	正	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	正	正	正	正	
12:30	12:00	11:30	11:00	10:30	10:00	9:30	9:00	8:30	8:00	7:30	7:00	6:30	6:00	5:30	5:00	4:30	4:00	3:00	2:30	2:00	1:30	
午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午
シドニー	メルボルン	オーストラリア	ニュージーランド	ハワイ	サンフランシスコ	ロサンゼルス	ニューヨーク	ワシントン	シカゴ	セントルイス	ミシガン	インディアナ	イリノイ	ペンシルベニア	メリーランド	バージニア	ノースカロライナ	サウスカロライナ	ジョージア	フロリダ	テキサス	
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	
150°	135°	120°	105°	90°	75°	60°	45°	30°	15°	0°	15°	30°	45°	60°	75°	90°	105°	120°	135°	150°	165°	
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後
10:00	9:30	9:00	8:30	8:00	7:30	7:00	6:30	6:00	5:30	5:00	4:30	4:00	3:30	3:00	2:30	2:00	1:30	1:00	12:00	11:30	11:00	
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後
1:00	1:30	2:00	2:30	3:00	3:30	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	
午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午

法例拔萃

船舶法

- 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
 - 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
 - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
 - 三 日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
 - 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
- 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リ

- テハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス
- 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本國旗ヲ掲クルコトヲ得ス
- 第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキ此限ニ非ラス
- 第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス
- 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得
- 外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航

行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲナシタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、吃水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ得ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解散セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲グル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ

ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一ヶ月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲サ、ルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラス之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

船法施行細則

第二條 淺瀬船ハ推進器ヲ有セサレハ之ヲ船舶ト看做
サス

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登
録ヲ爲スニハ申請書ニ登録ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官
廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルト
キハ關係書類ヲ調査シ總噸數百噸以上ノ汽船及總噸
數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項
ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類
- 四 船名
- 五 籍港
- 六 甲板ノ層數

七 船質

八 帆船ノ帆裝

九 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後
面ニ至ル長

十 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅

十一 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上
甲板梁ノ上面ニ至ル深

十二 總噸數

- 上甲板下ノ噸數
- 上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數
- 船首樓ノ噸數
- 船橋樓ノ噸數
- 船尾樓ノ噸數
- 甲板室ノ噸數
- 艙口ノ超過噸數

機關室ノ噸數
其他ノ場所ノ噸數
十三 控除噸數

船員常用室ノ噸數
荷足水艙ノ噸數
機關室ノ噸數
帆船ノ帆庫ノ噸數
其他ノ場所ノ噸數

- 十四 登簿噸數
- 十五 汽機ノ種類及數
- 十六 推進器ノ種類及數
- 十七 造船地
- 十八 造船者
- 十九 進水ノ年月
- 二十 原名

二十一 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルト

キハ各共有者ノ特分

總噸數百噸未滿ノ汽船及前項ノ帆船以外ノ帆船ニシ
テ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノニ在リテハ前項第
一號乃至第十一號第十四號乃至第十七號第十九號乃
至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス

- 一 總噸數
- 上甲板下ノ噸數
- 上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數
- 二 控除噸數
- 船員常用室ノ噸數
- 機關室ノ噸數
- 其他ノ場所ノ噸數
- 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第一項第
一號第三號乃至第五號第十七號第十九號乃至第二十

- 一號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス
- 一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
- 二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅
- 三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深

四 積石數

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ノニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

◆船舶積量測量法

- 第一條 船舶ノ積量ハ百立方「フット」ヲ以テ一噸トシ之ヲ測度ス
- 第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ噸數ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス

第四條 總噸數ヨリ左ニ掲クル場所ノ噸數ヲ控除シタルモノヲ登簿噸數トス但シ總噸數ニ算入セサル場所ノ噸數ハ之ヲ控除セス

- 一 船員常用室及海圖室
- 二 荷足水艙
- 三 機關室
- 四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽鐘副汽機ニ供用セラル、場所
- 五 水夫長倉庫
- 六 帆船ノ帆庫
- 七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ量噸甲板トス

第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノ、噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス

- 一 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽鐘副汽機ニ供用セラル、場所
 - 二 機關室、操舵室、賄室及出入口室
 - 三 採光通風ニ要スル場所及便所
 - 四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所
- 前項ニ掲クル機關室ノ噸數ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルコトヲ得

第六條 登簿噸數ノ算定ニ付機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スベキ噸數ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

- 一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十七
 - 二 前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ四分ノ三、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ算定シタル噸數カ登簿噸數ノ算定

ニ付總噸數ヨリ控除スベキ機關室以外ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ減シタル噸數ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條 登源噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スベキ帆庫ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ二十五ニ止ム

第八條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘキ船舶ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トシ之ヲ測度シ回漕船ニ在リテハ船梁上下船艙ノ石數 其ノ他ノモノニ在リテハ艙端以下ノ船艙ノ積石數トス

◆船舶検査法

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘシ

一 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ帆船

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ノ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請者ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ定令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ執行ス

- 一 日本民臣ニ於テ借入シ日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間ニ使用スル外國船舶
- 二 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミヲ航行スル外國船舶
- 三 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ヲ搭載スル外國船舶

二 端舟其ノ他槽櫃ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ槽櫃ヲ以テ運轉スル舟

三 倉庫船、繋留船、及平水航路ノミヲ航行スル帆船

第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ、其ノ航行期間満了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ日本ニ於テ製造スル船舶ノ所有者ハ其ノ製造中ト雖モ一部ノ検査ヲ申請スルコトヲ得

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ通信大臣ノ定ムル検査規定ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路制限旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ

◆船舶検査法施行細則

第一條 本則ノ規定ハ特ニ明文アル場合ヲ除ク外國船舶検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ行フヘキ外國船舶ニモ亦之ヲ適用ス

第三條 船舶ノ検査ヲ分チテ左ノ四種トス

一 特別検査 二 定期検査 三 臨時検査 四 移民船検査

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船及淺

深船ニ對シハ前項第一號ノ検査ヲ行ハス

第四條 初メテ特別検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ

- 一 日本船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セントスルキ
- 二 特別検査ノ有効期間ハ其ノ検査ヲ受ケタル時ヨリ起算シテ三年乃至六年トス
- 三 船舶検査法第一條各號ノ船舶カ同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ

四 前條第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ船舶検査法第三條第二項ノ申請アリタルトキハ前項第一號ノ場合ニ於ケル特別検査ノ一部ヲ行フ

第五條 管海官廳ハ進水後二年ヲ經過セサル船舶ノ特別検査ヲ第一回定期検査ニ於テ定メラレタル航行期間滿了マテ猶豫スルコトヲ得

第三條 第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り該船舶ノ現ニ有スル航行期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

一 進水後二箇年ヲ經過セサル船舶
二 遞信大臣ノ認可シタル船舶検査員ニ於テ日本ノ法令ニ依リ特別検査ヲ行ヒ其ノ有効期間内ニ在ル船舶

三 旅客船ニ非サル船舶ニシテ遞信大臣ノ認可シタル船級協會ニ於テ船舶検査法ノ規定ニ依ル特別検査ト同一程度ノ検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

船舶検査法第十七條第一號ニ掲ケタル外國船舶ニシテ其ノ所屬國政府ノ特別検査又ハ遞信大臣ニ於テ相當ト認ムル船級協會ノ特別検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

第七條 特別検査ハ其ノ有効期間内ト雖モ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ申請アルトキハ其ノ期間ヲ繰上ケ之ヲ行フコトヲ得
第八條 定期検査ハ船舶ノ航行期間ヲ定メントスルト

之ヲ行フ

第十五條 船舶検査法第三條第二項ノ規定ニ依リ製造中ノ船舶ノ検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者ハ申請書、製造仕様書及ヒ圖面ヲ製造地ヲ管轄スル管海官廳ニ差出スヘシ但シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ圖面ヲ差出スヲ要セス

前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人署名捺印シ船舶所有者ト製造者ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ連署スヘシ
一 船舶ノ種類及ヒ豫定ノ資格
二 外板及ヒ船骨ノ材料
三 計畫積量
四 計畫汽壓
五 計畫實馬力
六 汽機ノ種類及ヒ數

七 汽罐ノ種類及ヒ數

八 推進器ノ種類及ヒ數

九 使用ノ目的

十 使用ノ航路

十一 製造所ノ名稱及ヒ其所在地

十二 擔任技師ノ氏名

十三 起工ノ年月

圖面ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ

- 一 船體中央橫截面圖
- 二 船體中心線縱截面圖
- 三 甲板平面圖
- 四 汽機橫截面圖
- 五 汽機縱截面圖
- 六 汽罐橫截面圖
- 七 汽罐縱截面圖

第十七條 船舶ノ検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但シ申請人検査執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ説明シタルトキハ検査執行地外ニ於テ検査ヲ受クルコトヲ得

第十九條 船舶カ検査ヲ受クルトキハ汽船ニ在リテハ船長及ヒ機関長、帆船ニ在リテハ船長之ニ立會フヘシ

第二十一條 検査官吏検査ノ爲メ船舶ニ臨檢シタルトキハ船長ハ船舶國籍證書若ハ假船舶國籍證書、登簿船免狀、船鑑札又ハ船舶検査證書、假證書、船舶職員ノ海技免狀、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿其ノ他検査ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十三條 船長又ハ機関長差支アリテ検査ニ立會フコト能ハザルトキハ運轉士又ハ機關士代リテ之ニ立

會フヘシ

船長、運轉士、機関長又ハ機關士ノ乗組マサル船舶ノ検査ヲ受クルトキハ船舶所有者ハ相當ノ者ヲ指定シテ検査ニ立會ハシムヘシ

第二十四條 検査官吏検査ヲ行フニ當リ必要ナリト認ムルトキハ検査ヲ結了スルマテ船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書又ハ臨時旅客定員證書ヲ領置スルコトヲ得

第三十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶検査證書又ハ假證書ニ記載スル航路制限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得サル者ニ船舶ヲ讓渡ス目的ヲ以テ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國マテ回航セシムルトキ

三 臺灣ニ船籍港ヲ變更スル爲メ船舶ヲ該島マテ回航セシムルトキ

四 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲メ工場所在地マテ且工場所在地ヨリ検査執行地マテ船舶ヲ回航セシムルトキ

四ノ二 管海官廳所在地外ノ場所ニ於テ一部ノ検査ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘ノ検査ヲ受クル爲メ管海官廳所在地マテ回航セシムルトキ

五 第二十五條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ引繼又ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ノ管轄區域内マテ更ニ回航セシムルトキ

六 航路制限内ノ地ハ検査執行地ナキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ検査執行地マテ回航セシムルトキ

七 航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期

間滿了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ

航路制限内ノ検査執行地マテ回航セシムルトキ

八 航路制限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路制限内マテ回航セシムルトキ

九 航路制限變更ノ爲メ船舶ヲ航路制限外ニ回航セシムルトキ

十 海難救助其ノ他管海官廳ニ於テ已ムヲ得サル事由アルモノト認ムル場合ニ限リ一時船舶ヲ航路制限外ニ回航シ再ヒ航路制限内ニ回航セシムルトキ

第三十六條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ヨリ歸航ノ途中ニ在ル船舶カ内地以内ノ地ニ於テ航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ之ヲ内地ノ到達港マテ回航セシメントスルトキ

ハ船長ハ外國ニ在リテハ最寄帝國領事ニ其ノ他ノ地方ニ在リテハ當該管海官廳ニ其ノ認可申請ヲスヘシ

但シ外國ニ在リテハ相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船
舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附
スルコトヲ要ス

第三十六條ノ二 遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス船舶カ航
行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了
スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ之ヲ朝鮮、臺灣
樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於ケル目
的港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受クル爲メ之ヲ朝鮮
臺灣、樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於
ケル陸揚港ヲ經テ内地ノ目的港マテ回航セシメント
スルトキハ検査申請人ハ事由ヲ具シタル書面ヲ差出
シ最寄管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十五條 検査官吏検査ヲ結了シタルトキハ船舶檢
査手帳ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス
船舶検査手帳ハ船長ニ於テ之ヲ船内ニ保管スヘシ

船舶検査手帳ハ検査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除ク
外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六條 航路定限

第四十八條 航路ヲ分チ左ノ四種トス

一 遠洋航路 二 近海航路 三 沿海航路 四 平水航路
第四十九條 遠洋航路トハ内外國ノ各地ニ通スル航路
ヲ謂フ

第五十條 近海航路トハ左ニ掲クル各區内及ヒ各區ヲ
併セタル區域内ヲ謂フ

第一區 東經百十三度ヨリ同百七十度及ヒ北緯二十
一度ヨリ同六十三度ニ至ル線内

第二區 東經九十五度ヨリ同百三十度及ヒ南緯十一
度ヨリ北緯二十七度ニ至ル線内

第五十一條 沿海航路トハ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ
謂フ

第一區 上總國大東埼ヨリ安房國野島埼、伊豆國新
島及ヒ岬津島ヲ經テ遠江國御前埼ニ至ル線内

第二區 三河國伊良湖埼ヨリ志摩國大王埼、紀伊國
大島及ヒ潮岬ヲ經テ土佐國甲ノ浦ニ至ル線内、紀
伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内及淡路國
潮埼ヨリ阿波國大磯埼ニ至ル線内

第四區 紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内
淡路國潮埼ヨリ阿波國大磯埼ニ至ル線内、伊豫國
佐田岬ヨリ豊後國大島ヲ經テ鶴見埼ニ至ル線内及
ヒ長門國觀音埼ヨリ筑前國岩屋埼ニ至ル線内

第六區 伊豫國佐田岬ヨリ豊後國美濃埼ニ至ル線内
及ヒ土佐國足摺埼ヨリ日向國内海ニ至ル線内

第七區 土佐國室戸埼ヨリ足摺埼ニ至ル線内

第八區 日向國內海ヨリ大隅國種子島、屋久島、口
永良部島及ヒ黑島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内

第九區 薩摩國野間岬ヨリ甑列島及ヒ肥前國野母埼
ヲ經テ三重埼ニ至ル線内

第十區 肥前國野母埼ヨリ五島列島及ヒ的山大島ヲ
經テ平戸海峽ニ至ル線内

第十一區 肥前國野母埼ヨリ平戸島、生月島、壹岐
島及ヒ對馬島ヲ經テ長門國觀音埼ニ至ル線内及ヒ
豊前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内

第十二區 對馬島沿岸、對馬島北端ヨリ朝鮮蔚埼ニ
至ル線内及ヒ對馬島南端ヨリ朝鮮鴻島ヲ經テ巨濟
島コルベント島ニ至ル線内

第十三區 筑前國岩屋埼ヨリ長門國角島及見島ヲ經
テ石見國溫泉津ニ至ル線内及ヒ豊前國今津ヨリ長門
國本山鼻ニ至ル線内

第十四區 石見國溫泉津ヨリ隱岐列島ヲ經テ因幡國
賀露ニ至ル線内

第十五區 因幡國賀露ヨリ越前國三國ニ至ル線内
第十五區ノ二 越前國三國ヨリ能登國輪島崎ニ至ル線内

第十六區 能登國輪島崎ヨリ軸倉島及ヒ佐渡島ヲ經テ越後國新潟ニ至ル線内

第十七區 越後國新潟ヨリ佐渡島及ヒ羽後國飛島ヲ經テ酒田ニ至ル線内

第十八區 羽後國酒田ヨリ飛島及ヒ陸奥國久六島ヲ經テ深浦ニ至ル線内

第十九區 陸奥國深浦ヨリ渡島國小島ヲ經テ江尻町ニ至ル線内及ヒ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内

第二十區 渡島國江尻町ヨリ後志國奥尻島ヲ經テ茂津多岬ニ至ル線内

第二十一區 後志國茂津多岬ヨリ神威岬ヲ經テ積丹

岬ニ至ル線内

第二十二區 後志國神威岬ヨリ積丹岬ヲ經テ天鹽國留萌ニ至ル線内

第二十三區 天鹽國留萌ヨリ天賣島ヲ經テ天鹽ニ至ル線内

第二十四區 天鹽國天鹽ヨリ北見國利尻島及ヒ禮文島ヲ經テ宗谷岬ニ至ル線内

第二十五區 北見國知床岬ヨリ千島國後島、色丹島、アキユリ島ヲ經テ根室國納沙布崎ニ至ル線内

第二十六區 根室國納沙布崎ヨリ落石崎及ヒ釧路國尻羽崎ヲ經テ十勝國大津ニ至ル線内

第二十七區 釧路國大津ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内

第二十八區 陸奥國八戸馬淵川口ヨリ陸前國金華山ヲ經テ花淵崎ニ至ル線内

第二十八區 大隅國奄美大島沿岸及ヒ奄美群島間

第二十九區 沖繩島沿岸及ヒ沖繩群島間

第五十二條 平水航路トハ湖川港内及ヒ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ

第一區 相模國千駄崎ヨリ笠島ヲ經テ上總國富津ニ至ル線内

第二區 駿河國三保崎ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内

第三區 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内

第三區ノ二 紀伊國駒崎ヨリ木地崎ニ至ル線内

第四區 紀伊國宮崎ヨリ加太浦ニ至ル線内

第五區 紀伊國友ヶ島水道及ヒ播磨國明石瀬戸以内

第六區 播磨國室津ヨリ小豆島大角鼻ヲ經テ讃岐國小田鼻ニ至ル線内及ヒ讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内

第七區 讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内

及ヒ伊豫國梶取崎ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内

第八區 伊豫國梶取崎ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内及ヒ伊豫國三津濱ヨリ周防國屋代島手郡島ヲ經テ下ノ關ニ至ル線内

第九區 豊後國地蔵崎ヨリ美濃崎ニ至ル線内

二、豊後國地蔵崎ヨリ沖無垢島ヲ經テ保戸島ニ至ル線内

三、豊後國保戸島ヨリ大島ヲ經テ鶴見崎ニ至ル線内

第十區 豊前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内及ヒ筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻ニ至ル線内

二、長門國青海島ノ東端ヨリ虎ヶ崎ニ至ル線内及ヒ青海島ノ西端ヨリ今岬ニ至ル線内

第十一區 筑前國西浦三崎ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内

第十二區 筑前國鹿家崎ヨリ肥前國神集島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内

第十三區 對馬國唐洲崎ヨリ郷崎ニ至ル線内

第十四區 肥前國津崎ヨリ鷹島ヲ經テ值賀崎ニ至ル線内

第十五區 肥前國向後崎ヨリ番所崎ニ至ル線内

第十六區 肥前國七郎崎ヨリ黒島ヲ經テ平戸島坊ヶ崎ニ至ル線内及ヒ肥前國大瀬崎ヨリ平戸島魚見崎ニ至ル線内

第十七區 肥前國野母崎ヨリ三重崎ニ至ル線内

第十八區 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島崎ニ至ル線内

第十九區 肥後國天草島牛深港及ヒ黒瀬戸以内

第二十區 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内

第二十一區 隱岐國島前中井口、木路口及ヒ赤灘口以内

第二十二區 出雲國地蔵崎ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内

第二十三區 丹後國鷺崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内

第二十四區 越前國立石崎ヨリヲカ崎ニ至ル線内

第二十五區 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内

第二十六區 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内

第二十七區 陸前國花洲崎ヨリ宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内

第二十八區 渡島國函館山尾花崎ヨリ葛登支岬ニ至ル線内

第二十九區 後志國高島岬ヨリカムイコタンニ至ル線内

第三十區 釧路國尻羽岬ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内

第五十三條 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サントスル船舶ハ第五十一條又ハ第五十二條ニ掲ケタル區域中相連續スルモノニ限り旅客船ニ在リテハ二區ヲ併セ旅客船ニ非サルモノニアリテハ二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得

第八章 汽壓制限

第六十九條 船舶ノ汽壓制限ハ検査官吏ニ於テ機關ノ現狀ニ應シ船舶検査規定ニ依リ之ヲ定ム

第七十條 検査官吏ニ於テ安全瓣ヲ封鎖シタルトキハ其ノ鍵ヲ封鎖シ之ヲ船長ニ交付ス

第七十一條 船長ハ安全瓣ノ鍵ヲ封鎖ノ儘船内ニ保管スヘシ

第七十三條 船舶検査法第九條ノ規定ニヨリ船舶ノ再検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及ヒ其ノ事田ヲ列記シタル事由書ヲ添附シ検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ之ヲ通信大臣ニ差出スヘシ

第二十區 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内

第二十一區 隱岐國島前中井口、木路口及ヒ赤灘口以内

第二十二區 丹後國鷺崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内

第二十三區 越前國立石崎ヨリヲカ崎ニ至ル線内

第二十四區 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内

第二十五區 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内

第二十六區 陸前國花洲崎ヨリ宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内

第二十七區 渡島國函館山尾花崎ヨリ葛登支岬ニ至ル線内

第二十八區 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内

第二十九區 後志國高島岬ヨリカムイコタンニ至ル線内

第三十區 釧路國尻羽岬ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内

第五十三條 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サントスル船舶ハ第五十一條又ハ第五十二條ニ掲ケタル區域中相連續スルモノニ限り旅客船ニ在リテハ二區ヲ併セ旅客船ニ非サルモノニアリテハ二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得

第八章 再検査

第七十三條 船舶検査法第九條ノ規定ニヨリ船舶ノ再検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及ヒ其ノ事田ヲ列記シタル事由書ヲ添附シ検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ之ヲ通信大臣ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ再検査ノ申請書ヲ受理シタルトキハ
前検査ヲ行ヒタル検査官吏ヲシテ再検査申請ノ理由
ニ對スル意見書ヲ調製セシメ申請書ト共ニ遞信大臣
ニ進達スヘシ

船員法

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、
港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケ
ル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員
トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シ
タルトキハ其到着ノ日ヨリ一箇月内ニ船員手帳ノ交
付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク管海

官廳ニ其船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス船員カ死亡
シタルトキハ其船員手帳ヲ保管スル者之ヲ返還スル
コトヲ要ス

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル
者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ
得

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路
ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板
ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行
スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタル
トキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ
其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港
ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコ
トヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航
スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル
港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ

四 船舶カ捕獲セラレタルトキ

五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二
號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルト
キハ船長ハ其港ノ管海官廳若シ其港ニ管海官廳ナキ
トキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シ
テ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アリタルトキハ船長ハ人

命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅
客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サ
レハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及
ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、
船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス但自
己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在
ラス

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前
ニ其船員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申
請スルコトヲ得

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタル
トキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合
ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員
ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帳ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ柔順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ

三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

四 海員カ喧嘩シタルトキ

五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船泊ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セザリシトキ

六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ

七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ

◆ 船員法施行細則

十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス
一 監禁 (三日以下船中一室拘置)
二 上陸禁止 (七日以下)

三 加役 (七日以下常務時間以外二時間以内)
四 減給 (十分ノ一以下)

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船泊ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得

第四十五條 船長ノ命令ニ服従セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滞ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滞ナク之ヲ訂正スハシ

第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滞ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日時、場所其ノ他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其ノ他ノ海難ニ罹リタルトキ
四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ

五 船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲メ船長ニ於テ船舶

- 六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ
- 七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ
- 八 船員法第四十五條ニ依リテ援助ヲ求メタルトキ
- 九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ
- 十 船中ニ於テ出生アリタルトキ
- 十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ
- 十二 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ
- 第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其下船後遲滞ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ

- 第三條 機關ヲ有スル帆船ハ第二號表ニ依リ機關部職員ヲ乘組マシムヘシ
- 第四條 外國各港間ノミテ航行スル船舶ニシテ其航路近海航路、遠海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ遞信大臣ノ指定ヲ受ケ其航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得
- 外國ノ湖川港内ハ平水航路トス
- 第三章 海技免狀
- 第八條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ効力ニ制限ヲ加ヘ授與スル海技免狀ハ左ノ如シ
 - 一 甲種船長免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 - 二 甲種一等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶

- 職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 三 甲種二等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 四 乙種一等運轉士免狀 湖川港内ノミテ航行スル汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 五 乙種二等運轉士免狀 湖川港内ノミテ航行スル汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 五ノ二 丙種運轉士免狀 沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數五十噸未滿ノ帆船ニ限り船舶職員トナルコトヲ得ルモノ
- 五ノ三 二等機關士免狀 發動汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 六 三等機關士免狀 湖川港内ノミテ航行スル汽船又ハ發動汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 前項ノ外各種運轉士免狀ハ効力ヲ漁業汽船又ハ漁業帆船ニ限りタルモノヲ授與スルコトアルヘシ
- 第九條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

- 甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀及丙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種一等運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免狀ニ對シ、丙種船長免狀ハ丙種運轉士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 橫關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ、二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 同種免狀ニシテ効力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ、効力ヲ汽船ニ限りタルモノハ効力ヲ漁業汽船ニ限りタルモノニ對シ、効力ヲ帆船ニ限りタルモノハ効力ヲ漁業帆船ニ限りタルモノニ對シ各高等ノ免狀トス
- 第十條 免狀ノ代用ニ付テハ前條ノ外第三號表ノ定ムル所ニ依ル

航 海 近		汽		路 船	
以上	千噸	未滿	千噸	以上	千噸
機關長機	一等運轉士	船	長	甲種一等運轉士	甲種二等運轉士
長	甲種二等運轉士	甲種	長	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士
總噸數二千噸未	但總噸數二千噸未	乙種一等運轉士	長	乙種一等運轉士	乙種二等運轉士
滿ノ汽船ニ限リ	リ乙種二等運轉士	乙種	長	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士
	未滿ノ汽船ニ限リ	乙種	長	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士
	未滿ノ汽船ニ限リ	乙種	長	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士

路 航 水 平		路 航 海 沿		路	
船 汽	船 帆	船 汽	船 帆	船 帆	船 帆
以上	以上	以上	以上	以上	以上
機關長機	船	船	船	船	船
長	長	長	長	長	長
二等	丙種	二等	丙種	二等	丙種
機	船	機	船	機	船
關	長	關	長	關	長
士	甲種	士	甲種	士	甲種
總噸數五百噸未	甲種	總噸數五百噸未	甲種	總噸數五百噸未	甲種
滿ノ汽船ニ限リ	二等運轉士	滿ノ汽船ニ限リ	二等運轉士	滿ノ汽船ニ限リ	二等運轉士
	機		機		機
	關		關		關
	士		士		士

第一號表

路 航 海 近			路 航 洋 遠			航 路 船 種 類	
船	汽	帆	船	帆	汽	船	汽
五百噸未滿	二百噸未滿	百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	二百噸未滿
機關長機	船	船	船	船	船	船	船
長	長	長	長	長	長	長	長
二等	乙種	乙種	丙種	甲種	乙種	甲種	甲種
機	種	種	種	種	種	種	種
關	等	等	等	等	等	等	等
士	運	運	運	運	運	運	運
長	轉	轉	轉	轉	轉	轉	轉
士	士	士	士	士	士	士	士
總噸數二千噸未	但總噸數二千噸未	乙種	乙種	乙種	乙種	乙種	乙種
滿ノ汽船ニ限リ	未滿ノ汽船ニ限リ	種	種	種	種	種	種
	未滿ノ汽船ニ限リ	種	種	種	種	種	種
	未滿ノ汽船ニ限リ	種	種	種	種	種	種

第二號表

航 洋 遠		航 路 船 種 類		第三號表		總 噸 數	
帆	汽	船	帆	千噸以上	千噸未滿	二百噸未滿	總 噸 數
未滿	未滿	未滿	未滿	機	機	機	總 噸 數
船	船	船	船	關	關	關	職 員 名 稱
長	長	長	長	長	長	長	免 狀 種 類
二等	甲種	甲種	甲種	一	二	三	定 員
機	種	種	種	等	等	等	
關	等	等	等	機	機	機	
士	運	運	運	關	關	關	
長	轉	轉	轉	士	士	士	
士	士	士	士				
總噸數二千噸未	但總噸數二千噸未	乙種	乙種				
滿ノ汽船ニ限リ	未滿ノ汽船ニ限リ	種	種				
	未滿ノ汽船ニ限リ	種	種				
	未滿ノ汽船ニ限リ	種	種				

船舶職員法

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ但シ船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

- 甲種船長
- 丙種船長
- 甲種一等運轉士
- 丙種運轉士
- 甲種二等運轉士
- 機關長
- 乙種船長
- 一等機關士

乙種一等運轉士 二等機關士

乙種二等運轉士 三等機關士

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ試験ヲ受ケルコトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス

- 一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナ

ル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員

ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

- 一 外國各港間ノミヲ航行スル船舶
- 二 漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶
- 三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乗組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶貸借ノ場合ニ於テハ賃借入ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

海員懲戒法

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 解失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
- 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
- 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
- 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ

方法ヲ盡ササルトキ

- 六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 七 亂酷粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

- 一 免狀行使ノ禁止
- 二 免狀行使ノ停止
- 三 譴責

◆職員試験規程改正 (大正九年一月 逕信省令第三號)

第三條 汽船甲種船長試験ノ項左ノ通り改ム

- 二、甲種一等運轉士又ハ乙種船長免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ取りタル事

第七條 機關ヲ有スル帆船ニ乗組ミタル者ノ履歴ハ甲板部員ニアリテハ帆船ニ乗組ミタルモノトス機關部

員ニアリテハ蒸汽機關ヲ有スルモノハ其乗組日數ノ二分ノ一ニ相當スル汽關ニ乗組ミタル者發動機ヲ有スルモノハ其乗組日數ノ二分ノ一ニ相當スル期間該船舶ノ總噸數ニ相當スル發動汽船ニ乗組ミタルモノト計算ス第十條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ甲種二等運轉士免狀ヲ甲種一等運轉士免狀又ハ丙種船長免狀ニ、丙種二等運轉士免狀ヲ甲種一等運轉士免狀ニ、丙種二等運轉士免狀ヲ甲種二等運轉士ニ、二等機關士免狀ヲ一等機關士免狀ニ、三等機關士免狀ヲ二等機關士免狀ニ代用シテ執職シタル履歴ヲ以テ該本免狀ノ高等免狀ニ對スル試験ヲ受クルニハ二年以上執職スル事ヲ要ス

◆海員試験規則

〔參照〕

船舶職員ノ試験ハ左ノ三十三種ニ分タレ、逕信大臣ノ指定スル管海官廳ニ於イテ、指定ノ期日ニ執行セララル、受験資格ハ年齡滿二十歳以上ニシテ、各別ニ一定ノ實務經驗アルヲ要サレ、殊ニ※印ヲ附シタルモノニアリテハ、次級ノ海技免狀ヲ有スルモノナラサルヘカラサルモノトス。

- 甲種船長試験※(一)
- 甲種一等運轉士試験※(二)
- 甲種二等運轉士試験(三)
- 汽船甲種船長試験※(一)
- 汽船甲種一等運轉士試験※(二)
- 汽船甲種二等運轉士試験(三)
- 帆船甲種船長試験※(一)
- 帆船甲種一等運轉士試験※(二)
- 帆船甲種二等運轉士試験(三)

- 漁船甲種一等運轉士試験※(三)
- 漁船甲種二等運轉士試験(三)
- 漁業汽船甲種一等運轉士試験※(三)
- 漁業汽船甲種二等運轉士試験(三)
- 漁業帆船甲種一等運轉士試験※(三)
- 漁業帆船甲種二等運轉士試験(三)
- 乙種船長試験※(一)
- 乙種一等運轉士試験(三)
- 乙種二等運轉士試験(四)
- 漁船乙種一等運轉士試験(四)
- 漁船乙種二等運轉士試験(五)
- 湖川港乙種二等運轉士試験※(四)
- 湖川港乙種二等運轉士試験(五)
- 丙種船長試験※(三)
- 丙種運轉士試験(四)

漁船三種運轉士試驗(五)
小形船三種運轉士試驗(五)
機關長試驗※(一)

- 一等機關士試驗(二)
- 二等機關士試驗(三)
- 發動汽船二等機關士試驗(四)
- 三等機關士試驗(四)
- 湖川港三等機關士試驗(五)
- 發動汽船三等機關士試驗(五)

◇水先案内

左ニ記載スル水先區ニ於イテ、船泊ノ水路ヲ嚮導スルモノヲ水先人ト云ヒ、遞信大臣ノ規定セル試驗ニ合格シタルモノ、水先免狀ヲ受ケ水先人名簿ニ登錄ヲ了ヘ其職ニ就ク、水先人ハ必ス帝國臣民タルコトヲ要サレ

滿二十三年以上、滿六十年以下ノモノニ限ル。
△水先區

(東京灣水先區)安房國洲ノ崎ヨリ相模國城ケ島西端ヲ經テ、諸磯崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス。
(和泉灘水先區)紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線及淡路國江崎ヨリ播磨國明石川口ノ西岸ニ引キタル線ヲ以ツテ境界トス
(内海水先區)紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地蔵崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス。
(島原港灣水先區)肥前國國崎ヨリ肥後國鶴瀬崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トシ、三角港ヲ包含セシム。
(函館港水先區)渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル

線ヲ以テ境界トス。

△水先案内料
總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ、吃水十呎又ハ十呎未滿ノ船泊ニツキテハ、左表ノ定額ニ依リ、總噸數千噸若シクハ千噸未滿、又ハ吃水一呎若シクハ一呎未滿ヲ増ス毎ニ、右定額ニ百分六ヲ加フ

水先區 航 路

東京灣	水先區境界線、橫濱錨地間、品川錨地間、品川錨地間	汽船帆	二五〇
友ヶ島水道、神戸錨地間	友ヶ島水道、神戸錨地間	汽船帆	三〇〇
友ヶ島水道、大阪錨地間	友ヶ島水道、大阪錨地間	汽船帆	三〇〇
神戸錨地、大阪錨地間	神戸錨地、大阪錨地間	汽船帆	三〇〇
神戸錨地、門司若シクハ下關錨地間	神戸錨地、門司若シクハ下關錨地間	汽船帆	一〇〇
神戸錨地、内海水先區西境界線間	神戸錨地、内海水先區西境界線間	汽船帆	一〇〇

水先案内料 (往復各)

和泉灘	神戸錨地、若松錨地間、門司、下關若シクハ若松錨地、下關水先區西境界線間	二五〇
内海	門司若シクハ下關錨地、若松錨地間、水先區東境界線間、下關水先區東境界線、若松錨地間	二五〇
下關	下關水先區西境界線、下關水先區東境界線	四〇〇
東境	東境水先區東境界線、下關水先區東境界線	四〇〇
豊後水道北口、下關水先區東境界線間	豊後水道北口、下關水先區東境界線間	一〇〇
長崎港	長崎港水先區境界線、津内錨地間	二〇〇
島原	島原水先區境界線、口ノ津錨地間、三角錨地間、住の江錨地間	二五〇
函館港	函館港水先區境界線、港内錨地間	二〇〇

◆船員職業紹介法

第一條 本法ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ムベキ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用ス
本法ハ勅令ノ定ル所ニ依リ前項ニ掲グルモノ以外ノ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用スル事ヲ得
第二條 船員職業紹介事業ヲ行ハントスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ
第三條 船員職業紹介ニ關シ必要アリト認ムル時ハ政府ニ於テ職業紹介事業ヲ行フ事ヲ得
政府ハ勅令ノ定ムル補助金ヲ支給シテ公益ヲ目的トスル法人其他ノ團體ヲシテ職業紹介事業ヲ行ハシムル事ヲ得
第四條 船員職業紹介事業ヲ行フモノハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ其報酬トシテ手数料其他ノ財産上ノ利益ヲ得ル事ヲ得ズ
第五條 船員職業紹介事業ニ監理及連絡統一ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ船員職業紹介委員會ヲ置ク
委員會ヲ置ク遞信大臣之ヲ監督ス
船員職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六ヶ月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一、許可ヲ得ズシテ船員職業紹介事業ヲ行ヒタル者
二、船員職業紹介ヲ爲シ其報酬トシテ手数料其他ノ財産上ノ利益ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ受ケシメタル者
本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ船員職業紹介ヲ爲ス者強制シテ職業紹介ヲ爲シタル時モ又前項ノ例ニ同シ

附則

本法施行ノ際現ニ有料又ハ營利ヲ目的トスル船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内其事業ヲ繼續スル事ヲ得

◆船員職業紹介法施行規則

第二章 無料職業紹介

第四條 船員職業紹介法第二條及附則第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ニ履歷書及戶籍謄本ヲ添ヘ主タル船員職業紹介所ノ所轄管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ
一、氏名又ハ名稱 本籍及住所
二、船員職業紹介所ノ所在地
三、船員職業紹介所ノ設備、開所豫定年月日
四、船員職業紹介ニ關スル諸規定
第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス船員職業紹介所設置ノ必要ヲ認メサルトキ亦同シ
一、禁治產者及準禁治產者
二、犯罪ニ因リ刑ニ處ラレ改悛ノ狀ナシト認ムル者
三家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

四、其ノ他船員職業紹介事業ヲ行フニ適セズト認メタル者

第八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ遲滞ナク紹介毎ニ其ノ從業者ノ氏名住所及履歷ヲ記載シタル書面ニ戶籍本ヲ添ヘ所轄管海官廳ニ届出ツヘシ

第九條 遞信局長ハ船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ不適當ト認ムルトキハ船員職業紹介事業ヲ行フ者ニ對シ從業者ノ解任ヲ命ジ又ハ設備ノ改善ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十四條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ船員ノ下船又ハ雇傭契約ノ廢棄ヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコトヲ得ス

第十五條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及從業者ハ求人者又ハ求職者ト金品ノ授受貸借ヲ爲シ、求人者又ハ求職者ニ代リ金品ヲ授受シ又ハ求職者ノ所持スル物品ヲ買受ケ擔保トシテ受取り若ハ質入賣却ノ周旋ヲ爲スヘカラス但シ豫メ所轄管海官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第十六條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル業務ヲ爲スコトヲ得ス但シ豫メ其ノ業務ヲ行ハムトスル地ヲ管轄スル逓信局長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 兩替

二 質屋

三 酒類販賣

四 日用品ノ販賣

五 飲食店、宿泊所其ノ他類似ノ業務

第十八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ正當ノ事由ナクシテ紹介ノ申込ミヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 船員ノ職業紹介ハ申込ノ順序ニ依ル但シ正當ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 紹介ノ申込ハ申込ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ

第二十三條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ毎月十日、二十日及末日ニ其ノ句中ノ記入ニ係ル求人票及求職票ノ寫ヲ紹介所毎ニ取纏メ翌旬第三日迄ニ所轄管海

官廳ニ提出スヘシ但シ既ニ提出済ノ票ニシテ記入後變更ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三章 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介

トスル職業紹介

第二十四條 船員職業紹介法附則第三項ノ規定ニ該當スル者(以下單ニ營業者ト稱ス)其ノ業務ヲ繼續セんとスルトキハ船員職業紹介法施行後二月内ニ紹介所ノ所在地ヲ管轄スル逓信局長ニ許可ヲ申請スヘシ逓信局長第一項ノ申請ニ基キ許可ヲ與フル場合ニ於テハ之ニ期間ヲ附スヘシ逓信局長ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十五條 營業者ハ手数料ヲ定メ船員職業紹介法施行後遲滞ナク紹介所ノ所在地ヲ管轄スル逓信局長ニ認可ヲ申請スヘシ

第二十六條 營業者ハ求職者ニ手数料ノ半額ヲ超ユル額ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

第三十條 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外前章ノ規定ヲ準用ス

附 則
本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

ヘーグ規程

本規程ハ「ブラッセル」會議ニ於テ修正可決(二重括弧ハ修正ノ箇所)國際商業會議所員ニ配付シ亦各國政府ニ向ケ採用ヲ推奨セリ

船荷證券ニ關スル規則ノ

準備國際協約

第一款 定義

本協約ニ於イテハ次ノ字句ハ下記ノ意義ヲ以テ使用サルモノトス

(イ)「運送人」トハ荷送人ト運送契約ヲ締結スル船舶所有者又ハ傭船者ヲ含ム

(ロ)「運送契約書」トハ海上貨物運送ニ關スル船荷證

券或ヒハ類似ノ權利ニ關スル文書ニ「依ル運送契約書」ノミニ用フ、而シテ、傭船契約書ニ基キ又ハ其定ムル處ニ從ヒテ發行セラルル上記ノ如キ船荷證券又ハ類似ノ權利ニ關スル文書モ有價證券トナリタル時ヨリ之ニ含ム

(ハ)「貨物」トハ生動物及ビ運送契約書ニ甲板積トシテ運送セラレ可ク記載セラレ而シテ如斯運送セラレル貨物以外ノ各種ノ貨物、器具、商品及ビ物品ヲ含ム

(ニ)「船舶」トハ海上貨物運送ニ使用セララルル各種ノ船舶ヲ意味ス

(ホ)「貨物ノ運送」トハ貨物ガ船舶ニ積込マレタル時ヨリ荷卸サル、期間ヲ謂フ

第二款 危險

第六款ニ定メタル場合ヲ除クノ外海上貨物運送契約ニ基キ運送人ハ當該貨物ノ船積、取扱、積付、運送、保管、管理及陸揚ニ關シ以下定ムル責任及義務ヲ負擔

シ權利及免責ヲ享有スルモノトス

第三款 責任及義務

第一條 運送人ハ發航前及發航ノ初ニ於テ左ノ諸事項

ニ對シ相當ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

(イ) 船舶ヲシテ航海ヲ爲スニ堪エシムルコト

(ロ) 船舶ニ適當ナル船員ヲ乘組マシメ適當ナル機裝

及必要品ノ供給ヲ爲スコト

(ハ) 船舶、冷蔵庫及冷却庫其他貨物ノ運送セラルル

船舶ノ部分ヲシテ、貨物ノ收容、運送及貯蔵ニ對

シ適當且安全ナラシムルコト

第二條 第四款ニ定メタル場合ヲ除ク外、運送人ハ運

送セラルル貨物ヲ適當且ツ注意周到ニ船積シ、取扱

ヒ、積付ケ、運送、保管、管理シ而シテ荷卸ス可シ

第三條 運送人、船長、若ハ運送人ノ代理ハ其保管ノ

下ニ貨物ヲ取受リタル後荷送人ノ請求アリタルトキ

ハ荷送人ニ對シ各種ノ事項ノ内左ノ事項ヲ記シタル

船荷證券ヲ發給スルコトヲ要ス

(イ) 貨物ノ船積ノ開始前ニ荷送人ガ書面ニテ通知シ

タル所ニ從ヒ貨物ノ同一性ヲ示ス爲必要ナル主要

記號但シ右記號ハ包裝無キトキハ貨物ノ上ニ又包

裝アルトキハ其ノ箱若ハ被覆ノ上ニ航海ノ終了ニ

至ルマデ容易ニ讀ムコトヲ得ベキ方法ヲ以テ明瞭

ニ押印又ハ表示スルコトヲ要ス

(ロ) 荷送人ガ書面ヲ以テ通知シタル當該包荷若ハ個

品ノ箇數又ハ容量若ハ重量

(ハ) 貨物ノ外部ノ狀態

但シ運送人、船長又ハ運送人ノ代理人ハ實際取受リ

タル貨物ヲ正確ニ表示セザルコトヲ疑フベキ正當ノ

理由アルカ或ハ適當ノ引合セ方法無カリシ處ノ如何

ナル記號、箇數、容量又ハ重量ヲ船荷證券内ニ述ベ

或ハ記スコトヲ要セズ

第四條 船荷證券ハ第三條ノ(イ)(ロ)及(ハ)號ニ從

ヒテ其内ニ記載セラルル貨物ガ運送人ニ依リテ受取

ラレタル一應ノ證據トナルモノトス

第五條 荷送人ハ運送人ニ對シ通知シタル記號、個數

容量、及ヒ重量ノ正確ヲ船積ノ時ニ於テ保證シタル

モノト看做サレ且ツ右事項ノ不正確ヨリ生ジ又ハ之

ニ基因スル一切ノ損失、損害及ビ費用ニ付キ運送人

ニ對シ賠償ヲ爲スコトヲ要ス、如斯運送人ノ賠償ニ

關スル權利ハ荷送人ヲ除ク外何者ニ對スルモ毫モ船

荷證券ニ基ク責任及義務ヲ限定スルモノニアラズ

第六條 損失若ハ損害及ビ右損失若ハ損害ノ一般的性

質ノ通告ガ荷卸港ニ於テ貨物ガ運送契約書ニ基キテ

受取ル可ク定メラレタル者ノ保管ニ移サル以前或

ヒハ其時ニ書面ヲ以テ運送人或ヒハ其代理人ニ對シ

行ハルルニ非ザレバ右「移動ハ運送人ニ於テ船荷證

券ニ記載セラレタル貨物ヲ引渡シタルコトノ一應ノ

證據タルモノトス

「若其損失或ハ損害ガ外見上明白ナラザル場合ニハ、

其通告ハ貨物引渡後三日以内ニ行ハルルコトヲ要ス」

「書面ヲ以テナサル通告ハ若貨物受渡ノ時ニ於ケル

貨物ノ狀態ガ其通告ニ述ベラレタル狀態ト相違スル

コトヲ一致認ムル場合受認ス可キモノニアラズ」

「如何ナル場合ト雖モ運送人及船長ハ訴訟ガ貨物ノ引

渡後或ハ貨物ガ引渡サルルベカリシ日以後一ケ年以

内ニ提出サルルニアラザレバ損失或ハ損害ニ關スル

責任ヨリ免除サルベキモノトス」

實際上或ハ疑念アル損失或ハ損害ノ如何ナル場合ニ

於テモ運送人及ビ受取人ハ貨物ノ検査及檢算ニ對シ

相互ニアラユル適當ノ援助ヲ與フルコトヲ要ス

第七條 貨物ノ船積後ニ於テ運送人、船長又ハ運送人

ノ代理人ニ依リ荷送人ニ對シ發給セラルベキ船荷證

券ハ若シ荷送人ノ請求アルトキハ「船積完了」船荷證

券タルベキモノトス但シ右貨物ニ對シ權利ニ關スル

書類ガ前以テ發送人ノ手許ニアルガ如キ場合荷送人

ハ「船積完了」船荷證券引換ニ其書類ヲ讓渡スベシ、

然レドモ運送人ノ任意トシテ運送人、船長、又ハ代

理人ハ積出港ニ於テ右權利ニ關スル書類ニ貨物が積

出サレタル船舶ノ名稱及積出ノ日付ヲ記載スル事ヲ

得、而シテ右記載済ノモノハ本規則ノタメニ「船積

完了」船荷證券ヲ構成スルモノト見做サル

第八條 運送契約ノ條項、約款、又ハ取極ニシテ本款ニ規定セラレタル義務及責任ニ關スル怠慢、懈怠又ハ過失ヨリ生ズル貨物ノ損失若ハ損害又ハ貨物ニ關スル損失若ハ損害ニ對スル責任ヨリ運送人又ハ船舶ヲ免除シ又ハ此種ノ責任ヲ本協約ノ規定スル所ト異ナリ輕減スルモノハ無効タルベキモノトス、保險ニ依ル恩惠若ハ類似條項ハ運送人ノ義務ヲ免除スルモノト見做サル

第四款 權利及免責

第一條 『運送又ハ船舶ハ船舶ヲシテ航海ヲナスニ堪エシメ且船舶ニ對シ適當ニ船員ヲ乘組シメ適當ナル艙裝及必要品ノ供給ヲ爲ス爲及船舶、冷藏庫及冷却庫其他貨物ノ運送セラルル船舶ノ部分ヲシテ、第三款ノ第一條ノ條項ニ規定セラレタル貨物ノ收容、運送及貯藏ニ對シ適當且完全ナラシムル爲運送人側ニ於テ相當ノ注意ヲ怠リタル場合ニ非ザレバ不堪航性ヨリ生ジ又ハ之ニ基因スル損失又ハ損害ニ對シ責任

任セザルモノトス』

不堪航性ヨリ基因シタル損失若ハ損害ノ場合相當ノ注意ヲ實際ニ行ヒタルコトヲ證明スル責任ハ運送人又ハ本項目ニ依リ除外ヲ要求スル者ニアルモノトス
第二條 運送人又ハ船舶ハ左ノ各號ヨリ生ジ若ハ之ニ基因スル損失又ハ損害ニ對シ其責任任セザルモノトス

- (イ) 航海又ハ船舶ノ取扱ニ於ケル船長船員水先人又ハ運送人ノ使用人ノ所爲過失又ハ怠慢
- (ロ) 火災、但シ運送人ノ實際上ノ懈怠或ハ關知ニヨリ生ジタルモノヲ除ク
- (ハ) 海上其他可航水路ノ危難危險及事故
- (ニ) 不可抗力
- (ホ) 戰爭行爲
- (ヘ) 公敵ノ行爲
- (ト) 君主、支配者若ハ人民ノ逮捕及抑留又ハ法律上ノ手續ニ依ル拿捕
- (チ) 檢疫所ノ拘束

(リ) 荷造人貨物所有者其代理人又ハ代表者ノ行爲又ハ怠慢

(ヌ) 原因ノ如何ヲ問ハズ一部又ハ全部ノ同盟罷業、工場閉鎖又ハ労働ノ停止若ハ制限

(ル) 暴動又ハ内亂

(チ) 海上ニ於ケル人命又ハ財産ノ救助又ハ救助ノ企圖

(ワ) 『貨物ノ固有ノ缺點、品質又ハ瑕疵ヨリ生ジタル容量或ハ重量ノ減損或ハ他ノ損失若ハ損害』

(カ) 荷造ノ不完全

(ヨ) 記號ノ不完全又ハ不適當

(タ) 相當ナル注意ヲ以テスルモ發見スルコト能ハザル潜在的瑕疵

(レ) 其他運送人ノ實際ノ過失若ハ關知ナクシテ又ハ運送人ノ代理人、使用人若ハ雇人ノ過失若ハ怠慢ナクシテ生ズル原因、但、運送人ノ實際ノ過失若ハ關知ナクシテ又ハ運送人ノ代理人使用人若ハ雇人ノ過失若ハ怠慢ナクシテ損失若ハ損害が生ジタ

ルカテ證明スベキ責任ハ本除外ノ恩惠ヲ要求スル者ニアルモノトス

第三條 荷出人、荷出人ノ代理人或ハ使用人ノ行爲、懈怠、怠慢又クシテ運送人又ハ船舶ニヨリナサレタル損失若ハ損害ニ對シテハ其原因ノ如何ヲ問ハズ荷出人ハ其責任任セザルモノトス

第四條 『海上ニ於ケル人命若ハ財産ノ救助又ハ救助ノ企圖ニ於ケル離路及正當ノ離路ハ本協約或ハ運送契約ノ侵害又ハ違反ト看做サレザルモノトス而シテ運送人ハ是ニ因ル損失若ハ損害ニ對シ其責任任セザルモノトス』

第五條 運送人又ハ船舶ハ貨物ノ性質及價格ガ船積ノ前ニ於テ荷出人ニ依リ申告セラレ船舶證券ニ記入セラルルニアラザレバ、貨物ノ損失若ハ損害又ハ貨物ニ關スル損失若ハ損害ニ對シ如何ナル場合ニモ一荷物又ハ一單位ニ付キ百磅ヲ超過シ又ハ他ノ通貨ニテ之ト同額ヲ超過スル金額ニ對シ其責任任シ或ハ其實ヲ生ズルコトナシ本申言ガ船荷證券ニ記載セラル時

ハ一應ノ證據トナルモノナレドモ運送人ニ對シ拘束力ヲ有シ又ハ決定的ノモノニアラズ
運送人、船長又ハ運送人ノ代理人ト荷送人ノ間ノ契約ニヨリ前項ニ規定スル所ト異ナル最高額ヲ定ムルコトヲ得、但シ此場合ニハ右最高額ハ前記金額ヲ下ルコトヲ得ザルモノトス

第六條 荷送人ニ依リテ船荷證券ニ貨物性質又ハ價格ガ故意ニ虚偽ノ申告セラレタルトキハ運送人又ハ船舶ハ如何ナル場合ニ於テモ貨物ノ損失若ハ損害又ハ貨物ニ關スル損失若ハ損害ニ對シ其ノ責ニ任ゼザルモノトス

第七條 可燃性、爆發或ハ危險性ノ貨物ニシテ運送人船長又ハ運送人ノ代理人ガ其性質及特質ヲ知リテ船積ヲ承認セザリシモノハ、運送人ニ依リテ荷卸以前何時ニテモ荷送人ニ賠償ヲクシテ場所ノ如何ヲ問ハズ陸揚セラレ或ハ破壊セラレ若ハ無害タラシムル

ヲ得、又右貨物ノ荷送人ハ其船積ニヨリ直接又ハ間接ニ生ジタル一切ノ損害及費用ニ對シ其責ニ任スベキモノトス、前記ノ知識及承認ヲ得テ船積セラレタル貨物ガ船舶又ハ貨物ニ對シ危險トナリタルトキハ共同海損ノ場合ヲ除キ運送人ノ側ニ責任ナクシテ運送人ニ依リテ場所ノ如何ヲ問ハズ陸揚セラレ又ハ破壊セラレ若ハ無害タラシメラルルコトヲ得

第五款 運送人ハ本協約ニ其ノ權利及免除ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スルノ自由ヲ有ス但シ右拋棄ハ荷送人ニ對シ發給セラルル船荷證券ニ之ヲ記入スルコトヲ要ス
第六款 特別ノ條件

第七款 本規則ノ適用ニ對スル制限

本協約ハ運送人又ハ荷送人ガ海上ニ於テ貨物ヲ運送スル船舶ノ船積前及荷卸後ニ於ケル貨物ノ損失若ハ損害ノ責任及義務ニ關シ如何ナル契約、約定、條件保留又ハ免除ヲ約定スルモノ之ヲ妨ゲザルモノトス

第八款 義務ノ制限

本協約ノ規定ハ航洋船舶所有者ノ責任ノ制限ニ關ハル現在行ハルル如何ナル法令ニ基ク運送人ノ權利及義務ニ影響ヲ及ボサザルモノトス

第九款 本協約ノ適應

本協約ノ規定ハ本締約國ノ執レニ於テ發行セラルル總テノ船荷證券ニモ適用ス
一九二二年十月二十二日
ブラツセルに於て記名

前各款ノ規定ニ拘ラズ運送人、船長又ハ運送人ノ代理人及荷送人ハ特定ノ貨物ニ關スル運送人ノ權利及免責若ハ船舶ノ堪航性ニ對スル運送人ノ義務又ハ海上ニテ運送セララルル貨物ノ船積、取扱、船積、積付、運送、保管、管理及荷卸ニ關スル使用人若ハ代理人ノ注意ニ關スル運送人ノ義務ニ關シ如何ナル條件ノ契約ト雖モ公安ヲ害セザルモノニ限り之ヲ締結スル事ヲ得、但此場合ニ於テハ船荷證券ノ存在或ハ發給ヲ得ザルモノニシテ其約定ノ條件ハ之ヲ受取證ニ記載スルコトヲ要ス此ノ受取證ハ非流通證券タルベキモノニシテ其ノ旨ヲ明記スルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ從ヒ締結セラレタル契約ハ完全ナル法律上ノ効果ヲ有スルモノトス
但、本款ハ通常ノ取引關係ニ於テナサル通常ノ商業的船積ニハ適用セザルモノトス然レドモ其他ノ船積ニシテ運送セラレベキ財産ノ特質或ハ條件又ハ運送ノ事情、期間及條件ガ特約ヲ至當トスルニ正當ナル場合ニノミ適用スルモノトス

鳥羽(低燈)	同	四五、二	足摺埼	同	大正三、四	猿山岬	能登	大正九、二一
同(高燈)	同	四五、二	叶埼	同	明治四四、八	福浦	同	明治三八、三
神島	志摩	四三、五	△本州北西岸			白尾	同	大正三、七
菅島	同	六、七	平館	陸奥	三二、四	金石	同	明治三〇、八
安乘埼	同	六、四	入道埼	羽後	三一、一	敦賀港突堤	同	大正三、五
小島	同	四、三	松川	同	二七、一〇	兒屋ノ川口	同	三、五
梶取埼	紀伊	三二、一	酒田	羽前	二八、一〇	立石埼	同	明治一四、七
檜野埼	同	三、六	鼠ヶ關	羽前	大正一四、四	經ヶ岬	同	三、一
潮埼	同	六、九	新潟	越後	明治〇、二	境ヶ岬	丹後	三、二
日之御埼	同	二八、一	姫埼	佐渡	二八、二	西御岬	伯耆	二八、一
市江埼	紀伊	大正一〇、一〇	彈埼	佐渡	大正八、二	地藏埼	出雲	大正一〇、三
小松島港南突堤	阿波	一〇、九	魚津	越中	大正四、一〇	日ノ岬	同	三、一
蒲生田埼	同	一三、一〇	伏木港(低燈)	越中	明治一〇、一〇	馬島	同	三、四
甲浦	土佐	大正二、四(再點)	伏木港(高燈)	同	大正八、四	角島	石見	明治三一、五
室戸埼	同	明治三二、四	七尾灣口	能登	大正三、一	特牛	長門	九、三
上ノ加江港	同	大正六、七	同(低燈)	同	明治四四、二	△内海(瀬戸内)	同	四五、一
龍頭埼	同	明治一六、六	同(高燈)	能登	四四、二	友ヶ島	紀伊	五、六
			祿剛埼	能登	一六、七	堺	和泉	九、一〇

水津川	攝津	一一、五	高井神島	伊豫	大正一〇、二	岩島	周防	大正一二、九
大阪(南突堤)	同	三九、六	小佐木島	三原瀬戸	明治二七、五	徳山港	同	一三、一
同(北突堤)	同	三九、六	大久野島	同	二七、五	檀ノ浦	長門	二六、四
尼ヶ崎港突堤	攝津	大正一四、四	鯨埼	同	二七、五	下關(低燈)	同	三四、五
神戸港東防波堤	同	七、五	中野鼻	同	二七、五	同(高燈)	同	三四、五
堤南	同	七、五	大下島	同	二七、五	巖流島	同	七、九
高砂港突堤	播摩	一一、九	今治港防波堤	伊豫	大正一四、三	山底ノ鼻	長門	七、九
和田岬	同	五、八	龍神島	同	大正一四、三	金ノ弦岬	同	九、一
江崎	淡路	四、八	大濱	同	大正一四、三	片嶋	同	九、一
飾磨	播磨	三二、一	野忽那島	伊豫	大正三、二	六連島	同	四、一
大角鼻	讃岐	大正二、四	釣島	同	三六、六	蓋井島	同	四、一
男木島	讃岐	明治二八、二	小那沙美島	同	三七、三	白洲	同	六、九
高松港	讃岐	大正一三、九	屋島	安藝	三六、四	△九州東岸	同	六、九
三ツ子島	同	一三、七	ホーシロ	伊豫	四二、七	安岐埼	豊後	大正三、三
六島	同	一一、二	姫島	周防	大正一二、八	大分港北突堤	同	二、二
鍋島	同	一一、二	部埼	豊後	三七、三	同西突堤	同	二、二
百貫島	鹽飽瀬戸	五、一	佐田岬	豊前	大正五、一	關埼	同	明治三四、七
	布刈瀬戸	二七、五		伊豫	大正七、四	水ノ子島	同	三七、三

土々呂港	日向	三九、一〇	五島白瀬	同	三八、四	屋久島	△南四諸島	大隅	三〇、一
細島	同	四三、五	大瀨崎	肥前	一二、二	曾津高崎	奄美大島	奄美大島	二九、一
戸崎鼻	同	大正五、五	大立島	同	二七、八	伊江島	琉球	琉球	三〇、三
油津港(低燈)	同	二、九	巖原港(前燈)	對馬	一二、六	先原崎	那霸港	那霸港	二九、一
油津港(高燈)	同	一〇、二	巖原港(後燈)	同	一、六	三重城	那霸港	琉球	二九、一
鞍崎	同	明治一七、八	白瀬	佐世保港	二七、八	津堅島	琉球	琉球	二九、一
佐多岬	大隅	四、一〇	伊王島	外白瀬	四、七	三城	琉球	琉球	二九、一
坊ノ岬	薩摩	一、七	薩尾島	長崎港口	四、七	津堅島	琉球	琉球	二九、一
△九州北岸及西岸									
若松	筑前	三六、八	湯島	島原海灣	一三、五	彭佳嶼	臺灣及澎湖列島	臺灣北岸	四二、九
沖島	筑前	明治三八、四	島原	同	一〇、二	鼻頭角	臺灣北岸	臺灣北岸	三〇、二
三島	對馬	二七、八	三池港	同	四、九	仙洞	基隆港	基隆港	一五、〇
神崎	同	二七、九	三角	肥後	二、三	八尺門	基隆港	基隆港	一五、〇
若宮	同	三八、四	戶島	同	三、五	基隆	臺灣北岸	臺灣北岸	三〇、二
鳥帽子島	壹岐水道	八、四二	上馬刀島	同	三、四	富貴角	臺灣北岸	臺灣北岸	三〇、二
鷹島	呼子島	一四、二	戶島	長崎海峡	三〇、四	淡水(低燈)	淡水港	淡水港	二一、一
二神島	壹岐	七、四	長崎鼻	同	三〇、四	淡水(高燈)	臺灣北岸	臺灣北岸	二一、一
古志岐島	五島列島	二七、九	釣掛崎	薩摩	二九、二	白沙岬	臺灣北岸	臺灣北岸	二一、一
						塩港堆	臺灣北岸	臺灣北岸	二一、一

高雄	高雄港	明治一六、七	大連(北港口西)	同	七、五	英國	四次	燈臺	一九〇	其他燈標	一一一
海口(高燈)	高雄州	大正一二、七	同(西港口北)	同	四、五	伊太利	六年	一九〇	一九〇	一一一	
海口(低燈)	同	一二、七	同(西港口南)	同	四、五	瑞典	六年	一九〇	一九〇	一一一	
海口(側燈)	同	一二、七	老虎尾	旅順港口	二、一	挪威	六年	一九〇	一九〇	一一一	
北島	澎湖列島	三五、六	白玉山(低燈)	同	三九、一	丁抹	六年	一九〇	一九〇	一一一	
漁翁島	同	二八、三(再點)	同	同	三九、一	支那	六年	一九〇	一九〇	一一一	
東吉嶼	同	四四、八	老鐵山	老鐵山	二六、一	日本	四年	一九〇	一九〇	一一一	
查母嶼	同	四四、八	老鐵山	老鐵山	二六、一						
安平	同	二四、七									
鷺鑿鼻(南岬)	臺灣南端	三一、五									
三仙臺	同	(再點)									
臺東	同	大正四、四									
南三山島	南三山	明治四三、六									
南三山島	島南端	明治三六、一									
大連(東港口南)	大連港	四五、二									
同(東港口北)	同	大正二、一									
同(北港口東)	大連港	七、五									

◆世界主要國燈臺數 (最近の調査)

佛國	三、六〇
米國	三、〇五
獨逸	二、七五
和蘭	二、〇四
國名	燈臺一基に對する哩數
	海岸線百哩に對する燈臺數

◆本邦累年燈標數

年次	燈臺	其他燈標
大正七年	一八〇	一一一
八年	一九六	一一一
九年	二〇二	一一一
十年	二〇三	一一一
十一年	二〇三	一一一
十二年	二〇三	一一一
十三年	二〇三	一一一
十四年	二〇三	一一一

大正十四年海事通覽

大正十四年度に於ける海事出来
事中其主要事項を左に摘録す

一月

- 一、獨逸に於てローター船(無帆風走)が發明され其試運轉を行ひ好成绩を擧げた
- 一、神戸の内外海運株式會社(資本金二百萬圓)解散す
- 一、二十日兩國全權の間に日露通商條約締結
- 一、郵船會社は三十日の重役會で横濱、大阪及神戸三支店長補充と同時に本支店幹部更迭を決定發表
- 一、阪神船主は懇談會を開き本年度

營業策に就て協議の結果大口先物

に對する安値引受けをなさぬ事及運賃市況を惡化する如き安値備船に應ぜぬ事を申合した

一、海員協會は労働團體として活躍すべく組合で定款一部(労働條件の維持改善を目的の條項に挿入)を改正し同時に役員の改選を行ひ

一、濠洲内務兼殖民大臣ヒアース氏が上院に提出した海上荷物運送法案は荷物船積前に船貨證券の發行を許可する旨規定した

一、大阪商船は愈々支那沿岸航路に月三回の定期を開始する事にした

二月

一、日本郵船では六日の重役會に於て渡邊倫敦支店長以下第二次更迭

を決定した

一、日本船主協會は會長川村氏の宿案であつた船舶相互保險案を理事會に提出した

一、郵船倫敦支店長に外人使用が主務當局に不満

一、海員協會は理事改選の結果元老全部退却し藤村、檜崎両氏以下新進派の出現

三月

一、米國海運政策を變更し續々拂下案が政府から議會に提出

一、大連置籍船問題解決に伴ふ法律案が政府から議會に提出

一、今期議會で政府提出の(一)日獨戰爭の船舶賠償(二)衝突豫防法改正、船舶無線電信機裝置強制及大連船籍問題解決の諸法案が通過

インと提携し甲谷陀紐育航路に手を着け愈同盟側に排戦

一、二十八日横濱築港起工式復舊舉行さる

一、原田汽船に日露國交再開を切つかけに豫て計畫の浦鹽航路を十六日第七原田丸より開始

四月

一、高田商會の破綻からPL問題を惹起し保證銀行對船主及爲替銀行對船主間に數百萬圓に上る責任問題起る

一、海事研究會は優秀船問題解決方法として北米航路三社を合併統一し新會社設立具体案を決議發表

一、國際汽船來福丸全滅(乗組員四十四名)の慘事突發

一、臺灣航路は砂糖積取問題から遂

にKラインが新に配船する事となつた爲商船及山下は共同經營、商船郵船は共同計算に決定

一、三菱系保險會社は二十二日一齊に定時又は臨時總會を開き各務氏の手に統一された

一、二十八日巴里に於て第五回海事委員會開催國際労働會議提案の國際海員法典に就て協議

一、英國沿岸航路經營船主會はヨークに合同繋船同盟を設立した

一、商船の支那沿岸航路開始問題は村田事務の視察によつて愈具体的に決定

一、勝田氏經營の太平洋汽船は債權銀行である興銀の奔走で持船全部を共同汽船會社の手に移渡し日本汽船の經營に移る

五月

一、百萬圓金塊引揚の爲片岡弓八氏は二日門司出帆の諏訪丸で出發

一、五日から逓信局長會議開催

一、パシフィック、メール社經營の桑港線はダラーラインに讓渡繼續經營となる

一、我海事行政界の恩人塚原周造氏が逓信局に就任後怡も五十年に相當するので内田嘉吉氏發起で翁の記念祝賀會が開催され亦翁の海事々業五十年史と記念品贈呈さる

一、朝鮮總督府は十五日附府令で船舶職員令改正を發布

一、信望を集めてゐた犬養遜相辭職安達謙藏氏親任

一、神戸の海運業組合と海運集會所とを合併し全國的海運機關の統一

を目的とする海運協會設立案が發表された

一、英國でも古船合同整理が問題となる

一、國際汽船智利丸は米國から麥粉を滿載し革命後日本船の第一船として黒海沿岸露港に入港した

◆六月

一、船舶検査規程改正
一、上海中心に排外運動起り長江航路休業と上海の荷役不能更に香港に延焼し上海から香港に掛けての我船舶航路杜絶に陥る

一、臺灣線は無益なる競争を避くるため商船山下國際川崎帝國五社協定し商船に於て取扱う事になった
一、古船解撤問題が船主協會の問題となり逓信當局と相應し具体案發

見に努力

一、川崎汽船對勞農政府間の日露直通連絡貨物輸送契約調印成る

一、花岡工學士は砂鐵純鐵法を發見
一、田中汽船社長田中省三氏(二十日)村尾汽船社長村尾安藏氏(三十日)兩氏逝去

◆七月

一、北日本汽船は七日總會を開き末永社長辭任に伴ふ後任に山内恕氏を選擧

一、商船は總會に二千萬圓社債案を附議し愈積極的經營策を決定
一、英國のマリタイム、ボードは七月一日に遡及し普通海員の給料約一割方引下げた

一、川崎造船所が四年前採油權を獲得した米國テキサス油田突然大噴

出一日一萬圓の利益

一、英國炭坑爭議を突發罷業眞際に至り政府の斡旋で解決

一、我海上保險界の先輩平生夙三郎氏は東海重役を辭し専ら甲南學園經營の教育事業に従事さる

一、逓信省は大阪商船を受命者としてアフリカ航路開設を企圖し福原重務官を渡派調査せしむ

一、郵船重役會の整理委員各務重役は内地各支店の巡視

一、日本海上保險協會は八月一日北海道並に樺太出貨物に對する保険料の引上改正實施を協定

一、大阪商船は二十七日總會を開き總數二千萬圓社債募集案を可決
一、近海郵船六十八萬噸といふ盛況のレコードを示す

◆八月

一、歐洲の豊作が遠洋航路悲觀材料となる

一、支那の排外運動は倍々激烈となり米船の日本海員補充備入在神戸支那人の英船不積同盟及對支荷爲替故障等問題となる

一、大阪鐵工所の因島工場に九時間制實施から又々紛議起る

一、片岡氏の冒險的計畫であつた八阪丸の百萬圓金貨引揚成功で世界の深海工業界を革命

一、海事研究會は補助航路の整理統一に就て具體的決議案を發表
一、逓信省内に世界物資移動狀況調査會設立

一、二十二日閣議で船舶所有者の責任制限條約調印を承認した

一、巴里で國際高等海員會議開催

一、米國船舶院はフォード自動車會社に二百隻八十一萬七千三百三十噸の所有船拂下に決した

一、川崎造船葺合工場では薄板製造が世界的に大成功を奏したので明年から十萬噸生産の大擴張に着手する由

◆九月

一、支那排外運動終熄し郵船は二日横濱出帆阿蘇丸が定期恢復

一、米國の無煙炭坑夫は九月一日から全部同盟罷業を斷行

一、岡崎藤吉、澤山精八郎及宇田友四郎三氏貴族院議員に當選
一、大阪商船を中心とする大阪ビルディング竣工し大阪商船大阪鐵工所以下商船系諸會社一齊に同ビルデ

ングへ移轉

一、露國はソヴェイト商船株式會社を設立した外貿易局内に別個の備船事務所を作つて一切の備船を統一し出張所をロンドン外五ヶ所に置事にした

一、明年度豫算編成期に際し愈桑港線代船建造案が具體的問題となる

一、古谷東京商船學校長辭任し島谷敏郎氏に任命

一、政府は愈勞動組合法案を議會に提出すべく具體案を發表したので海運界でも問題となる

◆十月

一、支那販稅會議開催に決定し船主協會は具體的希望案を政府に提出

一、神戸海運業組合改正の具體案評議會の紛糾の結果勝田組合長辭職

貿易

- 一、米國で「院船の處分問題で共和民主兩黨間の積極消極論の衝突が議會の大問題となるらしい
- 一、鮮米運賃は船主荷主間に於て釜山積六十圓仁川積七十圓南浦積八十圓に協定された
- 一、Kラインは多年の宿望であつた孟買棉積取同盟に愈加入し亦濠洲同盟にも山下汽船と共同し加盟の目的を達した

十一月

- 一、郵船會社は業績不良の爲め愈八朱の減配を斷行
- 一、船舶關稅問題に就て造船協會と船主協會と夫々具體的意見を發表
- 一、片岡商相は鐵鋼對策調査會へ希望意見發表
- 一、遞信省は桑港線代船建造案と新

- 一、製鐵鋼對策案決定商相に具體案答申
- 一、郵船會社は整理の一端として所有船舶の半數は社外の保險に移すことに決定
- 一、大平洋航路會議代表は日本側郵船阪本商船内田三井田島各ニユーヨーク支店長東洋小松桑港支店長に決定
- 一、三菱は上海に船渠新設を計畫
- 一、BL問題愈訴訟となる
- 一、對獨戰賠償金船關係分決定
- 一、軍縮に伴ふ造船所賠償問題解決
- 一、商船新造船注文契約發表
- 一、我國最初の大型ターゼル船サンクス丸二十四日横濱出帆南米線處女航に就く

十二月

貿易

一、米國で、院船の處分問題で共和民主兩黨間の積極消極論の衝突が議會の大問題となるらしい。

一、鮮米運賃は船主荷主間に於て釜山積六十圓仁川積七十圓南浦積八十圓に協定された。

一、Kラインは多年の宿望であつた孟買棉積取同盟に加入し亦澳洲同盟にも山下汽船と共同し加盟の目的を達した。

十一月

一、郵船會社は業績不良の爲め愈々朱の減配を斷行

一、船船關稅問題に就て造船協會と船主協會と夫々具體的意見を發表

一、片岡首相は鐵鋼對策調査會へ希望意見發表

一、逕信省は桑港線代船建造案と新

航路開設の兩案を決議豫算會議をパス郵船東洋合併問題となる

一、加奈陀汽船發起太平洋航路會議を一月中旬開催に決定

一、福井海軍少將は釣瓶式沈没船引揚方法を發明し實地試験に成功叙勳さる

一、郵船會社は十一日大阪發後南丸より來年四月迄毎月一回のカラチ直達定期航路を開始

一、川崎汽船はウスリ鐵道との連絡送契約が成立したので愈々今月から浦鹽中心内地定期航路を創設

一、國際汽船重役黒川新次郎氏は興銀の委嘱を受け二十七日外遊

一、海技代用制緩和省令發表

一、國際汽船低利資金整理問題解決

十二月

一、製鐵鋼對策案決定而相に具体案呈申

一、郵船會社は整理の一端として所有船の半数は社外の保險に移すことに決定

一、太平洋航路會議代表は日本側郵船阪本商船内田三井田島各ニユーヨーク支店長東洋小松桑港支店長に決定

一、三菱は上海に船渠新設を計畫

一、F.L問題愈々訴訟となる

一、對獨戰賠償金船關係分決定

一、軍艦に伴ふ造船所賠償問題解決

一、商船新造船注文契約發表

一、我國最初の大型ターセル船サンクス丸二十四日横濱出帆南米線處女航に就く

貿易

(一) 世界主要農産物産出高

ア ル セ リ ア	丁 洲	洲 國	陀 西	逸 度	利 本	太 馬	日 本	伊 太	印 度	獨 逸	佛 蘭 西	加 奈 匈	埃 蘭	澳 洲	亞 細 亞	露 馬 國			
小 麥	四二、一九九	一六九、四三二	一四四、八六四	五、三三〇	三〇〇、三三一	三三、七八一	九七、八三〇	二五〇、八三九	一八八、三六八	二七、九三三	七六、六五八	三五〇、一〇六	ライ 麥	二、二二	四、三〇八	二七、九三五	六、四四一	四、八〇〇	八四九、七五四
燕 麥																			
玉 蜀 黍																			
大 麥																			

米國農務局調査(一九二三年度)智利、埃及、和蘭伯刺
西爾南阿白耳義丁抹等は其他包含(單位千ブツシ
ル)燕麥以下は千九百二二年度なり

西 牙 一三五、七〇五
 英 國 五八、〇九九
 米 國 七八七、〇〇〇
 其 他 一八九、八〇五
 備考 其他の諸國とは白耳義、伯刺西爾、希臘、丁抹、モロツコ、和蘭、セビヤ、南阿聯邦、瑞西、愛蘭、諾威、瑞典、埃及、チユニス等なり

(一) 世界砂糖主要産地別 (單位千噸)

産地	年次一五六	一六一一七	一七一七八	一八一一九	一九一〇〇	二〇一三二	二一三三三	二二四二四	二三一三四	二四一三五
瓜哇	三、〇〇七	三、〇三三	三、四四六	三、六〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、二九〇	三、七〇〇	四、〇六六	四、七三四
印度	二、六三四	二、七六六	三、三三九	二、九五〇	二、八〇〇	三、三三二	二、四七七	三、〇一〇	三、二六六	二、四八六
布哇	一、九八	一、五九一	一、七九一	一、六九六	一、三三五	一、五二五	一、五六八	一、七三〇	一、七七一	一、九七八
ホルトリ	五九九	五七五	五五五	五三〇	五〇〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇	四五〇
アルゼンチン	四二二	四四九	四四五	四〇〇	四〇〇	四一九	四〇〇	三八五	三九五	三六〇
ライシ	一五二	八七	二六	一三〇	四六	二五	二〇〇	二五〇	二四九	二四〇
濠洲	二二五	一九二	二六五	二二六	二二七	二二五	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇
モリシヤ	二〇九	二〇九	二三四	二二五	二二六	二二四	二二五	二二〇	二〇八	二〇一

(甜 菜 糖)

比 律 賓	三三三	二〇〇	二七五	三〇〇	三二五	三〇〇	三三三	三三三	三三三	三三三
臺 灣	四〇五	四〇五	四〇〇	三七五	三五五	三〇〇	三三三	三三三	三三三	三三三
伯 刺 西 爾	一九四	一五〇	一四八	一四〇	一三五	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
秘 露 爾	二六二	二七六	二六五	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
其 他	一、〇五四	一、一七一	九九二	一、〇五五	一、〇五六	一、〇五五	一、〇五五	一、〇五五	一、〇五五	一、〇五五
合 計	一〇、七七一	一〇、七七一	一〇、三三八	一〇、三三八	一〇、三三八	一〇、三三八	一〇、三三八	一〇、三三八	一〇、三三八	一〇、三三八
獨 逸	二、七二七	二、五〇〇	一、四〇〇	一、六〇〇	一、五七〇	一、四一一	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
奧 匈 及 チェ ッ ク	一、六八五	一、〇六二	一、〇一一	九四四	六六八	七〇〇	七五五	七五五	八一九	八一九
佛 蘭 德	一、七三三	一、九三二	一、四六七	一、一五八	一、〇二八	七〇〇	三五〇	三五〇	三〇〇	三〇〇
和 蘭	六八一	三〇二	一三五	一八一	二〇〇	一〇九	三五〇	三五〇	三〇〇	三〇〇
白 耳 義	二三八	三〇二	二四〇	二六九	一九九	一六四	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
合 衆 國	二〇四	一一二	一三五	一〇〇	七五	二五	三〇〇	三〇〇	二七〇	二七〇
其 他	六五五	六四六	七七九	七三三	六八二	六七四	七五九	七五九	八五五	八五五
合 計	八、八三五	八、八三三	五、八七二	五、六〇〇	五、九六四	四、三九四	四、〇八四	四、六三四	五、三七五	五、四三七

(三) 世界主要國米產額

國別	全上調査(一九二二年)	面積(佛町)	產額(千封度)
英領印度	三、四一〇、九四六	三、四一〇、九四六	七三、九七
日本	三、〇三〇、九三三	三、〇三〇、九三三	一七、三三六
日哇及マニラ	二、五八、三三六	二、五八、三三六	五、五五二
暹羅	二、〇九、五一	二、〇九、五一	四、二四一
朝鮮	一、七〇〇、四三三	一、七〇〇、四三三	三、六八〇
臺灣	五〇六、七八四	五〇六、七八四	一、三三三
比律賓群島	一、一七三、一四六	一、一七三、一四六	二、三三二
マダガスカル	四五六、九〇六	四五六、九〇六	二、〇一一
北米合衆國	三一九、一七三	三一九、一七三	九七五
伊太利	一四〇、三三三	一四〇、三三三	六四〇
露西亞	二六三、四六〇	二六三、四六〇	七〇二
印度支那	—	—	七、九三一
北米	—	—	一、二三四
歐羅巴	—	—	一、二三四
其他	—	—	一、二三四

(五) 世界紡績錘數 (單位千錘)

國別	一九二四年	一九三三年
英國	一九二四年	一九三三年
法國	一九二四年	一九三三年
日本	一九二四年	一九三三年
美國	一九二四年	一九三三年
蘇俄	一九二四年	一九三三年
中國	一九二四年	一九三三年
印度	一九二四年	一九三三年
暹羅	一九二四年	一九三三年
朝鮮	一九二四年	一九三三年
臺灣	一九二四年	一九三三年
其他	一九二四年	一九三三年

(六) 本邦鹽需要高 (十三年度) (單位千斤)

地區	需要高
內地	九七、九五
臺灣	二八、〇二二
關東州	一六、〇四八
青島	八、九四三
支那	一、六七
埃及	三、七三四
合計	一、三六〇、四八四

全世界累年消費高を示せば如左 (單位千噸)

年次	消費高
一九二一年	一七、二六六
一九二二年	一八、五三六
一九二三年	一八、三三六
一九二四年	一四、二二七
一九二五年	一三、六八三
一九二六年	一三、八六四
一九二七年	一三、一〇五
一九二八年	—
一九二九年	—
一九三〇年	—
一九三一年	—
一九三二年	—
一九三三年	—
一九三四年	—
一九三五年	—

(七) 世界砂糖消費內容 (一九二三年度)

國別	單位千噸
米國	五、四六一
獨逸	一、四六〇
英國	一、七三五
佛領印度	三、〇〇〇
佛領印度	八〇六
日哇	三〇九
日本	五五〇
支那	八〇〇
伯刺爾	三六〇
亞爾然丁	二三五
伊太利	三〇〇
加奈陀	三八八
其他	三、二九六
合計	一八、六六〇

(八) 米輸出入高 (十四年度自十一月)

項目	輸出入高
輸出	五、〇〇一、六九三
輸入	四、四三四、四三三
淨輸出	五、〇〇一、六九三
淨輸入	四、四三四、四三三
淨輸出超過	八二、三五三
淨輸入超過	一〇、一三三
淨輸出差引	七六、四三五
臺灣移出	二、五三六、〇六五
樺太移出	一、九七二、一七一
合計	一〇、一七二、六五五

(九) 戦後世界貿易系統變遷 (英—米—獨—佛—及日本の六ヶ國)
 今参考のため國際聯盟が調査編纂せる主要三十ヶ國に對する英、米、佛、伊、獨及日本の六ヶ國の千九百十三年と千九百二十二年に於ける外國貿易が如何なる割合を以て推移したかを左表によつて知ることが出来る

露	ノルウェ	和太	伊太	ギリ	獨逸	フラン	フィン	デン	ベル	ベル
四・二	二・一	〇・八	七・八	五・九	五・四	一・四	二・五	六・九	一九・八	一九・三
一・三	二・二	二・八	七・三	六・五	×	一・五	三・〇	六・九	二〇・八	一九・三
四七・五	三三・九	二九・九	一六・八	七・五	一・七	四〇・九	三八・〇	一九・六	一五・一	一九・三
二八・〇	二二・六	二九・九	八・〇	六・〇	五・四	三三・三	三〇・七	二二・五	一三・四	一九・三
一・二	〇・七	〇・三	三・六	三・〇	二・九	〇・三	〇・三	三・五	〇・九	一九・三
〇・七	〇・六	〇・五	八・九	×	三・四	〇・二	〇・二	二・三	一・四	一九・三
二・六	二・六	八・七	一六・二	三・九	八・一	二・二	二・二	八・九	一〇・三	一九・三
二二・八	二二・四	一六・一	二二・八	一四・四	×	二二・六	二二・六	一五・〇	一四・三	一九・三
〇・四	〇・一	一・七	×	〇・四	一・五	〇・一	〇・一	×	〇・四	一九・三
一・一	〇・八	×	×	×	一・七	〇・一	〇・一	×	〇・一	一九・三
五・八	七・一	一・三	一四・三	一五・九	一〇・六	一・四	一・四	〇・七	八・三	一九・三
三三・〇	一八・五	一五・三	二七・九	二二・九	一六・一	一五・四	一五・四	一・九	一一・四	一九・三

米	ベ	エ	智	カ	プ	アル	南	エ	ニ	濠	シ	日	印	支	英	瑞	ス
七・七	四・六	四・九	五・五	二・三	九・八	九・〇	一・四	九・二	〇・七	二・八	一・七	〇・八	一・五	〇・九	六・二	一・八	四・二
四・六	三・一	四・〇	五・〇	一・五	六・〇	五・一	一・七	九・五	〇・三	二・六	一・二	一・〇	〇・八	〇・五	四・八	一・五	二・九
一〇・三	一七・三	一七・七	二四・六	二・四	一七・五	一六・九	八・二	五・八	三・一	八・八	七・三	九・四	六・九	四・八	一一・六	三・九	三四・二
三・八	一〇・八	七・四	一三・九	〇・三	八・九	一三・四	五・三	六・五	〇・一	〇・一	二・一	五・九	四・七	二・五	二・九	一九・一	二八・三
三・二	四・二	三・三	二・六	〇・三	八・三	〇・八	五・三	〇・三	〇・八	〇・九	〇・二	〇・二	一・三	〇・一	一・一	一〇・八	〇・七
二・一	二・八	一・一	二・〇	〇・二	三・九	〇・八	七・三	〇・二	〇・九	〇・八	〇・二	〇・九	〇・二	〇・二	一・二	一・七	〇・九
一五・二	二六・三	二九・六	三〇・〇	二・三	三・五	三・一	五・八	三〇・五	五九・七	五一・八	二二・五	一六・八	六四・二	一六・五	五・九	二四・四	二四・二
一一・五	一九・一	二八・六	二四・〇	一七・六	二五・八	二二・四	五・四	三三・〇	五五・五	五一・四	一八・三	二二・三	六〇・三	一四・九	九・一	二四・二	二四・二
五・五	〇・二	〇・一	〇・四	〇・一	〇・二	〇・三	〇・三	〇・七	一・二	一・二	一・一	二・六	二〇・四	〇・六	一・〇	一〇・一	〇・一
一一・四	一・八	×	〇・九	〇・二	〇・八	〇・二	一・三	一・四	三・五	三・七	一・一	三・三	一六・八	二・七	〇・八	一〇・一	〇・一
一	二八・八	三三・九	六四・〇	一六・七	一四・七	八・九	一・九	九・五	一三・七	一三・二	一六・八	二二・七	六〇・〇	一七・三	一九・八	六・一	九・〇
一	三九・八	四六・〇	六七・四	二二・八	二二・一	一三・三	三・九	一四・一	一八・三	三・三	三・五	三・一	一七・三	一七・三	二二・六	九・九	一四・九

品名
生絲 銅織 綿織 莫大織 綉織 石炭 精製糖 陶器 眞田 米器 木器 層材 樟腦 緞手

(十三) 輸出重要品累年比較 (單位圓)

品名	大正十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
生絲	四七、二四、四三	六七、〇四、五三	五八、三七、〇四	六八、五三、五三	八八、〇七、〇四
銅織	八〇、五六、〇三	一一、七三、二五	七八、六三	一〇九、六〇、九五	一一三、一七
綿織	九、〇一九、六五六	一、五三四、四三	四、六三〇	—	—
莫大織	—	三三、〇五、二九	三三、四九九	三三、五八七、四八	四三、八六四
綉織	二、〇三五、九九七	一七、六六六、九五三	二二、二〇五	三三、〇三〇、四六〇	三〇、九四九
石炭	一六、二五九、三三三	一五、五六一、七四六	一〇、六四九	九二、三、一七八	八、七三三
精製糖	三七、八一四、九六〇	三三、五二三、九八五	二二、五四五	三三、三九三、六六九	三三、〇六八
陶器	一五、七九九、〇六六	一九、〇九二、〇三九	一四、七四二	二八、八六三、六四八	三三、一四六
眞田	七、七八八、五三六	一七、八二八、八八二	一六、〇一〇	一一、七八二、二五一	一四、七三七
米器	二〇、七九一、九〇五	三、三二〇、九九三	三三、四六五	二五、四三七、一八三	三五、二六一
木器	七、〇三一、〇〇〇	一一、三九三、七三四	九、九八二	九、一七〇、八五一	一二、三九五
層材	三、三七五、二六一	七、一四八、九〇四	一、九〇六	一、一〇〇、〇三二	九、一五〇
樟腦	—	一四、一六一、七三六	二、三三三	一三、六七六、〇一六	一九、七八六
緞手	六〇六、五〇八	一四、五三一、五三七	一〇、四六三	二〇、八三五、三〇五	三二、〇三六
	二、八七〇、四一四	七、二四六、七五五	八、八七九	六、九一八、六三三	九、二一九
	三、一八五、一〇三	四、〇二二、三八八	三、四六二	五、六七二、三六三	六、三二五

品名
棉花 毛織 糖類 苧類 豆類 紙類 石類 米類 毛織 革類 小礦

(十四) 輸入重要品累年比較 (單位圓)

品名	九大十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
棉花	四四〇、七八三、九二二	四七、八四〇、八八一	五三、〇七三	六〇五、二七四、七三四	九三、〇八一
毛織	一三五、七四四、〇五八	二七、七三三、九四一	一九、一六	二五、二八二、八七三	一九八、九〇
糖類	三三、〇三三、六五三	五五、三六七、〇二二	八二、八九三	八八、〇四〇、六一四	一一二、〇七五
苧類	一一九、八八二、一六四	一一四、三七一、〇三五	一〇三、九四〇	一一八、五三二、七五六	八九、四〇四
豆類	六九、八二五、三七七	九三、九四四、二六五	五三、六二九	六三、八五〇、〇八一	七五、〇八六
紙類	一、八八六、三七二	一七、四〇九、七九七	一七、九二一	二五、三六六、五五〇	二八、六三三
石類	三四、六九一、〇七六	三九、六〇七、二一八	五〇、二七七	六〇、八八九、八〇五	七〇、五三三
米類	一三、二四七、一八一	一八、九六五、〇九六	一七、二〇七	二七、三六二、六三六	一七、五〇〇
毛織	一六、七三二、三八三	一八、七八九、七〇七	一五、二七七	一四、一四五、三三三	一三、三三一
革類	二八、八二二、九三三	六一、二七五、七三四	三一、四九四	七〇、八六六、三九七	一一〇、五一〇
小礦	一五、一七二、九四四	四九、九五三、〇三五	四七、〇九八	六一、六四七、三三七	五七、四九一
	六八九、四六四	七、四八九、五三八	七、三二六	八、四六八、九三三	七、七六六
	八、八八四、六九二	—	四、八五五	九、一七四、六四八	七、四八四
	三、五五一、〇五三	—	四七、四八〇	七三、八九六、九八〇	七〇、五三一

(十五) 對外國別貿易表 (單位千圓)

國別	大正十年		同十一年		同十二年		同十三年		同十四年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
支那	二八、〇八八	二八七、三七	一九一、六七八	三三三、五三〇	二七二、一九一	三四八、三九八	三三七、五五一	四六八、四三八	二二四、六五七	一〇一、六六二
關東	七、五九九	一一、九三二	七、五三〇	一三〇、五七四	六七、八七〇	七三、六〇一	一七五、七三六	一〇一、六六二	一七六、五九九	四七五
香港	五九、三〇四	一〇七、一七一	六五、四二一	六九〇	五五、三一九	一、六五三	七九、〇一〇	一、〇九九	七三、六三三	四七五
英領印度	八四、五〇三	二二〇、三六五	三七、三〇三	二四五、〇八八	九九、六一九	三〇五、七八一	一三五、三七三	三七八、七九一	一七五、四一三	五七三、五三三
同海峽殖民地	二、七三九	三三、八三五	二一、三四一	一八、八二〇	二〇、九二二	二五、三七二	三三、七四三	三二、三三九	四四、九〇四	三七、〇〇四
佛領印度	五四、二一〇	七〇、四三七	四七、四〇〇	七一、七五七	四〇、五九一	七二、九五六	五九、三三一	九二、四〇〇	八五、五五六	一〇三、三七一
佛領亞細亞	一、〇三三	一九、〇六三	一九、〇九八	一七、五九八	一、五五七	一〇、四六六	二、四三八	一七、九九〇	四、〇二七	四八、七一九
露領亞細亞	一三、七四一	六、八六三	一〇、九三四	一七、九九五	四、五三四	一六、五五三	三、五六二	一五、一八四	三二、一二二	一四、六七八
比律賓諸島	一七、九三二	一八、一六〇	一七、七三三	一五、三七八	一七、五三八	一三、四五六	三三、五〇七	一七、八四一	二九、三〇五	一六、七〇〇
暹羅	二、六五三	一一、二五八	五、五九八	三三、八五五	三、八四三	一一、〇六二	四、一八一	一八、四八一	七、八〇〇	三三、七三四
其他諸國	一九七、二一九	四七	一三一	一九九九	三、四三三	二、七四五	五、九三三	三、一八三	八、七〇三	四、三三三
合計	六二〇、〇九〇	六六四、六八八	六七三、二八五	七三八、〇三三	五八七、三九七	八二四、四六九	七五七、〇六〇	九九八、六〇二	一、〇〇〇、五〇一	二二八、八六六

(歐羅巴)

英吉	三、七三二	一八四、三〇六	五四、四三七	三三三、三二〇	四〇、四一〇	三三七、一三四	六一、〇四四	三二二、七五一	五九、七六六	二七、三九二
佛蘭	三五、一六六	一一、六九一	七、六八六	一八、四六三	二五、六五五	三三、三〇二	八五、七八九	三三、七七二	五八、八五四	三三、七七二
獨逸	二、二六六	四七、七三三	三、七三四	一一〇、六三三	三、三九二	一一〇、二四三	八、五六四	一四四、六四三	一一、八四四	一一、八四四
白耳	六〇一	八、一一〇	一、八八六	一四、八四四	九一九	一八、八五五	三、四一五	一九、三八四	一、八三三	一一、九三九
伊太	二、三二七	一、七六二	五、〇九六	二、九二六	二、七六七	三、四五八	六、三二九	四、四二〇	八、二〇一	三、三八八
瑞西	四三	九、九九六	一、六五	一一、九三八	四二八	一五、三四一	一六一	二二、〇二七	三五、六	二〇、七七五
奧地利	三六	六八	一六	二四八	一四〇	七八二	四八八	一、一五〇	四四七	二、八八五
捷地	三六	六八	一六	二四八	一四〇	七八二	四八八	一、一五〇	四四七	二、八八五
希臘	九三九	三、四四六	一、六八三	三、一五三	一、七七六	四、一〇三	二、八九八	七、九二一	二、六一七	五、一六五
瑞典	一九一	一三、八二七	四六三	一三、一七六	三八五	九、三七七	三三三	一六、三七〇	三七四	一三、〇六七
諾威	五	五八	四	三、五三四	二	三、三七五	一八	三、七三三	二〇	三、三五三
露亞	五	四七	一	八七七	二	二六一	一八	四八一	二〇	二九一
波蘭	三九五	七三八	六〇〇	一、一五三	六四四	五四九	七九七	一、七六八	一、八九四	三九五
西班牙	二四九	一三三	二八一	三六九	四六	六九七	三五〇	一、〇八一	八〇四	八九〇
丁其	一	九、三七〇	二四六	九八	二、一六五	四、三七二	四八六	八八二	八八二	八八二
土耳	六	二九〇	二六	八七	二	二五六	九	四三二	三	二六七
葡牙	六	二九〇	二六	八七	二	二五六	九	四三二	三	二六七

其他諸國	三三五	四一	六〇三	三七五	三五八	二八	五六六	三六一	三四四	一五八
合計	一九五,五九〇	三〇五,一七三	七五,四四一	二八,八一	七九,八三八	四三七,四八五	一七五,〇五一	五八一,四三五	一五二,六〇二	四四七,七七
(北亞米利加洲)										
合衆國	四九六,二八三	五七四,四〇〇	七三三,三七六	五九六,一九九	六〇五,六一九	五二一,九七七	七四四,九五	六七〇,九九三	一,〇〇六,二五二	六六四,九九二
加奈陀	一三,四二五	八,九四六	一三,六八七	一六,五五九	一四,三四九	二四,三六〇	一五,四五〇	四〇,〇三四	二〇,八三八	三七,一三三
墨西哥	九七六	七五	五〇七	九九三	五七七	二七〇	八七四	三〇	一,三七	八〇
其他諸國	一,四三九	六,二八二	一,九二九	六,〇四五	一,八八三	一八	三五七五	一,七四一	三,一四九	一,二九
合計	五二二,一六	五八九,七〇五	七四八,五〇〇	六二九,七六七	六三三,六四二	五三六,八〇四	七六四,八二六	七二二,七八九	一,〇三二,六九三	七〇四,九七三
(南亞米利加洲)										
秘露	九九九	一,二五一	一,三四一	一三六	一,三三九	五五八	二,〇五三	三五九	一,六六〇	七九七
智利	三四五	二,七二三	三六三	六,六一	九七四	七,三九九	一,八五三	五,二六二	一,九一七	五,三四四
亞爾然丁	二,三七	八〇七	六,五一六	四六九	六,八三三	一,七七七	八,二二八	二,六九三	八,四六三	二,〇五三
伯刺西爾	三八八	二七七	七四	二六三	八四七	一四三	一,四四七	一三	一,五八一	六八
其他諸國	四三四	五二	一,四六一	六五	一,五七七	一五一	四,四八三	一〇六	四,〇八二	一四八
合計	四,四九六	五,〇三	一〇,三五九	七,五七五	一,五六九	一〇,〇三七	一八,〇五六	八,五三五	一七,七〇五	八,四二二
(亞弗利加洲)	四,九三	三,二九	六,四三三	一〇,五七一	一八,〇四六	二〇,六六六	二七,〇八〇	一七,〇一四	二五,二六五	三三,六三五

喜望峯殖民地及 其他諸國	三,八五〇	二,八六一	四,八一九	三,七七八	四,七四八	六六三	五,七四四	九九一	九,五三八	一,三三一
合計	二八六	一,九二六	一,六四三	一七,〇九	二,四四六	一,四七七	八,三五七	四,〇六六	八,一四六	七,五二〇
(其他諸洲)	九,〇五九	一六,九九七	三三,八五	三二,三六八	二五,二四〇	三二,七六	四二,二〇一	三二,〇七六	四三,九五一	四,四七七
濠太利	二,五五八	三六,三九八	三六,七一一	八二,〇九〇	三三,六四九	九六,六三三	四二,九九七	一一九,九七一	四七,四九五	一四九,九六九
新西蘭	一,六〇七	四	三,四三八	三七一	二,六九三	二五一	二,九一〇	一〇八	三,一〇〇	一〇五
布哇	七,四五〇	一三一	五,一八九	九五	四,八三三	一四〇	五,五二一	一五七	八,〇六九	一〇五
其他諸國	一,〇三三	八,七八五	一,三四七	七,七三三	一,九五七	三,七七〇	五〇九	七,五三七	四一一	四,〇一五
合計	三二,六三一	四五,三三三	四六,六六七	八九,八二九	四三,一一二	一〇〇,七六四	五〇,八三八	一一七,七六四	五九,〇七七	一五四,一四一
通計	一三五,二八四	一六〇,三五八〇	一六〇,三七五	一八九,〇三八	一四四,七五〇	一九八,二二二	一八〇,七〇三	二四三,四〇二	二二〇,五五八	二五七,三六五

(十六) 輸出入貿易船國別表

(單位千噸)

國別	大正十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
出港	九,六六一	九,七七五	一〇,五六三	一〇,一三三	一〇,一四三
入港	一九,二四五	一九,三〇四	二二,一七六	二二,三三九	二六,四二八
出港	一九,六六一	一九,七七五	二〇,五六三	二〇,一三三	二〇,一四三
入港	一九,二四五	一九,三〇四	二二,一七六	二二,三三九	二六,四二八
出港	九,六六一	九,七七五	一〇,五六三	一〇,一三三	一〇,一四三
入港	一九,二四五	一九,三〇四	二二,一七六	二二,三三九	二六,四二八

海運

(十八) 開港場

船種	總計	伯國	巴馬	支那	露亞	西班牙	波蘭	伊太利	丁抹	諾威
汽船	三、八二一					七		二七	三	五
帆船	一、七四五					二八、二六九		九六、六六六	九、三九二	八、八一六
汽船	四〇、八七九					九		一七	一四	一四
帆船	九		一	三	一	七	三	二七	一四	一四
汽船	三、三二一					七、三六一		一〇、〇九八	九七、九五八	六八、五五六
帆船	六、九四〇					四、六五六		二七、五一	一〇、四一四	一〇、四一四
汽船	二、一八五					四、四七三		一〇、〇九八	九七、九五八	六八、五五六
帆船	二、一八五					二		一	二	
汽船	三、三四四					三、三四四		四、〇五〇	一八、三九一	
帆船	六、三二九					一		一	二	
汽船	一、七四八					一		一	二	
帆船	四、七、八六四					一		一	二	
汽船	五〇四					二		二	七	八
帆船	一、六七七					二		二	七	八
汽船	九、七三五					二、〇四二		九、七三五	六、七三四	三六、四七〇
帆船	九、七三五					二、〇四二		九、七三五	六、七三四	三六、四七〇

本邦開港場左ノ如シ
 横濱、神戸、新潟、夷港、大阪、長崎、函館、清水、武豊、名古屋、四日市、絲崎、下ノ關、門司、若松、
 博多、唐津、住ノ江、口ノ津、三池、三角、殿原、佐須奈、鹿見、那霸、濱田、境、宮津、敦賀、七尾、
 伏木、青森、小樽、根室、釧路、室蘭、大泊、今治、徳山、鹿兒島、眞岡、舟川、舞鶴、

海運

本邦開港場左ノ如シ
 横濱、神戸、新潟、夷港、大阪、長崎、函館、清水、武豊、名古屋、四日市、糸崎、下ノ関、門司、若松、
 博多、唐津、住ノ江、口ノ津、三池、三角、嚴原、佐須奈、鹿見、那覇、濱田、境、宮津、敦賀、七尾、
 伏木、青森、小樽、根室、釧路、室蘭、大泊、今治、徳山、鹿兒島、真岡、舟川、舞鶴、

(十八) 開港場

諾威	丁抹	伊太利	波蘭	西班牙	露西亞	支那	巴那馬	伯國	總計
汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船
二五	三三	二七	七	七	七	七	七	三、八二	三、八二
八、八二六	九、三九三	九、六六六	二八、二六九	二八、二六九	二八、二六九	二八、二六九	二八、二六九	一七、四七五	一七、四七五
一四	一四	一七	三	三	三	三	三	四〇、八七九	四〇、八七九
六、五五六	一〇四、一四四	九七、九五八	二七、五五一	七、三六三	七、三六三	七、三六三	七、三六三	一八、二五五	一八、二五五
二	二	一	一	一	一	一	一	三、三三二	三、三三二
一八、三九一	一八、三九一	一八、三九一	四、〇五〇	四、〇五〇	四、〇五〇	四、〇五〇	四、〇五〇	六、九四〇	六、九四〇
三	三	四	七	八	八	八	八	三、二八〇	三、二八〇
一一、〇〇一	二八、九四一	九八、〇六五	二八、一六六	一七、〇八四	一七、〇八四	一七、〇八四	一七、〇八四	三、一八〇	三、一八〇
八	七	一〇	二	二	二	二	二	二、八八五	二、八八五
三、四七〇	五〇、八八九	五、二八二	六、七三四	九、七三五	九、七三五	九、七三五	九、七三五	一、六七七	一、六七七

海 運

◆大正十三年度海運大勢

▽歳頭樂觀の裏切。歳頭各方面の豫想観は内外共に樂觀に一致し目先近海船腹過剩に運賃界は暴落し居るも北洋材先物運賃の如きは相當強硬値を維持し一月中旬の運賃界は

若松 横濱 石炭 一圓十五錢
 大連 横濱 豆粕 十 錢
 樺太 内地 丸材(先物) 百六十圓

といふ標準であつたが唯一の樂觀材料であつた遠洋運賃が意外にも不振を辿り南米小麦積取船の輻輳からブレスト歐洲二六志が俄に一六志と暴落する北米日本の材木も最高十二弗半から九弗と低落する有様で先づ遠洋方面に於て樂觀豫想を裏切り大型船は近海荷動を期待に弗々遠洋から近海へ集注する状況となり若濱石炭運賃の如き再び一圓十五錢と低落するといふ有様で近

海荷動期を控へて不自然的意外の市況を現出した左に年初三ヶ月間に於ける市況大勢を示す

	一月	二月	三月
遠洋備船料	一、〇錢	一、八〇錢	一、六〇錢
近海備船料	三、〇錢	三、〇圓	三、七〇錢
倫敦備船料	四 志	四 志	四 志
南米歐洲運賃	二六志	二六志	二三志
若松横濱運賃	一、二五錢	一、〇錢	一、二五錢
北米材運賃	三弗五仙	一二弗	一一弗
新造大型船價	一二五圓	一二五圓	一二五圓

▽支那動亂と船腹剩。近海各方面の解氷に一齊荷動を見る四月に入り不自然にも大型船の壓迫に運賃界は漸落趨勢に轉じ百八十圓を唱へた北洋材が百四十圓に暴落する有様で定期船の歐洲向け原料品の出貨繁忙を除き内外共に海運界は不振に陥り英佛伊三國の繋船は再び漸増傾向に轉する慘狀であり夫に逆爲替の關係で北米材の輸入は全く杜絶する世界の農作物は砂糖小麦共に豐作豫想を傳へられる等で我大型遠洋船は自然近海

に集る夫で肝腎の北洋材出廻りに悲觀される亦六月に入り上海を中心に長江一帯から香港に掛けての排外運動が突發し本邦船は立往生日清の長江並に支那沿岸航路と郵船の上海航路は一時休航となる不定期船の配船も困難となり一切は自然北洋材積取りに割込む爲めに船腹過剰の傾向を一層濃厚ならしむると思ふ有様で六月末に至り各方面の運賃は暴落氣配となつた以下四五六の三ヶ月間の大勢を記す

遠洋備船料	四月	五月	六月
近海備船料	一、〇〇錢	一、五〇錢	一、三〇錢
倫敦備船料	三、〇〇錢	三、五〇錢	三、三〇錢
南米歐洲運賃	三志	三志	三志
北米材運賃	一志六片	一七志	一七志
北洋材運賃	九弗	八弗五仙	七弗五仙
北米材運賃	一五〇圓	一五〇圓	一四〇圓
若松橫濱運賃	一、〇〇錢	一、八〇錢	一、七〇錢
新造大型船價	二〇圓	二〇圓	二〇圓

一時五六十萬噸を配船した北米航

路は六月に至り僅に十數噸に激減し十二弗を最高とした米材運賃が七弗七五仙の暴落九州炭の上海乃至香港行社絶に近海配船は早くも六月末に於て百六十萬噸を突破する洪水的割込みに各方面の運賃は暴落し樺太材の直物は百十圓臺で成約され全然採算点を失ふ慘狀で八月上旬に於ける不定期船狀況は左の如くであつた

近海一區配船	三、四隻	一、六六八隻噸
北洋材運賃(標準)	一〇圓	
北米日本配船	一〇隻	八三、五八噸
北米材運賃(七月)		七弗五仙
若松橫濱石炭運賃		一圓〇〇錢

近海配船百六十八萬噸は未曾有の數字であり北米日本の配船八萬二千噸これ又近頃稀れな不振である如く我國中心の海運界として年中最も順調であるべき夏季四ヶ月の運賃界が春秋兩季よりも下位を辿つたことはこれ又奇現象であつた唯だ八月末に至つて漸く支那の排外運動が終熄したので石炭輸送を始め支那向配船の引合續出し爰に市況一轉の傾向に轉した左に夏枯季三ヶ

月の市況大勢を示す

遠洋備船料	七月	八月	九月
近海備船料	一、四〇錢	一、五〇錢	一、八〇錢
倫敦備船料	三、〇〇錢	三、五〇圓	三、五〇錢
南米歐洲運賃	三志	三志	三志
北米材運賃	一七志	一七志	二一志
北洋材運賃	九弗(先物)	九弗	七弗五仙
北米材運賃	二〇圓	二〇圓	一五〇圓
若松橫濱運賃	一、七〇錢	一、三三錢	二、〇〇錢
新造大型船價	二〇圓	二〇圓	二五圓

若松上海石炭運賃 二圓七〇錢
 大連橫濱豆粕同 一八圓
 橫濱内地丸材 百五十五圓
 一方北米小麥の輸入開始されるといふ有様で大型船續々遠洋出動となり我海運界は時ならぬ花の春を迎へた觀があつた大型船の北米出動は益々旺盛で八月の八萬噸が九月には一躍二十九萬噸に十月四十萬噸十一月五十二萬噸歳末は五十六萬噸の盛況然るに近海一區配船も案外減少せず十月末に尙百六十萬噸十一月末に百五十萬噸歳末百四十萬噸といふ盛況であつたのに拘らず北洋材は十一月積百八十圓を維持し石炭運賃も若松運一圓五十錢を最安として歳末配船と新年積先約が意外にも順調に成約され寧ろ船腹拂底傾向を以て越年した如き昨年の海運界は始終豫想を裏切る意表に出でたが大勢に於て船主は小康を維持した譯である左に歳末三ヶ月間に於ける市況大勢を示す

近海備船料 二、五錢 二、七錢 二、八錢
 倫敦備船料 三志 三志 三志
 南米歐洲運賃 二、四志 二一志 一七志
 北米材運賃 二弗五仙 一二弗 二弗五仙
 北洋材運賃 一八〇圓 一八〇圓 一六〇圓
 若松橫濱運賃 二、〇錢 一、九錢 一、五錢
 新造大型船價 二、五圓 一三〇圓 一三〇圓

▽古船輸入熱再燃 以上の如く昨年度の海運界は年初の樂觀見越を裏切り四月以降近海荷動期に際し不自然にも運賃低落を示し夏枯季に際し支那の動亂が突發したので一層悲惨を極め當時の状況ならば北洋材積取終了後の海運界は非常に慘狀を極むるであらうとの豫想を又々裏切り今日は反對に支那方面の荷動は繁忙と北米小麥の輸入に大型船の遠洋消化が意想外に旺盛であつた關係で歳末の冬枯季も殆んど影響なく案外運賃備船料とも春高見越しの強調を保ち又々採算本位から社外船主の古船輸入が企てられ歳内に成約されたものが九月以降三四ヶ月間に十一隻五萬七千二百九十噸(重

量)を算した位いで十四年度の海運界は全然豫想を裏切り春安の秋高といふ大勢であつた左に十四年度海運大勢を示す

積揚地	最高	最低
若松	二、〇〇錢	一、一五錢
同上海	二、七〇錢	一、六〇錢
同香港	三、五〇錢	二、四〇錢
北連	一、八錢	一、〇錢
同日本	三弗五仙	七弗五仙
北米	四弗七五仙	三弗七五仙
同歐洲	四二志	三〇志六片
カーチフ	一一志	八志六片
フレイト	二六志	一志九片
樺太	一八〇圓	一五〇圓
仁川	七五圓	四〇圓

四千噸以上 三、〇〇 一、四〇錢
 二千噸以上 三、七五 一、五〇
 二千噸以下 四、〇〇 三、〇〇
 沿海海船 五、三〇 四、五〇

不況期の海運界としては運賃備船料共に相當値額のある消長を示したが要するに東洋方面が下半季の活躍を演じた割合に大西洋方面は歐洲大陸の豐作が原因として小麥荷動閑散に依る平凡に不振を繼續した

汽船現在數(六月末)

年	日本	世界
十三年	三、八四三、〇〇〇噸	六、一五四、〇〇〇噸
十四年	三、九一九、〇七噸	六、三〇〇、一七六噸
十三年	七、八三五噸	二、二九九、九八三噸
十四年	五、〇〇九噸	二、九三三、〇〇〇噸

以上は海運大勢を示したのであるが結論として賣買船並に備船の各月に於けるレコードを略記する

月次	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
備												
遠洋												
近海												

(一) 船舶

◆世界船舶噸數 (噸數百噸以上)

(本邦帆船ハ登簿噸數三百噸以上) (毎年度六月末現在、ロイ卜調査)

國別	大正八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
英國	一八,二〇八,二〇八	二〇,一四二,八八〇	二,五八八,六〇六	二,六二五,〇〇九	二,六九五,〇七四	二,五四六,〇四四	二,九〇七,九三〇
米國	三九,九,六六七	四四,九,七七二	四八,二,一九二	四七,五,五一一	三六三,〇三八	三三三,四五六	三一〇,二七四
獨逸	一一,九八三,五六六	一四,五七四,三七五	一五,七四六,三八四	一五,八〇八,四六二	一五,六八四,七八七	一四,七七二,三三四	一四,二七三,三三九
佛國	一,〇八八,五二七	一,四七四,九二四	一,二九九,六一八	一,二五五,九九八	一,三〇〇,五七六	一,一八五,六五三	一,〇〇五,一五一
諾威	三,二四七,二五三	四一九,四三八	六五四,四〇七	一,七八五,七七七	二,五〇九,七六八	二,八七三,三三〇	三,〇〇六,二七〇
伊太利	一,五九七,二九九	二,五三三,二二三	二,三七一,〇五一	二,四一七,六八〇	二,三九五,九七〇	二,三九二,四〇四	二,六一八,四四五
日本	二,六〇〇,五三〇	二,三九,八二八	二,三三,〇〇七	一,八三三,一八一	一,七五五,九四二	一,二二,九九九	六二,一九七
和蘭	一,九六一,七五三	二,九六三,二二九	三,二九八,七九五	三,五三七,三八二	三,四五二,九四〇	三,二八九,八三四	三,三九,六四五
日	二,七二,八七八	二,八一,九六五	二,四〇六,五三七	三,〇八,四〇〇	二,八八〇,七七六	二,七八八,六〇六	二,九三〇,八三三
伊太利	三,四九,〇三八	三,六二,四三九	三,五五,七五一	三,五八六,九一八	三,六四〇,一四七	三,八四二,七〇七	三,九一九,八二五
佛國	二,三三,五六六	三,六二,四三九	三,五五,七五一	三,五八六,九一八	三,六四〇,一四七	三,八四二,七〇七	三,九一九,八二五
諾威	一,五七三,七三〇	一,七七三,三九二	二,三〇八,四三三	二,六一七,四八五	二,六〇七,二一〇	二,五四二,一八〇	二,五八七,七八九
和蘭	一,八一,九七七	二,〇〇,〇〇四	一,七,三五三	一,一五,三二八	一,一八,五三一	一,四,三三七	一,三,〇四二

露國汽 瑞典汽 丁抹汽 西班牙汽 希臘汽 伯刺汽 西爾汽 白耳義汽 葡萄牙汽 亞爾汽 然爾汽 其未汽 總計汽

露國汽	五二四,四七六	五〇九,五五四	四〇三,六七六	一,〇四〇,〇三三	一,一三五,六二二	三三〇,九二一	三二二,八五四
瑞典汽	二六,五二九	二四,九三三	八,七八三	七五,三四三	七三,一五二	六一,四七四	八,四〇三
丁抹汽	九一六,六二七	九六六,四三三	一,〇八五,九八四	一,〇四〇,〇三三	一,一三五,六二二	一,一九一,〇七六	一,一五三,九〇〇
西班牙汽	七五,九八四	七六,五〇二	七四,二二七	七五,三四三	七三,一五二	六三,四七四	四七,三三六
希臘汽	六三,三三一	七二,四四四	八八三,〇五三	九六三,一四二	九三七,七四三	九八九,七〇三	一,〇二二,六二七
伯刺汽	七二,一〇五	八三,九六七	一一,五五三	一,二二,二七六	一,九九,一九	一,一七,九〇〇	一,四三,七九四
西爾汽	四一,五二六	五九,七五〇	五三,九七八	六二,四八一	六一,四九〇	五二,六二二	五二,六二二
白耳義汽	二九,七九三	四九,九六六	五八七,二五〇	六五七,六〇四	七四七,四一四	七五九,九二二	八四四,五五二
葡萄牙汽	三〇,〇三三	四九,九六六	一一,六八九	一〇,五三三	七,九六七	四,二九八	三,三三六
亞爾汽	四九,五八八	五七,三三四	四七,四三六	四六,九四四	四九,四一六	四四,六〇五	四四,七,五五四
然爾汽	二〇,〇八七	二二,六六六	二二,八八九	二二,三二七	一九,二二四	二〇,二一九	一八,〇八九
其未汽	三六,三七九	四一,〇四三	四四,六六一	五七,〇七四	六一,〇五〇	五九,〇九一	五三,八一三
總計汽	二四三,七二七	二四三,七二七	二二〇,一八七	二四一,八七三	二〇五,六三三	二〇五,六三三	二二,三六〇,三七六

◆世界船舶噸型別年齡比較

(一九二五年六月現在口)
イ下調査總噸百噸以上

船型	五年以下	五年以上	十年以上	十五年以上	廿五年以上	廿五年以上	合計
五百噸以上	九一四	二,七四三	一,六六一	一,五三二	一,二四八	三,五四八	一,一六三六
五百噸未滿	三三二,九四三	七〇七,一九五	三六八,八二三	三三八,四九九	二七六,七三九	七七四,八九九	二,七〇五,二九六
千噸未滿	四二六	六六七	三六一	三三六	二八二	一,〇三六	三,一四七
千噸以上	七〇七	八八八	四三三	四三七	四四三	一,〇六七	三,八八五
二千噸未滿	一,〇五九,六二五	一,一八六,三九六	六二五,三三六	六〇五,九五五	六四一,二五一	一,五三〇,七六〇	五,六八九,二八三
二千噸以上	六六六	一,四二一	四〇〇	四〇〇	五五七	一,〇一四	四,四六八
四千噸未滿	一,七五九,六五八	三,九四七,八七四	一,三三九,二四九	一,三九八,八七六	一,七二二,八〇三	二,八九三,七四九	二,九四二,二〇九
四千噸以上	五八九	一,三四九	五〇五	四一一	三八三	二八五	三,五三二
六千噸未滿	二,九八九,七八一	七,一四二,〇〇一	二,四八五,〇〇七	一,九七七,五四五	一,八〇二,三三三	一,三七一,七七七	一七,七六八,六三四
六千噸以上	四三九	六六三	二五九	一九五	九六	八二	一,七二四
八千噸未滿	二,九六七,〇三三	四,五〇〇,〇五三	一,七七一,六四九	一,三五五,七四六	六四七,六五〇	五五〇,三七〇	一,一七六,四九一
八千噸以上	一六七	一一〇	八〇	五一	三一	一六	四六七
一萬噸未滿	一,四八〇,六四〇	一,〇四一,五七三	七〇六,四七九	四四六,一九六	二六九,〇八七	一四一,九七	四,〇八五,八九一
合計	一,四八〇,六四〇	一,〇四一,五七三	七〇六,四七九	四四六,一九六	二六九,〇八七	一四一,九七	四,〇八五,八九一

船型	五年以下	五年以上	十年以上	十五年以上	廿五年以上	合計
一萬噸以上	一,〇〇〇	三三	六一	二二	二二	一,〇八六
一萬五千噸未滿	一,二二七,〇〇六	三八二,五二七	七三六,五七〇	二四二,四五一	二四九,六四三	三,〇〇四,〇一三
一萬五千噸以上	三四	一〇	八	八	五	六六
二萬噸未滿	五七二,九〇〇	一六七,三六二	一三三,七七七	一三七,四五六	八九,五九六	一,一六,四一七
二萬噸以上	四八二,四一一	二七,一三一	二七〇,四七五	一〇三,一七四	一一二,二五五	九九五,四五七
合計	三,〇九二,一九八	一九,五九八,八八三	八,五八六,一一六	六,八四九,九三五	六,〇〇二,二六八	三,三八〇,三七六

船型 隻
 五百噸以上
 二百噸以上
 一萬五千噸以上
 一萬噸以上
 八千噸以上
 六千噸以上
 四千噸以上
 二千噸以上
 千噸以上
 五百噸以上

總計	一、三三三、一〇四	二、〇三八、五〇一	一、四四五、七二二	七九〇、一〇三	五五四、六三〇	二八一、五八八	一、二八五
五年以下	一、九七、六八三	九八八、六四八	七九五、四一四	三三一、七七八	二二九、三九〇	二七六、七三五	六、四二二、六二八
五年以上	二、三三六、四二一	一、〇〇、八七八	三三三、六七六	二二八、六八〇	一三七、五三三	八八、〇五七	一、二八五
十年以上	一、〇〇、八七八	二四〇、七四〇	四三九、六九七	二〇七、三九二	一三三、八六一	一二六、五三三	六、四二二、六二八
十五年以上	一〇〇、八七八	一〇〇、八七八	一三三、七七八	六八、七九九	三九、三四八	一三六、五三三	一、二八五
廿年以上	一〇〇、八七八	一〇〇、八七八	一三三、七七八	六八、七九九	三九、三四八	一三六、五三三	一、二八五
廿五年以上	一〇〇、八七八	一〇〇、八七八	一三三、七七八	六八、七九九	三九、三四八	一三六、五三三	一、二八五
合計	九、五四〇	六、五二七	一、六七一	一、七六八	二、四五六	三、九八六	六、五四〇

總計
 二萬噸以上
 一萬五千噸以上
 一萬噸以上
 八千噸以上
 六千噸以上
 四千噸以上
 二千噸以上
 千噸以上
 五百噸以上

總計	一、六三三、二八三	八、三九九、六三三	九一七、〇六五	一、三六七、八四二	九八九、一四八	九一、四三五	一、四二八、四〇一
五年以下	二九八、四〇八	一七、二八一	五三、九五七	二二、七八八	二、一四四	二、四九五	一、〇四、八八九
五年以上	一、三三四、八七五	八、二二二、八五二	八六三、一〇八	一、一四五、〇五四	九八七、〇〇四	八九、〇九〇	四、三三九、五一一
十年以上	一、三三四、八七五	八、二二二、八五二	八六三、一〇八	一、一四五、〇五四	九八七、〇〇四	八九、〇九〇	四、三三九、五一一
十五年以上	一、三三四、八七五	八、二二二、八五二	八六三、一〇八	一、一四五、〇五四	九八七、〇〇四	八九、〇九〇	四、三三九、五一一
廿年以上	一、三三四、八七五	八、二二二、八五二	八六三、一〇八	一、一四五、〇五四	九八七、〇〇四	八九、〇九〇	四、三三九、五一一
廿五年以上	一、三三四、八七五	八、二二二、八五二	八六三、一〇八	一、一四五、〇五四	九八七、〇〇四	八九、〇九〇	四、三三九、五一一
合計	一、六三三、二八三	八、三九九、六三三	九一七、〇六五	一、三六七、八四二	九八九、一四八	九一、四三五	一、四二八、四〇一

獨佛日米英 逸國本國國 總計 一萬五千噸以上 二萬噸以上

◆世界船舶國別年齡比較

(一九二五年六月ロイ)
 (下調査總噸百噸以上)

五年未滿	十年未滿	十五年未滿	廿年未滿	廿五年未滿	廿五年以上	合計
五,四四八,八九噸	五,三三三,五二五	四,二六七,四三九	二,六五九,三〇〇	二,一八八,六五五	二,一〇〇,二二八	二二,九〇七,九二四
一,五四〇,雙	二,一八六	一,七三三	一,三三〇	一,一五五	二,一〇〇,六八八	一〇,〇六八
一,六三三,二八三	八,三九九,六三三	九一七,〇六五	一,三六七,八七二	九八九,一四八	九一,四三〇	三,八二九
二五八	一,六三三,一八二	一八〇	二八四,四八九	三七二,〇一五	四〇〇	二,〇八七
五,四四,三二〇	一,六三三,一八二	三二一,一九三	二八四,四八九	三七二,〇一五	四〇〇	三,九一九,八〇七
二三四	六八六,一七七	六六七,〇七六	三六三,一〇六	三三八,四六三	三六八,八二六	三,三一九,六四五
八九六,九九八	三三六	二七〇,一〇〇	二八五,三七一	二四七,七四七	四四八,五三三	三,〇〇六,二七〇
一,五二〇,八二〇	二二二,八二九	二七〇,一〇〇	二八五,三七一	二四七,七四七	四四八,五三三	三,〇〇六,二七〇
總計	五,四四,三二〇	一,六三三,一八二	三二一,一九三	二八四,四八九	三七二,〇一五	三,九一九,八〇七

船型 隻 噸 以下 五年以上 十年以上 十五年以上 廿五年以上 廿五年以上 合計

以下	五年以上	十年以上	十五年以上	廿五年以上	廿五年以上	合計	
二四,三九五	八七,五五四	二二,四六五	一〇〇	一四,三三五	一〇六	一八六,四三八	
二〇,九五五	一三三	一八,五七四	二六	一三,三四三	一八	二八四,七八五	
二〇,九八二	一〇九,五六〇	一〇,五八八	一四,九六五	二二,三四三	六四	二四,七八五	
三四,九三一	一七五,四一九	一〇,五六八	二一,八五九	三五,一九九	二四	三六,九四五	
二二,四二二	二八四,四六八	五八,八四四	四二,三七四	二九,七五三	一三三	一〇八,四三三	
一〇七,九三三	六二七,六四六	四七,六三六	一〇六,三七三	一八三,三三六	三六	一〇八,四三三	
一五五,二三八	二八五,〇五八	四六,九三六	四四,〇七六	一三五,九九九	一〇	一〇八,四三三	
二八,六三三	六二,五七八	五七,〇九六	二六,二四〇	二〇,八三四	一〇	一七三,五三六	
五,一八六		四九,一〇四	一三,四〇二	二二,五九二		一七三,五三六	
合計	二四,三九五	八七,五五四	二二,四六五	一〇〇	一四,三三五	一〇六	一八六,四三八

國別	A	B	C	D	E	F
英國噸數	153.3	217.7	172.2	231.1	114.4	210.0
米國	117.9	53.1	73.3	99.9	68.8	64.9
日本	113.3	42.8	80.0	77.9	99.2	190.1
佛國	114.1	24.6	14.1	14.0	9.5	11.0
獨逸	29.0	7.2	10.9	11.5	8.0	20.6
伊太利	13.7	1.8	1.4	1.4	1.4	1.2
和蘭	10.0	3.6	5.8	1.0	1.0	1.0
諾威	14.0	1.0	1.1	1.4	1.1	1.6

今之を ABCDEF の六つに區分し各國同一年齡船の其の所有全汽船に對する比率を見るに次の如し

國別	瑞	西	丁	希	白	伯	其	合
滿(D)は二十年未滿(E)は二十五年未滿(F)は二十五年以上	26.8	27.7	23.6	20.0	11.2	0.6	7.3	13.3
(註) (A)は五年未滿(B)は十年未滿(C)は十五年未滿(D)は二十年未滿(E)は二十五年未滿(F)は二十五年以上	16.9	18.4	24.3	21.6	11.8	1.1	11.7	26.7
	8.1	10.3	10.2	7.8	1.9	0.3	11.0	13.6
	10.0	10.4	10.1	9.3	1.3	0.1	11.5	10.9
	9.1	7.0	11.2	7.8	1.3	0.1	11.5	10.9
	4.0	3.3	5.8	3.3	0.7	0.1	11.5	10.9
	4.0	3.3	5.8	3.3	0.7	0.1	11.5	10.9

國別	伊	和	諾	瑞	西	丁	希	白	伯	其	合
伊太利	600,133	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
和蘭	840,527	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
諾威	267,591	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
瑞典	268,966	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
西班牙	187,379	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
丁抹	273,666	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
希臘	27,086	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
白耳義	51,343	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
伯刺爾	2,935	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
其他	190,695	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210
合計	13,092,198	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210

◆世界汽船增加趨勢
(百噸以上汽船)

年次	船數	噸數
一九二〇	三、〇〇八	三、七九〇、六九五
一九二一	三、四七三	三、七八一、五二二
一九二二	三、二七	四、五八、一七七
一九二三	三、八九七	四、〇七九、一七七
一九二四	四、四四四	四、四〇三、八七七
一九二五	四、五五八	四、五七九、二〇八
一九二六	四、三三	四、三三、七二四
一九二七	四、一七一	四、一七一、九二六
一九二八	四、一七一	四、一七一、九二六
一九二九	四、一七一	四、一七一、九二六
一九三〇	四、一七一	四、一七一、九二六
一九三一	四、一七一	四、一七一、九二六
一九三二	四、一七一	四、一七一、九二六
一九三三	四、一七一	四、一七一、九二六
一九三四	四、一七一	四、一七一、九二六
一九三五	四、一七一	四、一七一、九二六

◆本邦海運發達趨勢
(百噸以上汽船)

年次	船數	噸數
明治七	一八	二六、二〇
八	一四九	四〇、三〇四
九	一五九	四〇、二四八
一〇	一八三	四九、一〇五
一一	一九五	四三、八九九
一二	一九九	四三、七六三
一三	二二〇	四一、二五
一四	二九八	四一、〇四四
一五	三〇四	四二、一〇七
一六	三九〇	四五、三五〇
一七	四二	四九、八四五
一八	四六	五九、六三
一九	四六五	六三、三四
二〇	四六六	七三、三三
二一	五四	八一、〇六六

◆本邦汽船月別現在數
(殖民地共)

船型	三月		六月		九月		十二月	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
五百噸以下	二、三五	二、三四、〇三九	二、三四四	二、二七、二二	二、二〇七	二、一五、八九二	二、三三四	二、一七、三四〇
千噸以下	二九八	二、三、八八〇	二六六	一九九、六五七	二七八	二〇九、〇五九	二七二	二〇四、五二八
二千噸型	二六四	三、七、七七二	二六六	三、七、九五九	二七五	三、九〇、一〇一	二七二	三、八五、二〇〇
三千噸型	一八四	四、五、一六八	一九四	四、七、六五二	一九七	四、八四、九八九	一九五	四、八〇、六〇六
四千噸型	一五三	五、八、六三二	一五二	五、一、一九六	一四九	四、八四、九八九	一五〇	五、〇八、二四五
五千噸型	九二	四一、四二二	九二	四一、四二二	九二	四一、四二二	九二	四一、四二二
六千噸型	一四一	七、九四、〇一七	一三七	七、六九、四二九	一四一	七、九二、六〇八	一三八	七、七五、二七五
七千噸型	五七	三、六八、一二〇	五六	三、六四、三九五	五六	三、四四、四〇七	五六	三、六四、三九五
八千噸型	三三	二、四三、五三六	三四	二、五〇、〇四七	三四	二、五〇、〇四七	三四	二、五〇、〇四七
九千噸型	四	三三、一一四	六	四九、九〇五	六	四九、九〇五	六	四九、九〇五
一萬噸型	一三	一、二二、六四九	一三	一、二二、六四九	一三	一、二二、六四九	一三	一、二二、六四九
合計	三、四七四	三、八九一、一六四	三、四七一	三、八八三、一五八	三、四九九	三、九二四、二一四	三、四七三	三、八九七、四三五

◆本邦海運發達趨勢
(百噸以上汽船)

年次	船數	噸數
二二	二〇	四六、六
二三	二〇	四六、六
二四	二〇	四六、六
二五	二〇	四六、六
二六	二〇	四六、六
二七	二〇	四六、六
二八	二〇	四六、六
二九	二〇	四六、六
三〇	二〇	四六、六
三一	二〇	四六、六
三二	二〇	四六、六
三三	二〇	四六、六
三四	二〇	四六、六
三五	二〇	四六、六
三六	二〇	四六、六
三七	二〇	四六、六
三八	二〇	四六、六
三九	二〇	四六、六
四〇	二〇	四六、六
四一	二〇	四六、六
四二	二〇	四六、六
四三	二〇	四六、六
四四	二〇	四六、六
四五	二〇	四六、六
四六	二〇	四六、六
四七	二〇	四六、六
四八	二〇	四六、六
四九	二〇	四六、六
五〇	二〇	四六、六

鹿兒島	三七七	油津	二八三	三田尻	二二〇	宇品	一六六	吳隆	一七四
尾道	二一〇	野島	一、八〇八	高知	一、四〇〇	島	六二	基隆	九四三
淡路	九四九	澎湖	五五五	安平	一、二五五	川	七〇二	元山	六二四
釜山	三六九	木浦	八六〇	秦皇島	六五五	沽	一、〇二〇	鎮南	七九五
天津	一、〇六五	大連	一、三三〇	廣東	一、五三三	牛莊	一、〇二〇	芝罘	八三〇
青島	八二五	漢口	一、〇七〇	香港	一、四七六	厦門	一、二二七	寧波	七九八
上海	八三〇	福州	二、二四〇	盤谷	二、七七〇	彼南	三、二六〇	汕頭	一、三三九
香港	一、四三七	西貢	二、〇一一	海防	一、七八七	ハルビン	一、二四五	イロイロ	一、六三〇
漢口	二、三四五	倫敦	三、三〇〇	巴斯ル	三、〇八五	バク	一、七二三	晚香坡	四、五八〇
ニューボート	一〇、八七〇	ニューキヤツスル	四、四〇〇	ドニヤ	四、三三七	孟買	五、二六三	紐育	一〇、〇〇〇
坡西土	七、七九五	ボートアー	八六七	ボートダー	二、九三三	ペトロバヴ	一、七二〇	ホノルル	三、五一一
ドヴァー	一〇、九四五	季浦	一〇、九八〇	ウイン	二、九三三	ロウスク	一、七二〇	ヘカロガン	三、三三〇
タウンスビル	三、八〇〇	大洋島	二、九三五	リステ	二、三三五	甲谷陀	四、四三三	カーデア	一〇、八六〇
ダンキルク	一〇、九八五	ラプアン	二、三三五	ダンデー	二、三三〇	ダニデン	五、七七五	ダーバン	七、六八〇
グラスゴー	一、一〇〇	グアトル	一、三九〇	馬耳塞	九、三三五	マンチエス	二、〇二〇	ク井ンスタウン	一〇、八〇〇

マドラス	四、三〇五	馬尼刺	一、六五四	マカツサー	二、七〇七	ケープタウン	八、三九四	フレマントル	四、三七〇
ブリマウス	一〇、七六〇	アレクサン	四、〇三〇	古倫母	四、二九五	ゴアランビー	一、〇九六	安土府	一〇、九四〇
アデレード	五、四三〇	アマステル	一、二二〇	サマラン	三、二二〇	桑港	四、八三三	サウサンブ	一〇、八五五
サンダーラ	二、二二〇	ザンザバー	六、八〇〇	メルポーン	五、〇〇〇	ミツドルス	二、二二〇	沙府	四、五六〇
新嘉坡	二、七四〇	シワイヨ	一、二六一	斯土寧	四、四五〇	シアラルタ	九、七五	ヴ井クトリ	四、五〇〇
木曜島	三、一四五	スラバヤ	三、三〇九	ヤツブ	一、五三六	ボルナバ	二、二二	オセアン	二、九三五
鎮江	九二七	アバママ	三、〇四一	アンガー	一、六七三	アレキサンド	一、三八四	亞丁	六、三九五
タンカン	一、一六一	ラポウル	二、五八二	ベリム	六、四九〇	マウリチウス	六、一〇〇	テラゴア	七、五四〇
チンワンタオ	九八五	セプ	一、六〇一	プリスベン	四、〇三三	パアロー	一〇、九八五		

□ 各國海運保護政策

各國の海運保護政策は未だ戦前に復歸せずして確定的にはあらざるも戦後各國の採れる政策の新きものを左に略記せん

△ 佛 蘭 西

一、造船獎勵及艦裝獎勵 之に關する一九〇六年四月の法律は、一九一八年限り廢止

二、郵便定期航路補助 政府は特定の汽船会社との間に比較的長期の契約を結び、極東、濠洲「ニューカレドニア」、阿弗利加、及中北米等に對する郵便定期航海を行はしめ居れるが、大正十年度に於ける豫算は大體左の通り

極東濠洲及ニューカレドニア、阿亞利加東海岸、東部地中海航路(メツサチエリ、
「ル、ハーブル」紐會間航路(セネラル、トランス、アトランチック會社)
佛國「アンチユ」中米間航路(同前)
佛國伯刺西爾及「ラ、ブラタ」間航路(「エチユツド、ド、ナバガシオ」會社)

三、汽船會社の收入調節に關する補助 一定の航路に付、之を經營する汽船會社の收入が、一定額に達せざる時は、政府其の不足分を補足し、又其の收入定額を超過する時は、政府剩餘部分を收むる方法にて政府は大正九年八月中、佛國及「コルシカ」間の航路に於て「フレーンヌ」會社との間に、又「ラ、ブラタ」航路に於て南大西洋會社との間に、夫々此の種の契約を締結し、漸次他の會社にも及ぼすべく、目下商議中

△和蘭

一、航海補助 純然たる航路補助を受け居る會社は現存せざるも、目下「ドレツセルヒンス」汽船會社が、「ロツテルダム」「ケーアタウン」間の航路を開始して、補助金支給方に付政府と交渉中
二、郵便物航送料の支給 を受け居る會社、航路、及航送料金を示せば左の通り

(イ) 「アムステルダム」 「セノア」 「ネーデルラント」汽船會社
「バタビア」 「ロツテルダム」 「ロツテルダムロイド」汽船會社
馬耳塞、 「バタビア」間航路

(ロ) 「アムステルダム」 「ペラマリボ」(南米蘭領「ギニア」)、「キユラサチ」(蘭領西印度)間
「ケーニグリツヘ、ウエスト、インデツセ、メール、テイーンスト」
「ケイニグリツヘ、ウエスト、インデツセ、メール、テイーンスト」

(ハ) 「アルシチゲン」 「ク井ンスボロー」間航路
「セーランド」汽船會社

(ニ) 「ロツテルダム」紐會間、 「ネーデルランデイシエ、アメリカニツセ、マーチャツビー」

三、政府の資金貸下 事業の獨立を企圖せしむる爲創立後數年に互り、政府より資金の貸付を爲せる汽船會社あり。左に目下收益中より右の元利金崩濟の爲、政府に對し返納中のものを擧げん。
「ケーニグリツヘ、オランデイツセ、ロイド」(和蘭、伯刺西爾、亞爾然丁間航路)
「ネーデルラント、ロツテルダムニツセ、ロイド」 「ネーデルラント、バケツト、フワールト、マリチャツビー」(瓜哇、支那、日本線)

△白耳義

一、二、〇〇〇、〇〇〇
五、九〇〇、〇〇〇
四、五〇〇、〇〇〇
一、二、九〇〇、〇〇〇

五、六〇〇「フロリン」乃至六、〇〇〇「フロリン」外に小包郵便に對し立方米に付三〇「フロリン」
一、三〇〇「フロリン」外に小包郵便に對し二立方米を超過する場合一立方米に付四〇「フロリン」
和蘭郵便物に對し 五〇、〇〇〇「フロリン」
外國郵便物に對し 四〇〇、〇〇〇「フロリン」

戦前は、三の航海會社に對し其の株式を引受けて援助する所ありしが、其の後一九一六年七月設立の「ロイド、ロアイアル、ベルチック」汽船會社に對し左の特殊の保護を興ふるに至れり

(イ) 利子保証 會社は元金償還及利子支拂保證の爲六百萬法を下らざる準備金を必要とするも、營業狀態不良にて、利子支拂に窮するときは、政府代つて之を支拂ひ、會社は之に對し十箇年間延滞利子なしに償還を行ふにあり。

(ロ) 元金保証 會社が無資力となり、且公賣に附すべき財産皆無となれる場合に、政府が社債所持人に對し會社に代りて債務支拂の責に任する旨の保證なり。

△伊太利

一、伊太利は戦前海運補助として一年約二千五百萬「リラ」を支出せしも、開戦以來之を廢止し、政府の計算に於て、各會社をして定期航海を行はしめつゝありて一九二二年二億四千萬「リラ」一九二三年三億「リラ」の支出を見るべく豫想さる。

一、政府が千九百二十三年度から實施した新造船獎勵法は左の如し

一、造船用材料ハ新造船は一總噸に付き四百八十キログラム迄、機關は一馬力に付き四十キログラム迄は免稅す但し此の制限は一九二六年限り撤廢され爾後は造船用金屬材料及非金屬材料は悉く無稅とす

一、本法に依る造船補助金は左の通り(但し一總噸に對し)(イ)鋼船五十「リラ」(ロ)コンクリート船廿「リラ」(ハ)木帆船十五「リラ」

一、機關に對する補助金は左の通り (イ)機關は一實馬力毎に廿「リラ」(ロ)ターピンは一軸馬力毎に廿三「リラ」

(ハ)内燃機關は一計量馬力毎に五十「リラ」

一、自國産材料を使用する場合(百キログラムに對し) (イ)鋼板及び山形材は十二「リラ」(イ)鋼管は七十「リラ」

(ハ)汽鐘は十六「リラ」

一、古船を解撤して之れに代ふるに同型又は其れ以上の新船を建造する場合には解撤すべき船舶一總噸毎に四「リラ」の補助金を附與す

一、本法に依り建造する船舶は三年乃至五年間所得税を免除さる

鐵船	帆船	鐵船	帆船
金額	噸數	金額	噸數
一九二三	八〇千噸	三三	三〇千噸
		一九二四	三六
		一九二五	三六
		一九二六	三五
			七〇
			二、九
			三四

一、本法補助を受くる船舶は一九二五—一九二六年の會計年度の終迄に完成するを要す

△瑞典

自國製の船舶を以て、内外航路に従事する海運業者に對し、比較的寛大な條件にて、金融の途を開ける外、別に補助の制度は存在せず、瑞典東亞汽船會社及北星線は、嘗てこの利益に浴したるも、戦時の好景氣に因り、借入金全部償却済となれり。

△諾威

諾威、西班牙間の航路に對し年額五萬五千「クローネ」を支給せしが、之は本來魚類輸出獎勵の意味にて、航路補助金ならず、其の他は海運補助の制度は存在せず。

直接間接、何等海運補助の制度なし。

△丁 抹
△西 班牙

一定の航路を指定して、契約を以て之に對し補助を與へ居れり、左に補助航路に従事しつゝある會社及補助金額を示さん。

「コムバニア、トランス、アトランチカ」	遠洋航路	九、六二七、六一一 (メセタ)
「コムバニア、トランス、メデイテラニア」	近海航路	三、四七〇、七七二
「イスレイナ、マリテイマ」	同	一、七七四、五八一
「ヴァボレ、コレオス」	同	六〇五、二二〇
「インテリシユラ、レ、スカリオ」	近海航路	五、八五〇、五七三

補助の制度なし。
△葡 萄 牙

△北 米 合 衆 國

多年海運擴張の素懷を有して果たす能はず、偶戰爭の機運に乘じ、破天荒の大船舶國となれる。米國の海運政策

に付ては述ぶべきこと頗る多きも、目下政策上に安定なきを以てこれを省略するが其主要なるものは一九二〇年海運法の主要保護條項で

(イ) 船舶建造及改造資金ノ貸付

一億圓の範圍内金利年四分見當を以て船舶の新造、Diesel改造資金として船主に貸付く(第十一條)

(ロ) 課税上の特典

戰時利得税、超過所得税に關する特典

外國貿易従事の米船に對しては一九二〇年—一九三〇年迄其收入より純収益を控除したる額に對してのみ

戰時利得税、超過所得を税課せらる、特典を有す(第二十三條)

(ハ) 郵便物の運搬に關し米國船に優先權を與ふ(第二十四條)

(ニ) 沿海貿易禁止區域の擴張

即馬尼刺を禁止區域に入る、もの(第二十一條目下停止中)

(ホ) 差別的鐵道運賃の課徴

即目下の問題なるもの(第二十八條)

郵便航送料に就て從來の総合的航送料支給方法を廢し一封度當幾何の制度を採り内外船に左の差別を設けた

因に一九二二年米國支出の航送料詳細左の如し

米國船	大西洋	二、〇八、四〇〇	太平洋	七四、七三三	其他	一、〇三三、六三三	合計	三、一五二、七六六
外國船	全	一、二六八、三三九	全	一、六三、六三九	全	三〇九、六三六	全	一、六四一、五三九

海運補助の制度なし。

△墨西哥
△伯刺西爾

最大の「ロイド、アラジレイロ」會社は、政府の直營に係るものにて、又航路補助金の支給を受け居る會社は、沿岸航行のものなり、其の補助金の年額合計三百四十四萬九千二百「ミルレース」に達せり。

△亞爾然丁

郵便物の遞送につき、船舶の出入港上、多少の便宜を與へつゝあるも、別に補助金支給の制度なし。

△智利

政府は、南部諸島及本土間の、聯絡維持の爲、年額二十八萬一千四百「ペソ」迄の支出を爲す權能を有せるも、其の支給は臨機應變であつて、額も會社も航路も一定せず。

△支那

大正九年十二月航業獎勵條例の發布ありて、交通部の指定に係る定期航海に従事する一定資格の船舶は、獎勵金を受くることとなり。その資格、航路の別に依つて自から異なり。又獎勵金の率も、遠洋航路船に在つては、一千海里につき、一噸毎に二角、その他の船舶に在つては、八百海里につき一噸毎に一角といふ風に夫々區別す。

△獨逸

最近同國郵便物が、漢堡及「ブレーメン」から直接海外に航送さるゝに至り、戦前と同様、政府は郵便物運送の報償として、現行萬國郵便條約に依り、航送料を支拂ふべき旨汽船會社と契約を結べるが、其の以外には目下何等補助の施設なし。

△英吉利

英國は、大體戦前の狀況に復歸し。「ローヤルメーブル、ステイム、バケット」會社との、郵便定期航海補助契約は一九一五年を以て期間満了となれるも、其後猶従前の契約を繼續せり。又「キューナード」會社に對する新契約を檢べて見るも、之亦全く戦前と同一の内容を踏襲せり。
Trade Facility Act (一九二〇年發布)の下に六千五百萬磅の範圍内に於て英國の産業、貿易其他の投資に對し英政府は保證を與へ居れり

□ 遠洋航路補助法

帝國臣民又は帝國臣民のみを社員若しくは株主とする商會社にして運送業を營むものは、(一)歐州、(二)北米(三)南米、(四)濠洲の航路に、五年以内の期間を限り、航海補助金の附與を受け、定期航海を營むことを得。船舶資格—補助航海に使用さるる船舶は、總噸數三千噸以上にして、一時間十二海里以上の速力を有し、帝國船籍に登錄されたる、船齡十五年以内の鋼製汽船たるを要す。外國製造の船舶は使用するを得ず、但し帝國船籍に

登録の際、船齡五年以内にして、已むを得ざる事由に出づるものは、主務大臣の認可を得て、之を使用するを得
 補助金額—使用船舶總噸數一噸、航海里數一千海里につき速力一時間十二海里を要するものに對し、五十錢以内
 速力一時間—海里を増す毎に、其百分十を増したる金額以内に於いて、航海の状況に應じ支給さる。船齡五年を
 超ゆる船舶に對しては、一年毎に其百分五を遞減さる。外國製造の船舶に對しては、半額の支給に止まる。特に
 主務大臣の認可を得たる設計に依り製造したる船舶、又は定期航海の開始後五年を経過せざる航路に使用する船
 舶に對しては、右金額百分二十五以内の増給あり。
 義務—(一)旅客、貨物の運賃を定むるに、主務大臣の認可を経ざるべからず。(二)郵便物及び郵便用品を無賃に
 て搭載し、無線電信の通信に關する設備を爲し、且つ通信事務又は航路視察の爲め、主務大臣の派出する吏員、
 無賃にて乗船せしめざるべからず。(三)其費用を以つて一定の航海修業生を乗組ましめざるべからず。
 (四)主務大臣の定むる補償金額を以つて、其船舶を公用の爲め收用又は使用せらるるを拒む能はず。(五)補助金
 を受けて航海する期間、及び最終の航海を終はりたる日より三年間、其船舶を外國人に讓渡し、
 貸渡し、又は擔保に供することを得ず。以上を其義務の主要なるものとす。
 航路—航路の起點、終點、其各航路に使用すべき船舶條件等左表の如し。

起點	終點	寄港地	傳數	總噸數	速力	航海度數
△北米航路	桑港線	神戶、長崎、上海	三	一萬二千五百噸以上	十八海里以上	每四週一回
西廻航路	桑港線	神戶、長崎、上海	三	一萬三千五百噸以下	二十海里以下	每四週一回
東廻航路	桑港線	神戶、長崎、上海				十四航海
△南米航路	西岸線					

西廻航路、香港、神戶、門司	六	六千噸以上	十三海里以上	每二箇月二回
東廻航路、バルパライソ、ホノルル、サリナクルス、カイヤ	六	九千七百噸以下	十五海里以下	一年期間
△南米航路東岸線 (神戸—グエノスアイレス間)				
往航横濱、長崎、香港、新嘉坡、ケープタウン、サントス	六	五千噸以上	十三海里以上	每三箇月二回
復航リオデジャネロ、サントス、クリストバル、横濱	七	千噸以下	十五海里以下	一年期間
右の外歐洲、北米シヤトル及濠洲の三線は事實上廢止に付削除す				

□ 郵便定期航路補助規定

郵便定期航路補助の爲め左の條件に依り大正十五年以降三箇年度間毎年度百二十三萬圓以内を支出するの契約
 を結ぶことを得
 一 政府の命する所に依り郵便物を運送すること
 ▲横濱倫敦線は總噸數七千五百噸以上速力一時間十五海里以上の鋼製汽船を以て毎二週一回以上一年期間二十
 六回以上航海を爲す事
 ▲神戸沙府線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十二海里以上の鋼製汽船を以て毎二週一回以上一年期間二十
 六回以上航海を爲す事
 ▲神戸香港線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十四海里以上の鋼製汽船を以て毎三週一回以上一年期間十七

回以上航海を爲すこと

▲横濱メルボルン線は總噸數五千噸以上速力一時間十五海里以上の鋼製汽船を以て毎月一回以上一年期間十二回以上航海を爲すこと

一、政府に於て必要を認むる時は各航路内に於て寄港地を増加し又は之が變更を命ずることあるべきこと

一、政府の認可を受けたる時は前記の資格に適合せざる船舶を使用するを得ること

一、政府は必要に應じ相當金額を給與して各航路に使用する船舶を公用の爲め買収し又は使用する事を得ること

一、補助金は命令書の定むる所に従ひ支給すること

一、政府は契約者に於て命令を履行せず若は命令に違背したる事實ありと認めたるときは所爲の輕重により相當の金額を徴収すること

一、前數項に於て一年期間と稱するは其年四月一日に起り翌年三月三十一日に終る一周年間を謂ふ

即ち郵便補助航路左の如し

一、横濱、倫敦線

一、神戸、シヤトル及神戸香港線

一、横濱、メルボルン線

□ 補助命令航路

現在遠洋近海及沿海を通し政府の補助命令航路と稱するは左記内容にして此補助航路に對しては左の附帶條件あり

一、政府に於て必要と認ムルトキハ各航路内に於て寄港地ヲ増加シ又ハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘキコト

一、旅客貨物ノ運賃ハ政府ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムルコト

一、各航路ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シテ旅客貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトアルヘキコト

一、政府ハ契約者ノ費用ヲ以テ各船舶ニ航海修業生三名以内ヲ乗組マシメ政府ノ定ムル手當ヲ支給セシメ得ル事

コト

一、政府ハ公益上必要ト認ムルトキハ相當ノ金額ヲ給與シテ各航路ニ使用スル船舶ヲ買収シ又ハ使用スルヲ得ル

給スルコト

一、補助金ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ支給スルコト但シ航海度數ヲ減シタルトキ又ハ命令書ニ規定シタル各地ニ

航行セス隨テ航海里數減縮シタルトキハ命令書ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ減スルコト

一、政府ノ認可ヲ受ケ若ハ己ムヲ得サル事故ノ爲前記ノ資格ニ適合セサル船舶ヲ使用スルトキハ命令書ノ定ムル

所ニ依リ補助金ノ支給額ヲ減少スル場合アルコト

一、補助金年額ノ約一割ニ相當スル保證金ヲ徴收スルコト

一、正當ノ事由ナクシテ航海度數ヲ缺キタルトキ、相當ノ船舶ヲ使用セサルトキ、船舶ノ修繕若ハ補充ヲ爲サザ

ルトキ、航海時間ヲ遅延シタルトキ、起點終點ノ兩港ニ於ケル發着日時ヲ變更シタルトキ、郵便物揚卸ノ契約

ニ違背シ若ハ寄港地ヲ省キタルトキ、其ノ他命令書ノ規定ニ違背シタルトキハ一日若ハ十二時間未滿又ハ一回

毎ニ所爲ノ輕重ニ依リ相當ノ金額ヲ徴收スルコト

一、政府ノ認可ヲ得シテ契約者義務ヲ他人ニ移轉シ又ハ一年期間ニ於テ命令書ニ規定スル缺航ヲ爲シタルトキハ契約ヲ解除シ補助金ノ支給ヲ廢止シ當該年期間既ニ執行シタル航海ニ對シタル補助金ヲ還納セシメ且保證金ヲ沒収スルコト

一、前數項ニ於テ一年期間ト稱スルハ其ノ年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ル一週年間ヲ謂フ

□ 航路内容及受命者 (以下自十五年四月一日契約濟) 至十八年三月末日

航路	航海度數	使用船	受命者
△北米航路(桑港線、遠洋補助)			
一、西廻、橫濱、香港間	每四週一回年十一航海以上	三隻	日本郵船
一、東廻、橫濱、桑港間			
△南米航路(西岸線、全)			
一、西廻、橫濱、香港間	每一ヶ月一回年十二回	六隻	同
一、東廻、橫濱、バルバラライオン間			
△郵便定期航路			
一、橫濱倫敦線(橫濱倫敦間)	二週一回年二十六航海	一隻	
二、神戸シャートル線(神戸シャートル間)	二週一回年二十六航海	四隻	同
三、橫濱濱メルホルン線(橫濱メルホルン間)	每月一回年十二航海	三隻	

△阿弗利加航路				
一、東岸線(神戸ダーバン間)	每月一回年十二航海	四隻	大阪商船	
△南米航路(東岸線)				
一、神戸、ヴェノスアイレス間	每三ヶ月二回年十航海	六隻	大阪商船	
△南洋航路(瓜哇線)				
一、神戸、スラーバヤ間	每三週一回年十八回航海	四隻	南洋郵船	
△支那沿岸航路				
一、南方線(上海廣東間)	每月三回年三十六航海	二隻	日清汽船	
二、北方線(上海天津間)	每月三回年三十六航海	二隻	日清汽船	
△宜昌重慶線(宜昌、重慶間)	每月四回年二十四回	二隻	同	
△支那航路				
一、上海漢口線(上海漢口間)	每月十八回年二百七十回以上	八隻	日清汽船	
二、漢口宜昌線(漢口宜昌間)	每月五回年八十四回以上	三隻	日清汽船	
三、漢口湘潭線(漢口湘潭間)	每月八回年六十八回以上	二隻	日清汽船	
四、漢口常德線(漢口常德間)	每月二回年十二回以上	一隻	日清汽船	
但し減水期は航行停止し又は航行度數を減少することあるべし				
△大連線(神戸大連間)	每週二回年百四回以上	四隻	大阪商船	

△上海線

- 一、長崎上海線(長崎上海間)
- 二、神戸上海線(神戸上海間)
- 三、横濱上海線(横濱上海間)

△北支那航路

- 一、神戸天津線(神戸天津間)
- 二、横濱牛莊線(横濱牛莊間)

每週一回年五十二航海
 每月四回年四十八航海
 三 隻
 三 隻
 近海郵船

△青島線(神戸青島間)

△日本海航路

- 一、浦鹽斯德直航線(致賀浦鹽間)
- 二、浦鹽斯德廻航線(小樽、浦鹽、伏木)
- 三、樺太線(函館大伯間)

每週一回年四十八航海
 每二ヶ月三回年十八航海
 每月五回年六十航海
 每月一回年七回

△朝鮮西岸線(東京仁川間)

每月二回年二十四回以上
 二 隻
 朝鮮郵船

△鹿兒島那霸線(鹿兒島那霸間)

△大阪那霸線(大阪那霸間)

△本州北海道連絡線(青森室蘭間)

△地方廳補助航路

- (北海道廳) ▲函館網走千島線(函館擇捉間、函館網走間、函館占守間、(近海郵船) 函館根室間(島谷汽船))
- ▲小樽網走線(北海郵船) ▲小樽稚内線(北海郵船) 乙線(藤山要吉) ▲石狩川線(藤原由藏) ▲函館日高線(金森商船) ▲函館釧路線(全) ▲根室近海線(根室商船) ▲函館瀨棚線(藤山要吉) ▲函館小樽線(全) ▲函館森線(北海郵船)

- (東京府) ▲小笠原島線(近海郵船) ▲母島姪島線(前田衛) ▲父島弟島線(淺沼丈之助) ▲父島母島線(佐藤福吉)
- ▲伊豆三宅島線、▲神津島線 ▲御藏島線 ▲大島線(東京灣汽船)

- (鹿兒島縣) ▲五箇島線 ▲十島線(大洋商船)

- (沖繩縣) ▲先島線(大阪商船) ▲各離島線(國頭運送)

- (長崎縣) ▲九州壹岐對馬線(對馬商船) ▲長崎五島線(長崎玉ノ浦線) (長崎五島佐世保線) (長崎五島早岐線) (九州汽船)

(富山縣石川縣)内地浦鹽斯德朝鮮東岸線(北陸汽船)
 (新潟縣)▲佐渡國甲線(新瀉汽船)同乙線(佐渡商船)
 (兵庫縣)▲淡路國線(播淡連絡汽船)
 ▲朝鮮並に臺灣總督府及樺太廳經營補助航路を省署す

□航路補助内容

現在逓信省及殖民地政府が航路補助金として支出せる航路別補助金額左の如し

北米航路	(△六年五、四、三七) △十七年二、三五、三	大連航路	七〇、〇〇〇
南米航路	(△十六年一、九、二、四、二六) △十七年一、八、一七、八五、△一七、七〇、八七)	日本海航路	二七〇、〇〇〇
阿弗利加航路	四〇〇、〇〇〇	北支那航路	一一七、〇〇〇
南洋航路	△近海補助航路	上海航路	五〇〇、〇〇〇
支那沿岸航路	二五〇、〇〇〇	南支那沿岸航路	二〇〇、〇〇〇
青島航路	三四〇、〇〇〇	宣昌重慶航路	二〇〇、〇〇〇
	一二〇、〇〇〇	内地浦鹽朝鮮東岸航路	四〇、〇〇〇
		朝鮮西岸航路	四〇、〇〇〇
		北海道本州連絡	四〇、〇〇〇
		北海道航路	二四四、一三四
		ベトロハウロスク航路	三〇、〇〇〇
		大阪那霸航路	二〇、〇〇〇

ニコライウスク航路
 鹿兒島那覇連絡
 伊豆諸島
 小笠原東京航路
 小笠原各離島
 九州壹岐對島航路
 島根縣隱岐國航路
 鹿兒島各離島

四〇、〇〇〇
 五〇、〇〇〇
 一一、五九六
 三〇、〇〇〇
 一、〇二〇
 三〇、〇〇〇
 一三、〇〇〇
 三四、二〇〇

沖繩、先島航路
 沖繩各離島
 新瀉佐渡航路
 △殖民地航路
 臺灣總督府
 朝鮮總督府
 樺太廳
 各命令航路内譯は不詳

二七、〇〇〇
 九、〇〇〇
 二〇、〇〇〇
 一、〇〇二、〇〇〇
 七八五、八〇五
 三四七、〇〇〇

□世界汽船會社主要航路

(巴奈馬經由航路)

△太平洋汽船會社
 □大西洋、南米及中米間航路

(北米)クリストバル、シヤンペリコ間 (南米)バルパライオン、コロロン、コロネル、シヤペリコ
 トコマイク、アドリアン諸港間 毎二三日一回
 智利、秘露、バルパライオン間 二週一回
 クリストバル、ナベンチュラ、トマコ間 三週一回
 △南米汽船會社
 クリストバル、バルパライオン間 週一回 秘露、智利、諸港、

△秘露汽船會社

クリストール、秘露間 週一回 モレマド、秘露ペータ、エテン、バカスマヨ、サラベリカラオ其他南部諸港

△太平洋鑛業會社

クリストール、バナインチュラ、コロンビヤ間 月二回

△コロンビヤ運輸會社

クリストール、バナインチュラ、トマコ間 月二回
右の内太平洋鑛業會社を除く他は貨客運輸併營す、

△太平洋郵船會社

クリストール、桑港間 十五日一回 中米及墨西哥諸港、北米大西洋岸より南米太平洋岸に至る

□マーチャント航路

△グレース商會

紐育イクアドア、秘露及智利間 週一回

△太平洋運輸會社

紐育、バルバライソ間 二週一回 カラオ、マレンド、アリカ、イキケ、アントフアガスタ

△米國鋼業會社

紐育、バルバライソ間 三週一回

△ニューオルリアンズ南米汽船會社

ニューオルリアンズ、エクドア、秘露及智利間 月一回

△ニューオルリアンズ、クリストバル間

バナナ及ボトリリカン、トリニダット、ガデルプ、クリストバル、

△グレース汽船會社

紐育、秘露、智利間 二十日一回 (客船二隻)更に(三隻二週一回の計畫中)

△セ、ウエスト、コースト汽船會社

紐育、智利及秘露間 三週一回(一隻)
(以上南北兩米汽船會社航路配船範圍)

□歐洲太平洋航路(歐洲南米太平洋岸間)

△東亞汽船會社

コツベンハーゲン、バルバライソ間 二週一回 ゴツテンアルヒ、クリスチャニヤ經由バルバライソ及其
中間諸港

△ジョンソン汽船會社

瑞典及スカンチナビヤ諸港よりバルバライソ其他の南米西岸港に至る間 二月一回

△ノーチラス汽船會社

英國、南米西海岸 月一回 英國諸國よりマゼラン海峡經由南米西岸、巴奈馬經由英國諸港

△ロイヤル、グッチ、ウニスト、インディア郵船會社

ロツテルダム、南米西岸間 月一回

△太平洋運輸會社

英國、秘露、智利間 週一回 巴奈馬經由及マゼラン經由

△ゼネラル、トランス、アトランチック汽船會社

ハーブル、バルバライオン間ドエクアドア、秘露、智利諸港

△スカンヂナビヤ諸港桑港間 四週一回 (乗客のみ)

△ウヨソソソ汽船會社

瑞典、桑港間 二月一回

△諾威太平洋汽船會社

スカンヂナビヤ、北米太平洋岸間 (發動機船)

△ハリソン、テイレイト汽船會社

英國、ビユーセットサウンド間 六週一回

△ラ、ベロス汽船會社

ゼノア、バルバライオン間 二月一回

△東亞汽船會社

△メーブルリーフ汽船會社

馬耳塞、バルセロナ、テネリフ、バルバドス、トリニダット、ヴェネズエ
ーラ、キューラソー、コロンビヤ諸港、ポトリモン、クリストバル、エ
クアドア、秘露及智利諸港

歐洲、紐育、晚香坡間 五週一回

紐育、晚香坡、カルフォルニヤ、サンタロザリア、諸港歐洲
歐洲航路

△イスト、アチアチック會社

桑港基點 月一回

□大西岸太平洋岸間航路

北米大西洋岸より日本、西伯利亞、支那及び比律賓群島間航路

本航路に従事する汽船會社は貨物の如何によりて配船さるるものなり

△米國東亞汽船會社

△ハーバー汽船會社

△シユエワンゼームス汽船會社

△アルフレッド、ホールスト汽船會社

以上の諸會社は紐育を起點として十日に一回配船す

△米國滿洲汽船會社 (三週一回)

△日本郵船會社 (月一回)

△Kライン (月一回)

△ノルトリリー汽船會社 (略月一回)

△大阪商船會社

玖馬經由日本、ニューオルリアンズ間 (月一回)
△東亞汽船會社

巴奈馬經由極東間 (臨時)

巴奈馬經由極東丁抹間 (臨時)

△巴奈馬極東汽船會社

ニューオルリアンズ、モビル、墨西哥灣沿岸諸港、日本間 (臨時)

△東洋汽船會社

玖馬、巴奈馬及び桑港經由紐育東洋間 (六十日一回配船)

△プリンス汽船會社

ボストン紐育極東間 (臨時)

□太平洋アンチホーツ間(合衆國大西洋岸より濠洲新西蘭間)

△ゼ、ユナイテッド、エンド、オーストラリヤ會社

紐育、新西蘭諸港濠洲間 (月一回)

△エラーマン會社

紐育より濠洲、新西蘭間 (不定期)

△リュッケンバツハ汽船會社

△フレラル汽船會社

新西蘭紐育間 (六週一回)

△アメリカン、チーストラリヤ會社

紐育濠洲間 (月一回)

△コンモンウエルス、エンド、ドミニオン會社

同上 (四週一回)

△新西蘭汽船會社

新西蘭英國間 二十八日一回

△コンモン、ウエルス、ガヴァーメント

英國濠洲間 三週一回 合衆國諸港經由

△ゼ、シオウ、サヴァイル、エンド、アルピオン會社

英國新西蘭間 (客) 月一回 (貨) 二週一回

△大西洋汽船會社

大西洋岸桑港間 三週一回 コロンビヤ、ハバナ經由バルチモア、桑港

大西洋岸桑港間 三週一回 中央亞米利加諸港經由桑港

本項は十一年三月現在なれば其後變更ありて現状と相違を免れず

日本中心内外競争航路

戦前(三年七月)

現在(十四年六月)

会社名	使用船	航海回数	使用船	航海回数
郵船(倫敦)	臨定	二週一回	二週	二週一回
同(季浦)	臨定	不定期	二週	二週一回
同(漢堡)	臨定	不定期	二週	二週一回
大阪商船	貨客	二週一回	二週	二週一回
彼阿汽船	貨客	二週一回	二週	二週一回
青筒線	貨客	三週一回	三週	三週一回
ローヤル	客	二週一回	二週	二週一回
メール	客	二週一回	二週	二週一回
ペンライン	客	二週一回	二週	二週一回
エラーマン	客	二週一回	二週	二週一回
郵メール	客	二週一回	二週	二週一回
漢米汽船	客	二週一回	二週	二週一回
北獨ロイド	客	二週一回	二週	二週一回
スチンネス	客	二週一回	二週	二週一回
埃匈ロイド	客	二週一回	二週	二週一回
トリエスチノ	客	二週一回	二週	二週一回
瑞丁東亞汽船	客	二週一回	二週	二週一回
和蘭東亞汽船	客	二週一回	二週	二週一回
スバニツシユ	客	二週一回	二週	二週一回
日本郵船	客	二週一回	二週	二週一回
大阪商船	客	二週一回	二週	二週一回
東洋汽船	客	二週一回	二週	二週一回
加奈陀太平洋	客	二週一回	二週	二週一回
加奈陀政府線	客	二週一回	二週	二週一回
青筒線	客	二週一回	二週	二週一回
ローヤルメール	客	二週一回	二週	二週一回
漢米汽船	客	二週一回	二週	二週一回

会社名	使用船	航海回数	使用船	航海回数
大北汽船	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
アドミラル線	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
コロンピヤ汽船	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
ダラーライン	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
ストラザース	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
三井物産	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
日本郵船	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
大阪商船	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
青筒線	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
エラーマン	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
プリンスライン	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
ダラーライン	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
キャツスル	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
タンバア	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
南米航路	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回
南米東海岸方面	客	一三ヶ月一回	一三ヶ月	一三ヶ月一回

会社名	使用船	航海回数	使用船	航海回数
日本郵船	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
大阪商船	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
東洋汽船	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
東洋汽船	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
北獨ロイド	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
東洋汽船	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
濠洲東洋線	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
中華航業	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
印度航業	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
日本郵船	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
大阪商船	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
英印汽船	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回
印度支那航業	客	一ヶ月一回	一ヶ月	一ヶ月一回

日	米	支	英	日	支	英	獨	日	米	英
本	印	國	那	國	本	印	那	國	本	南
度	國	國	國	本	度	國	國	本	南	國
航	八	七	六	航	六	三	三	航	三	航
路	路	路	路	路	路	路	路	路	路	路
(孟買方面)				(甲谷陀方面)						
四	二	五	五	二	五	一	六	三	三	三
八七、四八〇	五、二七〇	三、一四五	三、一四五	四、七六二	一八、〇九八	三、五三五	三、五三五	八六、九五	一六四、二八	一五七、九二〇

英	日	獨	英	日	獨	英	日	獨	英	日	獨	英	日	獨	英
國	本	國	國	本	國	國	本	國	國	本	國	國	本	國	國
不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九	一五、一五九
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六	二四、二六

遠洋航路優劣

遠洋各航路に於ける邦船が速力及船質に於いて各國に比し甚だしく劣勢にある爲生絲、茶、郵便物に至るまで外國船に積取られつゝあるは周知の事實であるが其の速力の如何に劣れるかを示せば次の通り

大	小	型	型
船	船	船	船
(日本郵船)	(英)	(佛)	(獨)
十三節	十四節	十四節	十五節
中			

日	本	南	洋	郵	船	日	本	南	洋	郵	船	日	本	南	洋	郵	船
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇	一九、九四〇

日	米	獨	英	日	合	和	瑞	伊	奧	獨	佛	米	英
本	國	國	國	本	計	蘭	典	利	國	逸	國	國	國
北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航
路	路	路	路	路	路	路	路	路	路	路	路	路	路
(太平洋岸)				(太平洋岸)									
二	三	一	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二
七〇、〇三〇	二〇、二八六	一〇、〇〇〇	一五、一五九	二〇、二八六	一五、一五九	二〇、二八六	一五、一五九	二〇、二八六	一五、一五九	二〇、二八六	一五、一五九	二〇、二八六	一五、一五九

▲北米航路

シヤトル線 貨物客線 (日本郵船)

十二節半

ビユーセツトサウインド線 大阪商船

十三節

桑港線 東洋汽船

十四節

▲南米航路

(イ)東岸線 (郵船)

十節半

(ロ)東岸線 (商船)

十節半

(ハ)西岸線 (東汽)

十節半

▲濠洲航路

(イ)横濱メルホルン(郵船)

十一節七

(ロ)濠洲線 (商船)

八節半

(ハ)東濠汽船 (英)

十節

□新嘉坡中心航路 (各汽船會社別)

東西兩洋の咽喉たる新嘉坡中心の會社別航路左の如し (一九二四年未現在)

一、歐洲航路

△日 本

▲横濱、安土府線、日本郵船一一隻、二週一回▲日支漢堡線、日本郵船八隻、補助航路▲日支、漢堡線、大阪商船八隻、補助航路▲歐洲、日本線、ケーライン、不定期▲日本、李浦線、日本郵船八隻、補助航路

△英、國

▲横濱、倫敦線ビーオー汽船一二隻、二週一回▲日本英獨線オーシヤン汽船、支那ミューチアル汽船不定、約一週一回▲日本歐洲線、エラーマン、バツクノール汽船不定、二週一回▲横濱漢堡線、グレン、ジャーライン社不定、二週一回▲日本倫敦線ベン、ライン社不定、二週一回▲新嘉坡、馬耳塞線、エイチ、エム、エイチ、マザジー社不定期

△佛 國

▲横濱、馬耳塞線、エム、エム社一三隻、二週一回

▲日支、佛國線エム、エム社貨物船一〇隻二週一回

▲海防、西貢線、チャーチアス、リユーニス社不定期

△瑞 典

▲日支歐洲線、瑞典東亞社七隻、不定期

△丁 抹

▲日支、歐洲線、丁抹東亞社不定期

△伊 太 利

▲日支、アドリア海線、ロイド、トリエスチノ社不定、月一回

△西 班 牙

▲マニラ、新嘉坡、パロセロナ線スバニツシユ、メル社四隻、月一回

△米 國

▲海峽地方、漢堡線バーバーライン社不定、月一回

△和 蘭

▲瓜哇、アムステルダム線、ネーデルラントローヤル郵船不定、二週一回▲瓜哇、プレーメン線、ポerland、オーストアジア社、四隻、月一回

△獨 逸

▲日支、ロットテルダム線、エヌ、デー、エル、及エイチ、エー、エル社不定期▲プレーメン、日支線、ヒューゴースチンネス社不定、月一回

二、北米航路

△日 本

▲日本、紐育線(スエズ經由)東洋汽船、不定期▲海峽地方、紐育線(パナマ經由)大阪商船、不定、月一回

△英 國

▲支那、紐育、ホストン線(スエズ、パナマ隨意)エラーマン、マツクノール汽船、オーシヤン汽船不定、二週一回▲新嘉坡、紐育、ホストン線(スエズ經由)プリンス、ライン社不定月一回▲海峽地方、紐育、ホストン線(スエズ經由)ドツドワエル、キャツスル

線社不定、月一回

△米 國

▲海峽地方紐育ホストン線(スエズ經由)ダラー線社不定月一回 海峽地方紐育線(パナマ經由)ダラー線社不定、月一回 ▲海峽地方、ホストン、紐育線、(スエズ經由)イツサミアン社不定、月一回

三、南米航路

△日 本

▲日支ベノス、アレイス線、大阪商船不定、二月一回 ▲日支ベノス、アレイス線日本郵船不定二月一回

△英 國

▲新嘉坡フレマントル線オーシャン汽船二隻、月一回 ▲海峽地方ニューカッスル線、コンモン、ウエルス、ガバーメント線社二隻月一回 ▲海峽地方、斯土寧ビーアイ社不定、月一回 ▲新嘉坡フレマントル線ステート、シツピング、サービス二隻、月一回 ▲新嘉坡フレマントル線、西濠州汽船、二隻月一回 ▲新嘉坡メルホルン線、バーンス、ヒリツプ社四隻月一回

四、孟買航路

△日 本

▲横濱、孟買線、日本郵船、四隻二週一回 ▲横濱孟買線大阪商船不定二週一回 ▲日本孟買線、日本郵船、不定補助航路

△英 國

▲日本孟買線ビーオー汽船、不定、二週一回

五、マドラス航路

△英 國

▲新嘉坡、ネガバタム線ビーアイ汽船二隻二週一回

六、甲谷陀航路

△日 本

▲日本、甲谷陀線、日本郵船、不定二週一回 ▲日支、甲谷陀線、大阪商船不定月一回

△英 國

▲日支、甲谷陀線、英印汽船五隻、二週一回 ▲日比、甲谷陀線印支汽船不定、二週一回 ▲新嘉坡、甲谷陀

線英印汽船、不定二週一回

△米 國

▲支那、甲谷陀線、バシフ井ツクメール社不定、二週一回

七、蘭貢航路

△日 本

▲ペラワン、基隆線、大阪商船二隻月一回

△和 蘭

▲ペラワン、汕頭線、ケー、ビー、エム社、二隻二週一回

△英 國

▲蘭貢、汕頭線、シアング、線社三隻、二週一回 ▲新嘉坡、上海、チャイナ、ナビゲーション社不定、二週一回 ▲廈門、上海線、チャイナ、メール社、不定約月一回 ▲蘭貢、汕頭線、ホ、ホン汽船、二隻月一回

□上海中心航路 (各社別)

支那沿岸航路に従事する國別及會社別航路左の如し (登簿噸)

英國船 三隻 四〇、八六一噸
支那船 三隻 三〇、三六五噸
日本船 二隻 一三、三七噸
次に定期船明細左の如し

△英 國

一、太沽輪船公司

(イ)上海、青島、廣東線

(ロ)上海、天津線

(ハ)上海、寧波線

(ニ)上海、安東線

(ホ)上海、牛莊線

二、怡和輪船公司

(イ)上海、青島、廣東線

(ロ)上海、天津線

(ハ)上海、牛莊線

△支 那

一、輪船招商總局

一週二 一〇隻
同 三隻
月約三 一隻
週約二 三隻
週二 六隻
週十二 二隻
週約一 三隻

(イ)上海天津線	週二十三	六隻
(ロ)上海牛莊線	週二	三隻
(ハ)上海福州線	週一	二隻
(ニ)上海香港廣東線	週一	三隻
(ホ)上海温州線	週一	一隻
(ヘ)上海寧波線	週二	一隻
二、三北輪埠有限公司		
(イ)上海福州線	月三	一隻
(ロ)上海天津線	月三	三隻
三、寧紹商輪公司		
(イ)上海寧波線	週三	二隻
△日		
一、大連汽船		
(イ)上海大連線	月三	三隻
(ロ)上海青島線	週一	一隻
二、日清汽船		
(イ)上海廣東線	月三	三隻

三、大坂商船	月二	二隻
(イ)高雄天津線		
四、日華協信公司	月三	一隻
(イ)上海青島線	月三	一隻
(ロ)上海天津線	月二	一隻
更に航路別に依る各國船の割合左の如し		
上海天津線	日支英	五、八七三噸
上海青島線	日支英	一〇、六四五
安東牛莊線	日支英	三、八四六
上海大連線	日支英	一〇、四三二噸
上海香港線	日支英	四、〇四二
廣東線	日支英	三、九九六
	日支英	三、八五四噸
	日支英	四、三三〇
	日支英	四、一四六

其他地方線	支英	一、七四噸
支那	支英	二、四五六
日本	支英	一、三三九

(イ)大連芝罘線	隔日	二隻
(ロ)大連龍口線	週二	一隻
(ハ)大連青島線	月七	一隻
四、田中商事船房		
(イ)芝罘大連線	不定期月〇	四隻
五、東和汽船會社		
(イ)大連青島威海衛線	不定期月四	一隻
(ロ)大連龍口線	不定期月七	一隻

北支那沿岸航路に於ける各社別航路左の如し

□大連中心航路 (各社別)

一、大連汽船會社	月三	三隻
(イ)大連青島上海線	月約三	二隻
(ロ)大連安東天津線	月約五	一隻
(ハ)大連天津線(冬期停止)	月約六	一隻
(ニ)大連龍口線	不定期月二、三	三隻
(ホ)大連北支那線		

□巴奈馬運河通過統計 (一九二五年)

英國	二、三三六	總噸數
日本	一、三二九	
美國	一、七三三	
日	一、六三三	
獨逸	一、九二二	
諾威	一、〇五五	
其他	八五五、一九四	
合計	八三三、一六六	
合計	八三三、一六六	

二、阿波國共同汽船會社	月三	一隻
(イ)大連芝罘仁川線	月四	一隻
(ロ)大連芝罘青島線	不定期月三、四	二隻
(ハ)大連北支那線		
三、政記公司		

英國	二、三三六	總噸數
日本	一、三二九	
美國	一、七三三	
日	一、六三三	
獨逸	一、九二二	
諾威	一、〇五五	
其他	八五五、一九四	
合計	八三三、一六六	
合計	八三三、一六六	

佛伊太	瑞爾	西典	智利	丁牙	巴抹	其牙	合計
一〇五	七五	三三	四三	三三	三三	三三	四、六三
六四三、四三八	三三八、七九六	二九五、六二二	二八一、六三八	二二二、〇六五	二〇〇、〇三〇	一九〇、四三一	九〇、七九七
二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三

佛伊太	瑞爾	西典	智利	丁牙	巴抹	其牙	合計
一〇五	七五	三三	四三	三三	三三	三三	四、六三
六四三、四三八	三三八、七九六	二九五、六二二	二八一、六三八	二二二、〇六五	二〇〇、〇三〇	一九〇、四三一	九〇、七九七
二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三

佛國	日本	獨逸	伯爾	英領	埃州	濠州
三、四八〇	三、二二三	二、五〇二	二、五〇二	五、四三三	四、四〇〇	四、四〇〇
一、〇五〇	一、〇四〇	六三二	五五八	四〇〇	三〇〇	二六三
二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三

佛國	日本	獨逸	伯爾	英領	埃州	濠州
三、四八〇	三、二二三	二、五〇二	二、五〇二	五、四三三	四、四〇〇	四、四〇〇
一、〇五〇	一、〇四〇	六三二	五五八	四〇〇	三〇〇	二六三
二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三	二五、六八三

大正十四年度に於いて開設された世界主要航路並に東洋近海諸航路を左に略記する

◆十四年度開設新航路

川崎汽船 新嘉坡紐育 同貨物

神戶桑港 同貨物

新嘉坡紐育 同貨物

大正十四年度に於いて開設された世界主要航路並に東洋近海諸航路を左に略記する

◆十四年度開設新航路

川崎汽船 新嘉坡紐育 同貨物

神戶桑港 同貨物

新嘉坡紐育 同貨物

大正十四年度に於いて開設された世界主要航路並に東洋近海諸航路を左に略記する

◆十四年度開設新航路

川崎汽船 新嘉坡紐育 同貨物

神戶桑港 同貨物

新嘉坡紐育 同貨物

大正十四年度に於いて開設された世界主要航路並に東洋近海諸航路を左に略記する

◆十四年度開設新航路

川崎汽船 新嘉坡紐育 同貨物

神戶桑港 同貨物

新嘉坡紐育 同貨物

大正十四年度に於いて開設された世界主要航路並に東洋近海諸航路を左に略記する

◆十四年度開設新航路

川崎汽船 新嘉坡紐育 同貨物

神戶桑港 同貨物

新嘉坡紐育 同貨物

芝浦眞岡線 月約四
 鋼路線 月三
 小笠原線 (每月一) 一
 神戶小樽線 (乃至二) 一〇
 門司小樽線 每月八 二
 東京小樽線 月約四 四
 橫濱太線 每月一又三 一
 函館太線(冬期) 每月六 二
 小樽太線 每月三 一
 小樽惠須取亞港線 每月三 一
 大泊太東海岸線 月三 一
 函館千島網走線(冬期) 每月三 一
 根室止

△歐洲線 每月一
 △大阪商船
 一 函館、小樽、大泊、眞岡(本斗へ夏期毎月二回寄港)
 二 小樽、大泊、眞岡
 三 小樽、眞岡、泊居、惠須取安別、亞港
 四 大泊、富内、榮濱、東白浦、馬群丹、元泊、東和取、敷香

△往航橫濱、神戸、大連、上海、香港、新嘉坡、古倫母、亞丁、坡蘇丹、蘇士、坡西土、倫敦、安土府、ロツテルダム、漢堡、武烈面、復航漢堡、ロツテルダム、安土府、坡西土、蘇士、新嘉坡、香港、上海、大連、神戸、大阪、橫濱

△亞米利加航路
 ビューゼット線(北米) 二週一 六
 サウソフ線 每月一 六
 紐育線 每月一 六
 南米線 年一〇 六
 △印度航路
 孟買線 每月二 六
 阿弗利加線 每月一 四
 日本甲谷陀線 每月一 三
 △濠洲航路

往航上海、神戸、四日市、清水、橫濱、ビクトリア、シアトル、タコマ、復航タコマ、シアトル、ビクトリア、橫濱、神戸、大阪、門司、大連、太沽、青島、上海
 往航上海、太沽、神戸、四日市、橫濱、桑港、ロスアンゼルス、バルボア、クリストバル、紐育
 復航紐育、バルボア、クリストバル、桑港、橫濱、神戸、門司、上海、香港、往航神戸、四日市、橫濱、神戸、長崎、香港、西貢、新嘉坡、古倫母、ダーバン、ポートエリザベス、ケープタウン、リオデジャネーロ、サンクトス、モンテビデオ、ベノスアイレス
 復航ベノスアイレス、サンクトス、リオデジャネーロ、ニューオリンス、ガルベストン、クリストバル、ロスアンゼルス、橫濱、神戸
 往航橫濱、名古屋、四日市、大阪、神戸、門司、香港、新嘉坡、彼南、古倫母、孟買
 復航孟買、新嘉坡、香港、上海、門司、神戸、大阪、四日市、名古屋、橫濱
 往航神戸、門司、香港、新嘉坡、古倫母、モンバサ、サンジバル、タレサラム、ベイラ、テラゴア、ベイ、ダーバン
 復航ダーバン、モンバサ、新嘉坡、門司、神戸
 橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、香港、新嘉坡、彼南、蘭頁、甲谷陀

大島各島線	鹿兒島那霸線	大阪那霸線	大阪沖繩線	那霸基州線	東京九州△內航	大阪清津線	大阪安東線	大阪仁川△朝航	浦鹽直航線	高天津線	高雄連線	高雄東線	基隆香港線
每月六	每月十	每月五	每月五	每月四	每月四	每月三	每月二	每月一	每週一	每月三	每月二	二週一	一週一
二	二	二	三	二	二	路	二	三	六	路	一	路	二

基隆、厦門、汕頭、香港
 高雄、厦門、汕頭、香港、廣東
 橫濱、名古屋、大阪、神戶、門司、大連
 高雄、基隆、福州、上海、青島、大連、天津
 敦賀、浦鹽
 大阪、神戶、門司、釜山、木浦、群山、仁川
 大阪、神戶、門司、釜山、木浦、群山、仁川、南浦、安東縣
 大阪、神戶、宇品、門司、釜山、元山、城津、清津、雄基
 芝浦、橫濱、門司、長崎、三角、芝浦
 那霸、宮古、八重山、西表、基隆
 大阪、神戶、油津、名瀨、那霸、鹿兒島
 大阪、神戶、名瀨、那霸
 鹿兒島、大島、那霸
 鹿兒島、名瀨、喜界島、古仁屋、徳ノ島、沖永良部島

基隆福州線	大阪天津線	大阪青島線	大阪大連線	沿臺岸線	臺灣西線	橫濱高雄線	神戶基隆線	日本盤谷線	基隆海防線	南洋自由線	南洋命令線	濠洲線
每月四	每月六	每月二	每週二	每週二	那航	每月三	每月六	每月一	每月二	每月四	每月一	每月一
一	三	一	四	路	一	二	二	三	路	二	二	三

往航橫濱、名古屋、神戶、門司、馬尼刺、波特蘭、普里斯本、シドニー、メルボルン、シドニー、プリスマンセブ、神戶、大阪、橫濱
 復航メルボルン、シドニー、プリスマンセブ、神戶、大阪、橫濱
 橫濱、名古屋、大阪、神戶、門司、基隆、マニラ、サンダカン、香港、高雄、基隆、內地
 ラバヤ、復航クリスマス、マカツサ、サンダカン、香港、高雄、基隆、內地
 橫濱、名古屋、大阪、神戶、門司、基隆、香港、西貢、盤谷、高雄、基隆、內地
 基隆、厦門、汕頭、香港、廣東、海口、北海、海防
 橫濱、名古屋、大阪、神戶、基隆、(高雄)、香港、西貢、盤谷
 神戶、門司、基隆
 橫濱、大阪、神戶、宇品、門司、長崎、基隆、馬公、安平、高雄
 基隆、蘇澳、花蓮港、臺東、海口、高雄
 基隆、馬港、高雄、高雄、馬港間往復
 大阪、神戶、(宇品)門司、大連
 大阪、神戶、宇品、門司、青島
 大阪、神戶、門司、天津
 基隆、厦門、福州

大阪 鹿兒島線 隔日一 三
 大阪 高松直航線 每日一 一
 大阪 山陽線 每日一 四
 宇品別府線 每日一 一
 四國大阪若松線 乙便每奇數日一六
 經過大阪若松線 甲便每偶數日一六
 大阪 別府線 每日一 二
 大阪 細島線 每日一 五
 大阪 四國線 每日一 五
 大阪 十島線 每日一 一
 大阪 高知線 每日一 二
 大阪 須崎線 每月二 一
 大阪 宇和島線 每日一 二
 大阪 小松島線 每日一 四
 大阪 德島線 每日一 二
 大阪 勝浦急行線 每日一 二
 大阪 名古屋線 每日一 五

神戸、高濱、土々呂、内海、油津、福島、波見、鹿兒島
 大阪、神戸、高松
 大阪、神戸、四國及山陽各港經由門司、下關
 宮島、柳井津、鶴川、大分
 大阪、神戸、四國各港經由門司、若松
 大阪、神戸、四國各港經由門司、若松
 神戸、高松、高濱、大分、別府
 大阪、神戸、四國各港經由細島
 大阪、神戸、四國九州各港經由宇和島、宿毛
 鹿兒島、登名島經由名瀨
 大阪、神戸、高知
 大阪、神戸、須崎
 別府、宇和島
 大阪、神戸、小松島
 大阪、兵庫、德島
 大阪、紀州各港經由勝浦
 大阪、神戸、紀、勢各港經由四日市、名古屋

△東洋汽船

南米航路 西岸線 二日二 三
 新嘉坡 桑港線 (臨時) 二
 瓜哇 航路 月一回 一

(香港、マニラ、基隆、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、巴奈馬、サリナク
 ルス、カイヤカ、イキケバル、バティン間
 新嘉坡、香港、日本諸港、布哇、桑港、巴奈馬、ハバナ、ニユーオアルリアン
 ス、紐育間
 大阪、神戸、門司、大速、香港、バタビヤ、サマラン、スラバヤ間

△朝鮮郵船

△近海航路
 元山長崎線(私) 年二四
 大阪清津線 月十五 二
 大阪濟州島線 月二 二
 上海青島釜山仁川線 年一八 一
 長崎朝鮮大連線 年二一 二
 新義州阪神線 年三六 二
 青島大連線(私) 年二七 二
 仁川北支那線 年三〇 二
 清津敦智線 年三〇 二

△東沿岸航路
 元山清津線 年一五
 釜山浦鹽關門線 月三 二
 雄基門司(甲乙)線(令、私) 月三 三
 釜山元山線 月七 三
 釜山道洞線 月四 二
 △南沿岸線
 釜山木浦線(私) 月二 二
 釜山濟州關門線 月四 二
 木浦濟州島線 月二 一